SONY

4-077-276-12 (1)

トリニトロン®
カラーテレビ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や
人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

KV-28DRX7/KV-32DRX7/
KV-36DRX7

目次

この取扱説明書でのBS放送の表記について

BS
従来からのBSアナログ放送（NHK衛星第一／第二、NHKハイビジョン、WOWOW）です。
例：BS放送、BSチャンネル、BSアンテナ、BSチューナー、BSチューナー内蔵ビデオなど

BSデジタル
2000年12月に本放送が開始予定のBSデジタル放送です。
例：BSデジタル放送、BSデジタルチャンネル、BSデジタルチューナーなど

ハイビジョン放送
従来のBS9チャンネル（MUSE方式）の放送です。
BSデジタル放送で行われるデジタルハイビジョン放送（HD放送）ではありません。

見る

テレビ/BS放送を見る 4
画質を選ぶ（お好み画質）........ 6
映像に合ったリアル高画質で見る（DRC-MFモード切換）... 7
節電しながら見る（消費電力）........ 8
ワイド画面を楽しむ 9
　自動でワイド画面にする（オートワイド）........ 9
　手動でワイド画面に切り換える（ワイド切換）........ 10
2画面で見る（2画面）........ 11
　画面サイズを変える（左拡大/右拡大）........ 12
　操作する画面を選ぶ（左操作/右操作）........ 13
チャンネルを一覧表示する（インデックス）........ 15
メモするために画面を静止させる（メモ）........ 17
テレビにつないだ機器の画像を見る 18

調整する／設定する

オートワイドの設定を変える 19
　オートワイドの設定について 19
　オートワイドを設定する/切る 21
画質を調整する 22
音質を調整する 24
音声を切り換える（二重音声）........ 26
画面の上下位置/縦サイズを調整する 27
BS放送を録画/予約録画する（BS固定）........ 28
自動で電源を切る（オフタイマー）........ 30

テレビの接続と準備

付属品を確かめる 31
接続と準備の早わかり 32
手順1：テレビアンテナをつなぐ 34
手順2：BSアンテナをつなぐ 36
手順3：地磁気による画像の傾きなどを補正する 37
手順4：チャンネルを設定する 38
自動設定する 38
手動設定する 40
手順5：BS受信の設定をする 42
BSアンテナ電源を設定する 42
BSアンテナの向きを調整する 44
数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ（10キー選局）......46
ゴーストの少ない画像にする（ゴースト・リダクション）......47

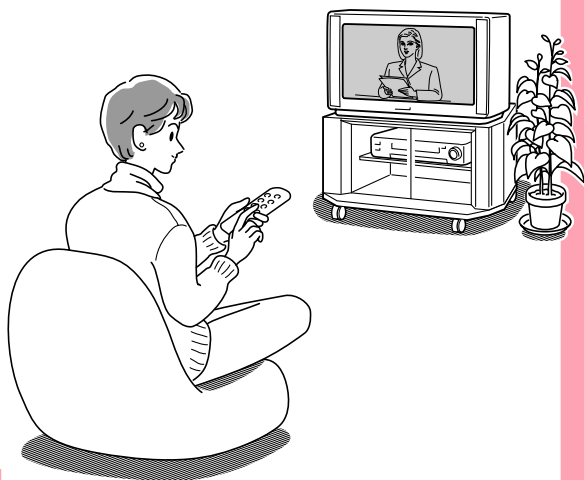
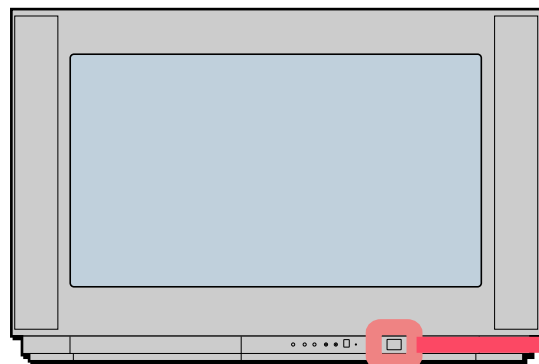
他機との接続

接続端子の名前とはたらき 49
ビデオをつなぐ 52
BSデジタルチューナーをつなぐ 56
デジタルCSチューナーをつなぐ 60
BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ 62
“プレイステーション 2”、“プレイステーション”(PS one)
および“プレイステーション”をつなぐ 64
その他のテレビゲームなどをつなぐ 66
DVDプレーヤーをつなぐ 66
MUSE-NTSCコンバーターをつなぐ 68
MUSEデコーダーをつなぐ 70
オーディオ機器をつなぐ 71

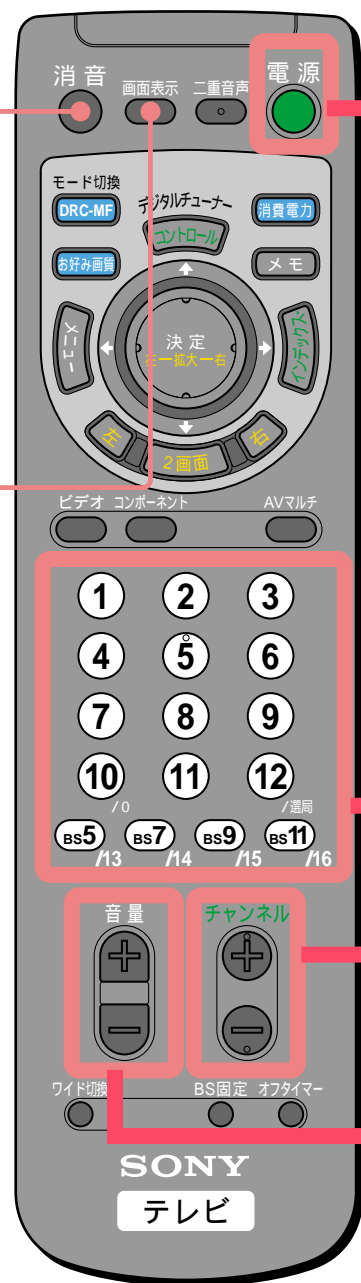
その他

故障かな？と思ったら 72
自己診断表示—画面が消え、スタンバイ/オフタイマーランプが点滅したら ...72
本機の症状と対処のしかた 73
ブラウン管表面のお手入れについて 76
保証書とアフターサービス 76
主な仕様 77
用語集 78
各部の名前/Identifying parts and controls 80
メニュー一覧 82
索引 83

見る

ここでは、通常のテレビやBS放送をはじめ、ビデオやテレビゲームなどテレビにつないだ機器の映像を見るときの操作を説明しています。
画質を選んだり、節電しながら見たり、ワイド画面や2画面・多画面で見たりするなど、多彩な機能の操作も説明しています。

テレビ / BS放送を見る

消音ボタン
一時的に音を消すときに押します。
もう1度押すか、音量＋ボタンを押すと音が出ます。

画面表示ボタン
チャンネル表示を出すときに押します。
もう1度押すと表示は消えます。

チャンネル数字ボタンには、暗い場所でも操作しやすいように、ほのかに青白く光る蓄光材が入っています。そのため、太陽光や明るい照明の下などに約10分間以上置くと光が蓄えられ、暗くなると数時間光り続けます。暗い場所に放置したときは、光りません。

ちょっと一言

- スタンバイ/オフタイマーランプが点灯しているときは、リモコンのチャンネル数字ボタンやチャンネル+/−ボタン、インデックスボタン、デジタルチューナー・コントロールボタンを押すと自動的にテレビの電源も入ります。
- 省電力のため、放送終了後、または放送のないチャンネルにしたままの状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて自動的にスタンバイモードになります。放送局の信号によっては「オートシャットオフ」機能が働かないこともあります。

1 テレビの電源を入れる。

地磁気*などの影響を取り除く自動消磁機能により「ブーン」という音がして、きれいに安定させた画像が約10秒前後で映ります。

* 地球が一つの大きな磁石となって発生する磁場で、方位磁石が南北を示すのも地磁気によるものです。色むらの原因になることがあります。

スタンバイ/オフタイマー

スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは
リモコンの電源スイッチを押す。

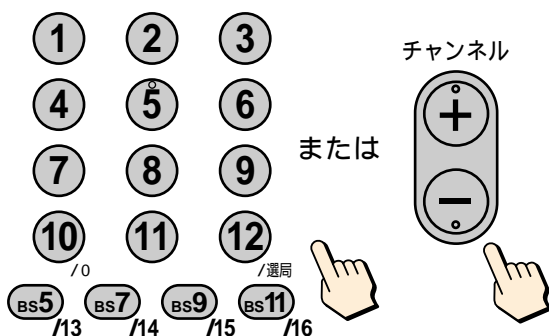
電源

スタンバイ/オフタイマー

スタンバイ/オフタイマーランプが消えているときは
テレビ本体の電源スイッチを押す。

電　源

2 チャンネル数字ボタンでチャンネルを選ぶ。

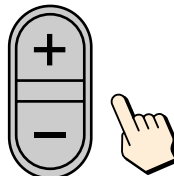
チャンネル+/−ボタンでもチャンネルを選べます。

BS放送は以下のチャンネルになります。

見たい放送	押すボタン
WOWOW（BS5）*1	BS5 /13
NHK衛星第一（BS7）	BS7 /14
ハイビジョン放送（BS9）*2	BS9 /15
NHK衛星第二（BS11）	BS11 /16

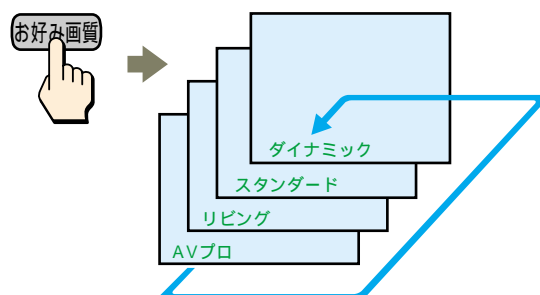
*1 BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れてください。なお、WOWOWは、別途WOWOWと受信契約し、専用のBSデコーダー（WOWOW）が必要です。

*2 BS9ボタンを押してハイビジョン放送を見るには、別売りのMUSE-NTSCコンバーターが必要です（☞68ページ）。通常のテレビ放送（NTSC）と同じ画質で、見ることができます。2000年4月現在、BS9チャンネルで実用化試験局によるハイビジョン放送が行われています。

3 音量+/−ボタンで音量を調節する。

ちょっと一言
音量表示の横にある数値も調節の目安になります。

画質を選ぶ
（お好み画質）

お好み画質ボタンを押すだけで、部屋の明るさや映像の内容に合わせた画質設定を選べます。また、「リビング」や「AVプロ」を選ぶと、画質をより細かく調整できます（☞22ページ）。
ご家庭で通常ご覧になるときは、「リビング」を選ぶことをおすすめします。

お好み画質ボタンをくり返し押す。
1回押すと、現在の画質設定が表示されます。その後、押すたびに、次のように変わります。

ダイナミック
映像の輪郭とコントラストを最大限に上げたメリハリの非常に強い画質になります。

スタンダード
明るめの部屋に合わせたコントラスト感のある画質になります。

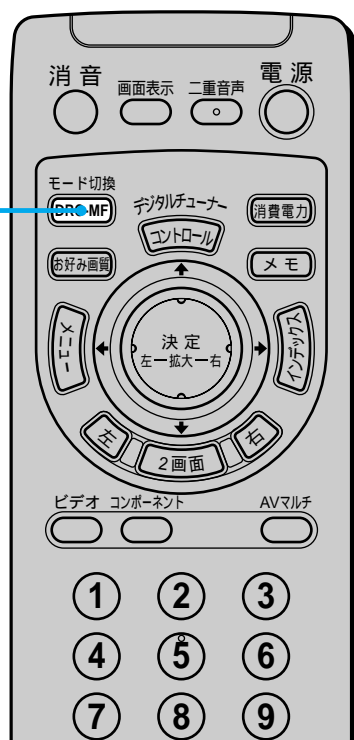
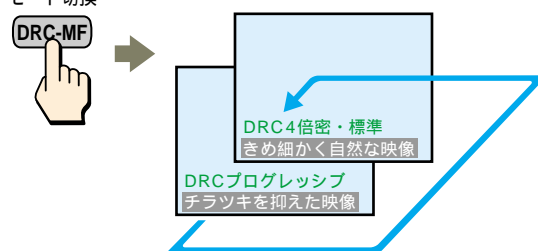
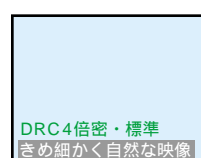
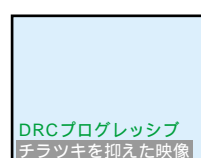
リビング
明るさや色あい、色の濃さなど基本的な調整ができます（☞22ページ）。「標準」では、標準的な部屋の明るさに合わせた適度なコントラストのある画質になります。

AVプロ
色温度や黒補正など、よりきめ細かな調整ができます（☞22ページ）。「標準」では、コントラストと輪郭強調を抑えて、オリジナルにできるかぎり忠実な、DRC（☞7ページ）の性能をより引き出した画質になります。

映像に合ったリアル高画質で見る
（DRC-MFモード切換）

本機搭載の高画質回路「DRC-MF」（デジタル・リアリティー・クリエーション:マルチファンクション）で、大画面で気になる画像の粗さをなくし、きめ細かくて質感のあるリアルな画像を楽しめます。
通常ご覧になるときは、お買い上げ時の設定であるDRC4倍密（標準）モードのまま、お楽しみください。よりきめ細かく自然な映像をお楽しみいただけます。静止画の文字などのチラツキが気になるときは、DRCプログレッシブモードに切り換えてください。

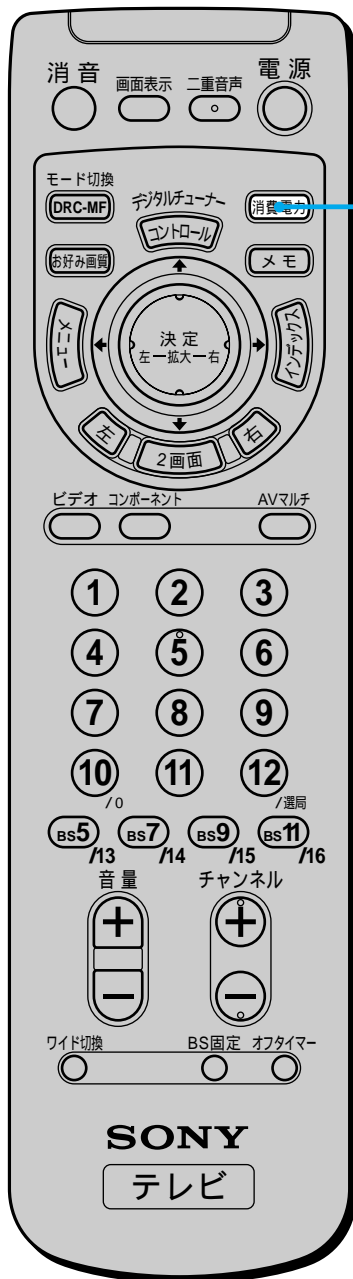
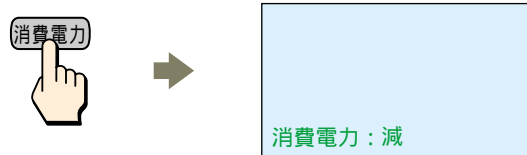
DRC4倍密（標準）モード
通常のNTSC映像を4倍の情報量で映し出し、きめ細かく自然な映像にします。

DRCプログレッシブモード
順次走査（プログレッシブ）を行い、チラツキを抑えた映像にします。

DRC-MFモード切換ボタンをくり返し押す。

この画像のときは	この画面表示を選ぶ
テレビやBS放送、ビデオなどの一般的な映像を見るとき	
静止画の文字やグラフィックス、細かい横線などが多い映像で、部分的な映像の揺れやチラツキが気になるとき	

ちょっと一言
メニュー画面でも操作できます。メニュー画面の「（画質/音質）」から、「DRC-MF」を選び、「DRC4倍密・標準」か「DRCプログレッシブ」を選んでください。

ご注意
- コンポーネント1、2（D3映像）入力端子、およびAVマルチ入力端子につないだ機器の映像信号によっては、DRC-MFモード切換ボタンが働かないことがあります。
- 以下のときは、DRC-MFモード切換ボタンは働きません。
  ー2画面
  ーインデックス画面
  ーメモ画面
  ーコンポーネント1、2（D3映像）入力端子につないだ機器から525p（525プログレッシブ）や1125i（1125インターレース）の信号を受信しているとき

映像がざらついて見えるときは
受信信号の状態が良くないときに、ざらついて見えることがあります。お好み画質ボタンを押して「リビング」または「AVプロ」を選んでから、画質調整のメニュー画面で「シャープネス」を弱めてください（☞22ページ）。

節電しながら見る
（消費電力）

画面の明るさを下げて、節電しながら見ることができます。

消費電力ボタンを押す。
節電中になります。

節電をやめるには
もう1度、消費電力ボタンを押す。
「消費電力:標準」と表示されます。

ちょっと一言
- 「消費電力:減」のときに電源を切ると、次に電源を入れたときも「消費電力:減」のままになります。
- メニュー画面でも操作できます。メニュー画面の「（各種切換）」から、「消費電力」を選び、「標準」か「減」を選んでください。
- お好み画質で「リビング」または「AVプロ」を選んでいるときは、「消費電力:減」でも、画質を調整できます（☞22ページ）。ただし、「ピクチャー」や「明るさ」を上げると節電にならなくなる場合があるため、おすすめしません。

ワイド画面を楽しむ

自動でワイド画面にする（オートワイド）

通常のテレビ放送も、ワイドクリアビジョン放送や映画など横長サイズの映像も、下のイラストのように、本機が最適な画面モードを選び、横縦比16:9のワイド画面いっぱいに自動的に拡大します。これをオートワイド機能と言います。下の例では、お買い上げ時の設定*を示しています。

* お買い上げ時は、オートワイドの「2」で、「4:3映像」が「ワイドズーム」に設定されています（☞19ページ）。

オリジナルの映像（映像の種類） ／ **画面モード** ／ **オートワイドの映像**

- **通常のテレビやBS放送（画面横縦比4:3）**

違和感少なく画面いっぱいに拡大します。

- **ワイドクリアビジョン放送（横縦比16:9）**
- **ビスタビジョンなど映像中に字幕が入った横長の映画（横縦比1.85:1）**
- **横縦比情報の入ったDVDソフトの映像（ID-1方式）**

画面の左右に合わせていっぱいに拡大します。（映像の種類によって、上下に黒い帯が残ることがあります。）

- **シネマビジョンなど映像の外に字幕のある横長の映画（横縦比2.35:1）**

画面の左右に合わせていっぱいに拡大しながら、字幕部分だけを圧縮して画面に入れます。

- **横縦比情報の入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像（ID-1方式やS1方式）**

天地はそのままで、左右を画面いっぱいに引き伸ばします。

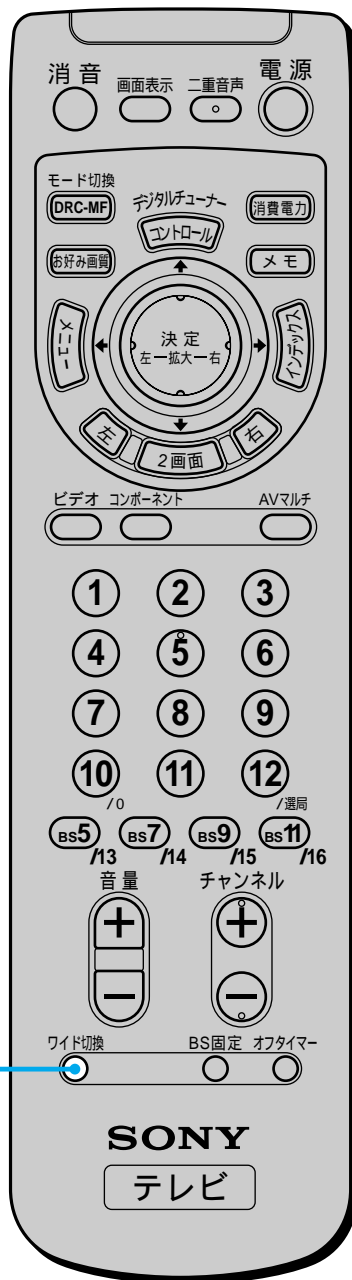
- **オートワイドの「2」で、「4:3映像」を「ノーマル」（お買い上げ時は「ワイドズーム」）に設定したとき（☞19〜21ページ）**

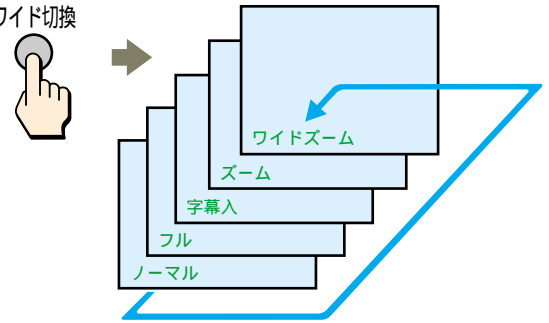
拡大せずに、横縦比4:3のままの映像になります。

次のページにつづく

ワイド画面を楽しむ（つづき）

手動でワイド画面に切り換える（ワイド切換）

オートワイド機能とは別に好きな画面モードを手動でも選べます。また、電波の受信状態が悪いときや暗い映像のときは、オートワイドが正しく働かないことがあります。このときも、手動で画面モードを切り換えてください。

ワイド切換ボタンをくり返し押す。

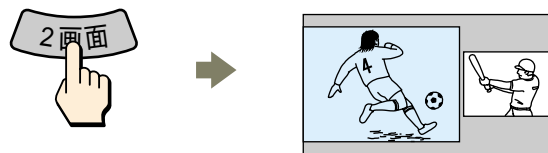
1回押すと、映像のサイズや種類に応じて、本機が最適な画面モードをすばやく選んで表示します*。その後、押すたびに、次のように画面モードが変わります。画面モードの詳しい説明については、☞9ページをご覧ください。

* オートワイド「2」で、「4:3映像」を「ノーマル」に設定しているとき（☞21ページ）は、ワイド画面にならないで、画面横縦比4:3の映像のまま（「ノーマル」のまま）になります。

ちょっと一言
手動でワイド画面を楽しむときは、あらかじめ、オートワイドを切っておいてください（☞21ページ）。

2画面で見る（2画面）

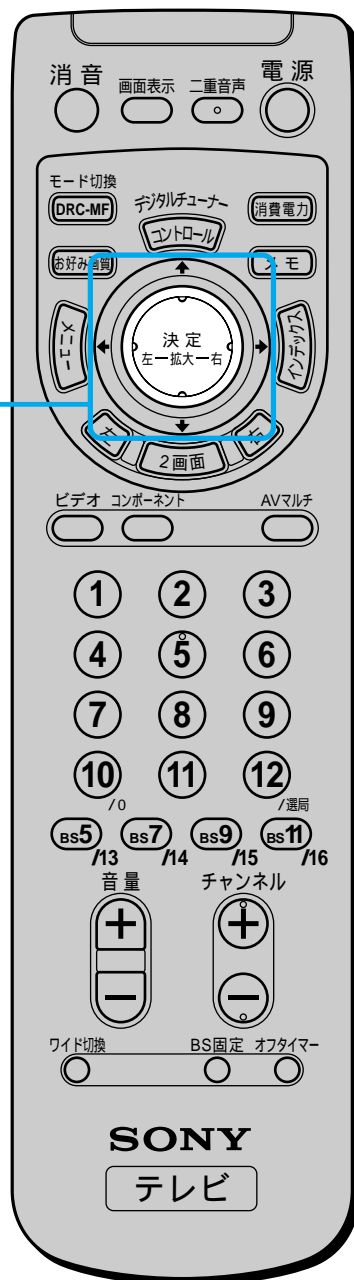
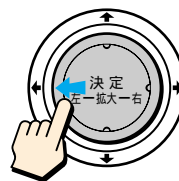
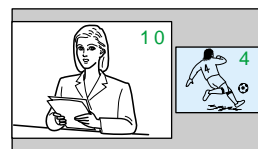
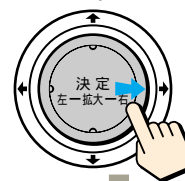
左右の画面サイズを変えて、2つのチャンネルを同時に見ることができます。また、通常のテレビやBS放送と、テレビにつないだビデオなどの画像も同時に見ることができます。

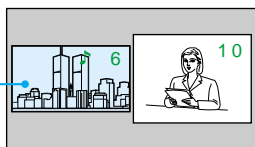
2画面ボタンを押す。

もう1度押すと、1画面に戻ります。

ご注意

- 次の画像は、2画面で同時に見ることができません。
  - 同じテレビ（VHF/UHF）チャンネル
  - 同じまたは別々のBSチャンネル（BSチューナー内蔵ビデオでBS放送を受信し、その画像を本機のビデオ入力に選べば、表示できます。）
  - 同じ入力の画像（ビデオ1とビデオ1など）
  - コンポーネント入力同士の画像の組み合わせ
  - コンポーネント入力とAVマルチ入力の画像の組み合わせ
- コンポーネント入力端子とAVマルチ入力端子からの映像は左画面にのみ表示されます。

次のページにつづく

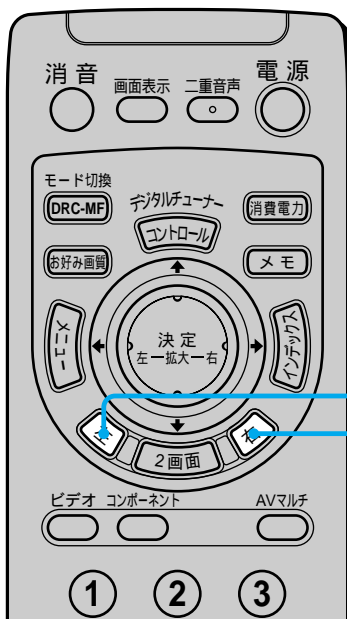
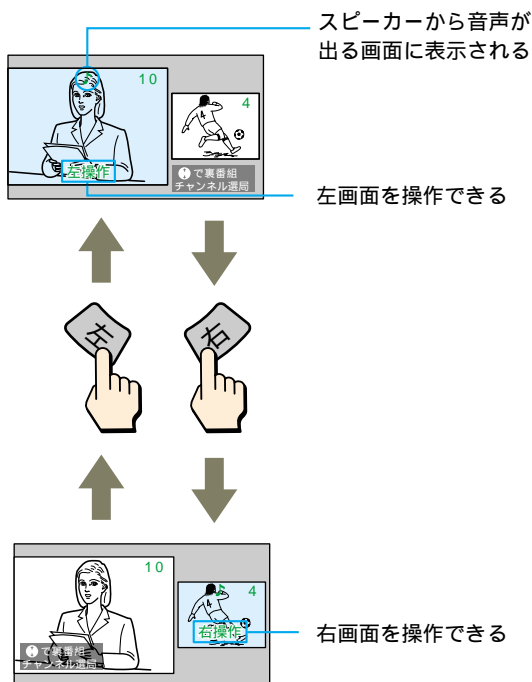
画面サイズを変える（左拡大/右拡大）

大きくする側に←/→を押し続け、希望のサイズになったら指を離す。

ご注意

- 2画面の映像は録画できません。BS/ビデオ出力端子からは、通常は左画面の映像/音声を出力します。BS固定時（☞28ページ）は、固定したBSチャンネルの映像/音声を出力します。ただし、コンポーネント入力端子につないだ機器の画像は、常に出力しません。また、お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の画像は、出力しない設定になっています（☞53ページ）。
- 操作画面（ヘッドホンモード「1」のとき）またはスピーカーから音声が出ている画面（ヘッドホンモード「2」のとき）で放送が終了すると、自動的に消音します。1画面に戻してから、終了していないチャンネルを選ぶと音が出ます。また、省電力のため、操作画面で放送が終了して（または放送のないチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイモードになります。
- 2画面のまま電源を切り、再び電源を入れると1画面に戻ります。
- 2画面では、オートワイド機能は働きません。ただし識別制御信号のある画像は判別してワイド画像のまま表示されます。

- 2画面は、左右それぞれ別々の回路で信号処理しています。そのため、映像や音質など左右画面の間に多少の差があります。

ちょっと一言

左右の画面サイズを変えたときは、その大きさを本体が記憶するため、再び2画面にしたときに、その大きさで表示します。

操作する画面を選ぶ（左操作/右操作）

チャンネルや入力を選んだり、音量を調節できる画面（操作画面）を選びます。
2画面を表示した直後は、左画面が操作画面になっています。また、操作画面の音声がスピーカーから出ます（ヘッドホンの音声は☞14ページ）。

操作したい側のボタン（左・右ボタン）を押す。

次のページにつづく

2画面で見る（つづき）

2画面でチャンネルを選ぶには

どちらの画面もそれぞれ別々にチャンネルを選べます。

チャンネルを切り換えたい画面	押すボタン
操作画面（「左操作」または「右操作」と表示される画面）	または
操作画面でない画面	

ちょっと一言
メニュー画面でも操作できます。メニュー画面の「(2画面)」から、「操作入替」を選び、「左操作」か「右操作」を選んでください。

ヘッドホンの音声を選ぶには

スピーカーから音声を出さずにヘッドホンで聞いたり、ヘッドホンとスピーカーで左右画面の音声を別々に出したりできます。ヘッドホンモードを設定してください。

ヘッドホンモード「1」にすると

操作画面の音声がヘッドホンから聞こえます。スピーカーからは音声は出ません。
左・右ボタンを押すと、ヘッドホンの音声も切り換わります。

ヘッドホンモード「2」にすると

ヘッドホンとスピーカーから左右それぞれの画面の音声が別々に出ます。
設定後は、左・右ボタンを押して操作画面を切り換えても、ヘッドホンの音声は切り換わりません。

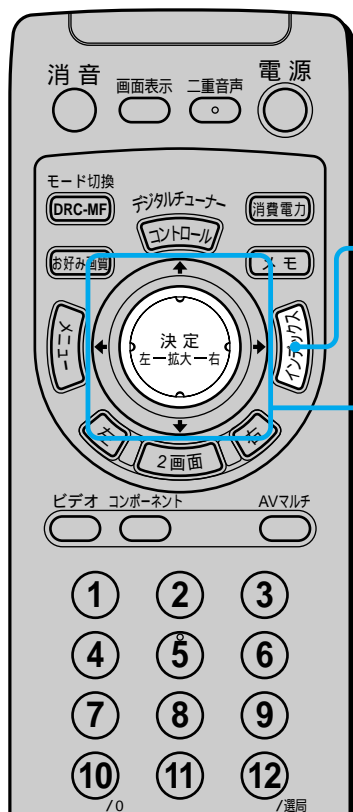
1. **ヘッドホンモードを「2」に設定するときは、左・右ボタンを押して、スピーカーで音声を聞く画面を選ぶ。**
   （「1」に設定するときは、この操作は不要です。）
2. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
3. **↑/↓で「(2画面)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
4. **↑/↓で「ヘッドホンモード」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
5. **↑/↓で「1」または「2」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
   「2」を選んだときは、ヘッドホンからはスピーカーとは逆の画面の音声が出ます。
6. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言
ヘッドホンを抜くと、「ヘッドホンモード」の設定によって、次の音声がスピーカーから出ます。
–「1」のとき:ヘッドホンで聞いていた音声
–「2」のとき:そのままのスピーカーの音声

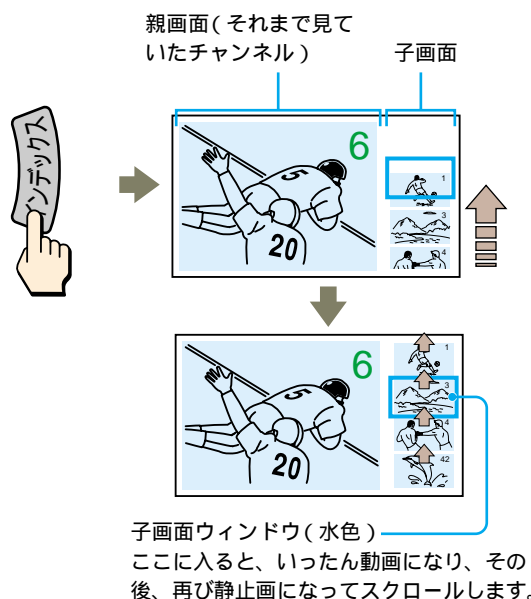
チャンネルを一覧表示する（インデックス）

見ているチャンネルを高画質で大きく表示したまま、あらかじめ受信設定したすべてのチャンネルが下から上へ（または上から下へ）順々にゆっくり動いて表示されます（スクロール表示）。スクロールしている小さい画面から、見たいチャンネルを選べます。番組内容のチェックやチャンネル選びが、よりスムーズに楽しくできます。

ご注意
インデックスボタンを押す前に、チャンネルを設定しておいてください（☞38ページ）。受信設定されたチャンネルのみがインデックス画面に出るためです。

ちょっと一言
スタンバイ/オフタイマーランプ点灯中にインデックスボタンを押すと、電源が入り、インデックス画面が表示されます。見たい番組が決まっていないときに便利です。

1 インデックスボタンを押す。

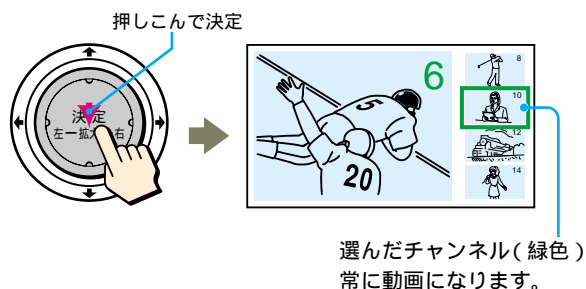
見ていたチャンネルが左側に表示され、右側に受信設定されているチャンネルが自動的に下から上にスクロールして表示されます。

子画面ウィンドウ（水色）
ここに入ると、いったん動画になり、その後、再び静止画になってスクロールします。

スクロールの向きを上から下に変えるには
↓を押します。

すばやくスクロールするには
↑/↓を押したままにします。

2 見たいチャンネルが子画面ウィンドウに入ったら、真ん中を押しこんで決定する。

子画面ウィンドウの枠が水色から緑色に変わり、スクロールが止まります。

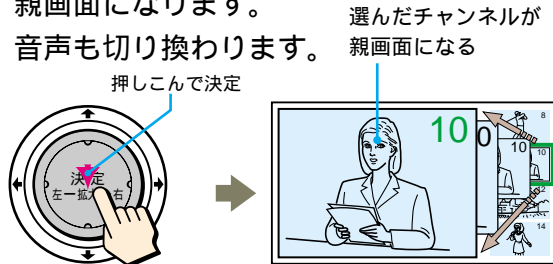
選んだチャンネル（緑色）
常に動画になります。

再びスクロールしたいときは、↑/↓を押します。

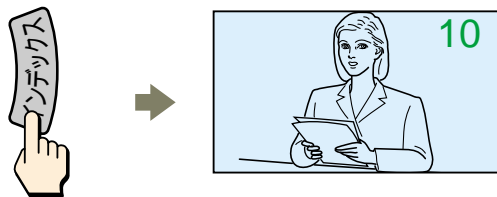
次のページにつづく

チャンネルを一覧表示する（つづき）

3 選んだ子画面ウインドウのチャンネルを親画面で見たいときは、もう1度真ん中を押しこんで決定する。

選んだチャンネルがズームアップして、親画面になります。
音声も切り換わります。

選んだチャンネルが
親画面になる

4 インデックスボタンを押す。

1画面になります。

途中でインデックス画面を消すときは

インデックスボタンを押すと、そのとき親画面で見ていたチャンネルの1画面になります。

ご注意

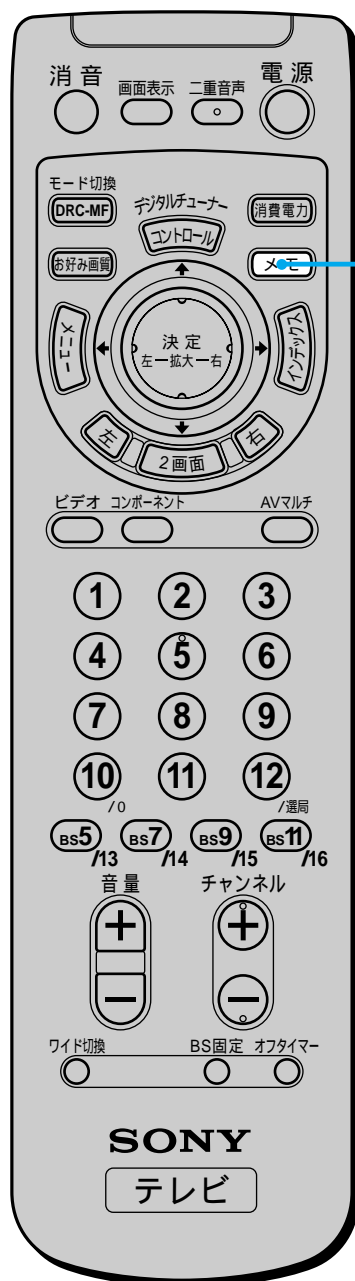
- 子画面ウィンドウの枠の色（水色・緑色）は、「色あい」や「ピクチャー」を調節すると、色が変わって見えます。
- インデックス画面は録画できません。BS/ビデオ出力端子からは親画面の映像/音声のみ出力されます。
- インデックス画面表示中に、チャンネルを選んだり、入力を切り換えたりすると、親画面がそのチャンネルまたは入力になります。
- 子画面ウィンドウが緑色のときは、子画面ウィンドウに入っているチャンネル以外は、更新されません。
- 2画面のときにインデックスボタンを押すと、操作画面が親画面になります。ただし、「ヘッドホンモード」が「2」で（☞14ページ）、ヘッドホンをつないでいると、スピーカーから音声が出ている画面が親画面になります。また、途中でインデックスボタンを押すと、2画面に再び戻ります。
- 親画面で放送が終了すると、省電力のため、約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイモードになります。

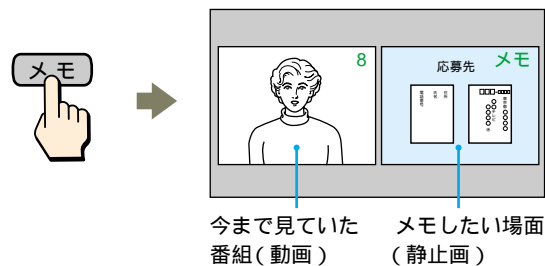
BSチャンネルについてのご注意

- BS固定時（☞28ページ）は固定されたBSチャンネルのみインデックス画面に表示されます。BS固定しておかないと、BS/ビデオ出力端子からの信号を録画中に、インデックス画面の操作をすると、出力される信号が切り換わることがあります。
- 親画面にBSチャンネルが映っているときは、BSチャンネルはそのチャンネルのみが、子画面にスクロール表示されます。
- 子画面ウィンドウが緑色で子画面ウィンドウにBSチャンネルが入っているときは、チャンネル+/–ボタンやチャンネル数字ボタンで他のBSチャンネルを選ぼうとしても、親画面は選ぼうとしたBSチャンネルには切り換わりません。
- 子画面ウィンドウが水色で子画面にBSチャンネルが映っているときに、他のBSチャンネルを選んで親画面にすると、子画面に残ったBSチャンネルは子画面ウィンドウに入っても、静止画のままになります。
- WOWOWはスクランブルがかかったまま表示されることがあります。

メモするために画面を静止させる

（メモ）

視聴者プレゼントの応募先や料理の材料など、メモしたい場面を静止画で確認できます。同時に今まで見ていた番組もお楽しみいただけます。

メモしたい場面で、メモボタンを押す。

2画面になり、メモしたい場面が右に出ます。もう1度押すと、1画面に戻ります。

ご注意

- 2画面やインデックス画面を見ているときは、メモはできません。
- メモ中に、チャンネルや入力を切り換えると、1画面に戻ります。
- 省電力のため、左の通常画面で放送が終了して（または放送のないチャンネルにしたまま）約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイモードになります。

テレビにつないだ機器の画像を見る

入力を切り換えて、テレビにつないだビデオ機器やBSデジタルチューナー、デジタルCSチューナー、テレビゲームなどの画像を見ることができます。接続のしかたについては、☞52～71ページをご覧ください。

1 入力切換用のボタンを押して、見たい画面を選ぶ。

各ボタンを押すたびに、それぞれの端子につないだ機器の画像に切り換わります。

押すたびに	以下につないだ機器の画像になります。	画面表示も変わります。
ビデオ	• ビデオ1入力端子	ビデオ1*2
	• ビデオ2入力端子	↓ ビデオ2*2
	• ビデオ3入力端子	↓ ビデオ3*2
	• BSデコーダー/ビデオ4入力端子*1	↓ ビデオ4
コンポーネント	• コンポーネント1入力端子	コンポーネント1（D端子）
	• コンポーネント2入力端子	↓ コンポーネント2（D端子）
AVマルチ	• AVマルチ入力端子	AVマルチ

*1 お買い上げ時は、ビデオ4入力は選べない設定になっています。BSデコーダー/ビデオ4入力端子にビデオ機器などをつなぎ、「デコーダー/ビデオ」の設定を「ビデオ4」に変えると選べます（☞53ページ）。

*2 S1映像端子につないでいるときは、「Sビデオ1」～「Sビデオ3」と表示されます。

2 接続している機器を操作する。

詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ画面に戻すときは

チャンネル数字ボタンまたはチャンネル+/−ボタンを押す。

ちょっと一言

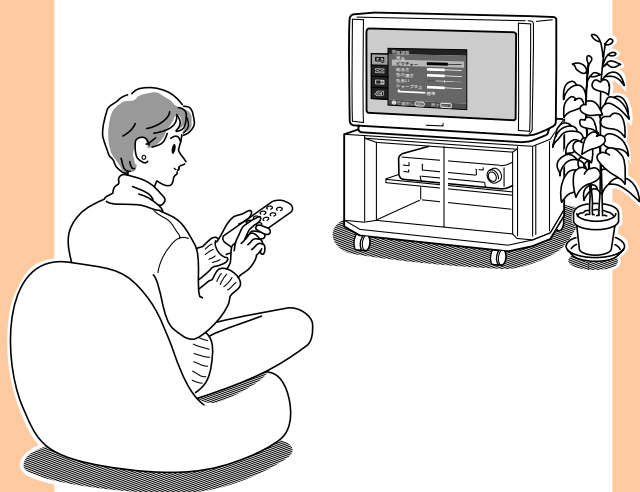
本体の入力切換ボタンをくり返し押しても、入力を切り換えられます。

リモコンのデジタルチューナー・コントロールボタンを押すと、コンポーネント1入力端子につないだデジタルチューナーの画像にも切り換えられます。

ご注意

AVマルチ入力端子に“プレイステーション 2”をつないでいるときに、AVマルチボタンを押しても、画像が出ないことがあります。このときは、“プレイステーション 2”側で、コンポーネント出力の設定を「RGB」にしてください（☞65ページ）。

調整する/設定する

ここでは、画質や音質、および画面の位置やサイズなどを調整する応用的な操作を説明しています。
BS放送をビデオに録画したり、予約録画したりするときの操作も説明しています。
また、本機に内蔵されているタイマーを使って、自動的に電源を切ったりする操作も説明しています。

オートワイドの設定を変える

オートワイドの設定について

オートワイドの設定には、「1」と「2」があります。

オートワイド「1」
テレビ放送では、ワイドクリアビジョン放送や一部の放送局の通常放送（4:3映像）には、映像を判別するための識別制御信号*[1]が、映像信号に重なって送られています。また、ビデオカメラなど一部のビデオ機器でも同様の識別制御信号が出力されています。
このような識別制御信号を判断して、**忠実に再現する**のが、オートワイドの「1」です。ただし、識別制御信号がないときに、手動で選んだ画面モードによっては、画面の周囲が黒くなったり、映像の一部が欠けたりすることがあります。

オートワイド「2」
次ページのように、識別制御信号の有無に関係なく、最適な画面モードに切り換えるのが、オートワイドの「2」です。

お買い上げ時はオートワイドの「2」（「4:3映像」の設定も「ワイドズーム」）に設定されています。

*[1] 識別制御信号とは、オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
－ワイドクリアビジョン放送
－横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS1方式）
－横縦比を4:3にする信号が入ったテレビ放送
－D3入力端子からの横縦比情報の入った映像

映像の種類による「1」と「2」の画面モードの違い

映像の種類	画面モード	
	オートワイド「1」	オートワイド「2」
通常のテレビやBS放送	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2
横縦比を4:3（「ノーマル」）にする信号が入ったテレビ放送*3	「ノーマル」	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2
映像中に字幕が入った横長の映画	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「ズーム」
映像の外に字幕のある横長の映画	ワイド切換ボタンで選んだ画面モード	「字幕入」
ワイドクリアビジョン放送*3	「ズーム」	
横縦比を16:9（「ズーム」または「フル」）にする信号が入ったビデオカメラやDVDプレーヤーなどの映像（ID-1方式やS1方式）*3	「ズーム」または「フル」	
横縦比を4:3（「ノーマル」）にする信号が入ったビデオカメラやDVDプレーヤーなどの映像（ID-1方式やS1方式）*3	「ノーマル」	「ワイドズーム」または「ノーマル」*2

*2 メニューで設定します（☞21ページ）。お買い上げ時は「ワイドズーム」になっています。
*3 識別制御信号（☞19ページ）の入った映像です。

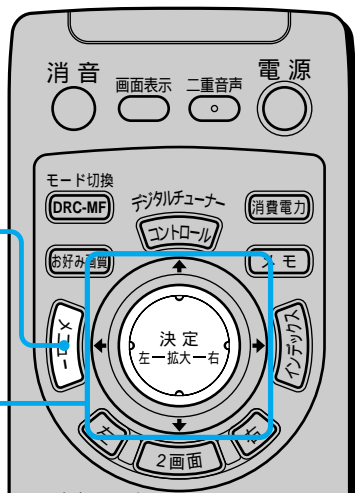
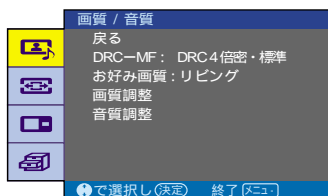
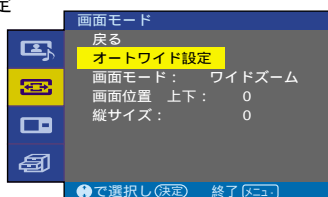
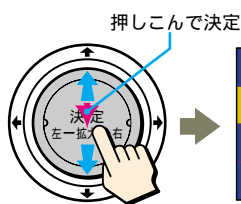
ちょっと一言
- ワイド切換ボタンで切り換えたあと（☞10ページ）などは、表のようにならないことがあります。
- オートワイドが働いているときにワイド切換ボタンを1回押すと（☞10ページ）、上記のオートワイド「1」、「2」にしたがって、オートワイドが働き続けます。
  その後、くり返し押すと、識別制御信号の有無により、次のようになります。
  - 識別制御信号のある映像を受信すると、信号に応じた画面モードに切り換わります。
  - 識別制御信号のない映像のときは、オートワイドを「2」に設定していても、オートワイドが働かなくなります。ただし、チャンネルや入力を変えたり電源を入/切したりすると、再び働きます。

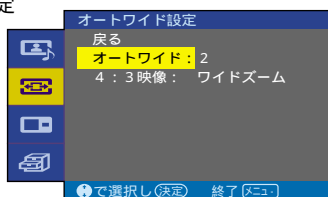
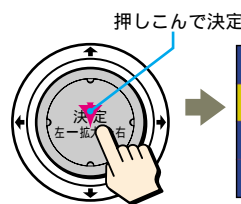
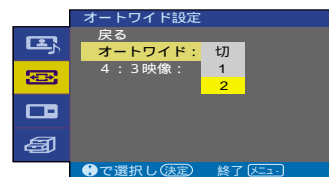
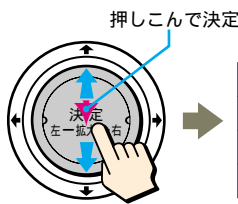
オートワイドのときに画面モードが勝手に切り換わるときは

- 識別制御信号のある画像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになる（☞9ページ）ためです。
- オートワイド「2」のときは、CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適なワイド画面を本機が判断している（☞9ページ）ためです。

ワイド画面についてのご注意
- このテレビは、各種の画面モード切り換え機能を備えています。テレビ番組などソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご留意の上、画面モードをお選びください。
- このテレビを営利目的、または公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどに置き、画面モード切り換え機能等を利用して画面の圧縮や引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。
- ワイド映像でない従来の4:3の映像を、ワイドズームモードを利用してテレビの画面いっぱいに表示してご覧になると、周辺画像が一部見えなくなったり変形して見えたりします。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像はノーマルモードでご覧になれます。
- オリジナル映像のサイズや種類によっては、画面の上下が欠けたり、字幕が入りきらないことがあります。このときは、上下位置や縦サイズを調整してください（☞27ページ）。ただし、画面モードが「フル」と「ノーマル」のときは調整できません。

オートワイドを設定する/切る

オートワイドについての詳しい説明は、☞9ページをご覧ください。

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓で「(画面モード)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 「オートワイド設定」を選んでいることを確認して、真ん中を押しこんで決定する。

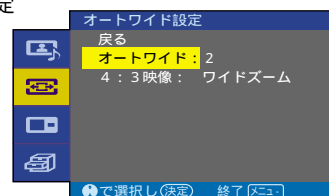
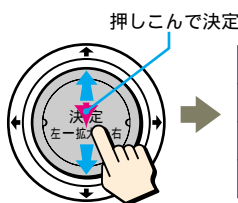
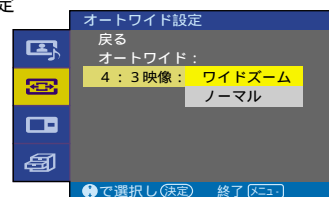
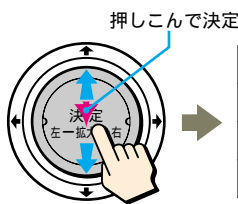
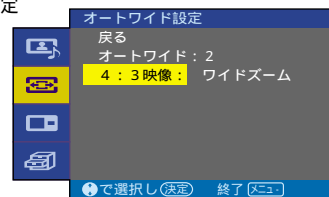
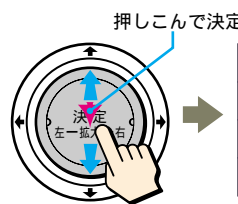
選ばれていないときは、↑/↓で選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「オートワイド」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 **オートワイドを切るときは**

↑/↓で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する（手順8へ進んでください）。

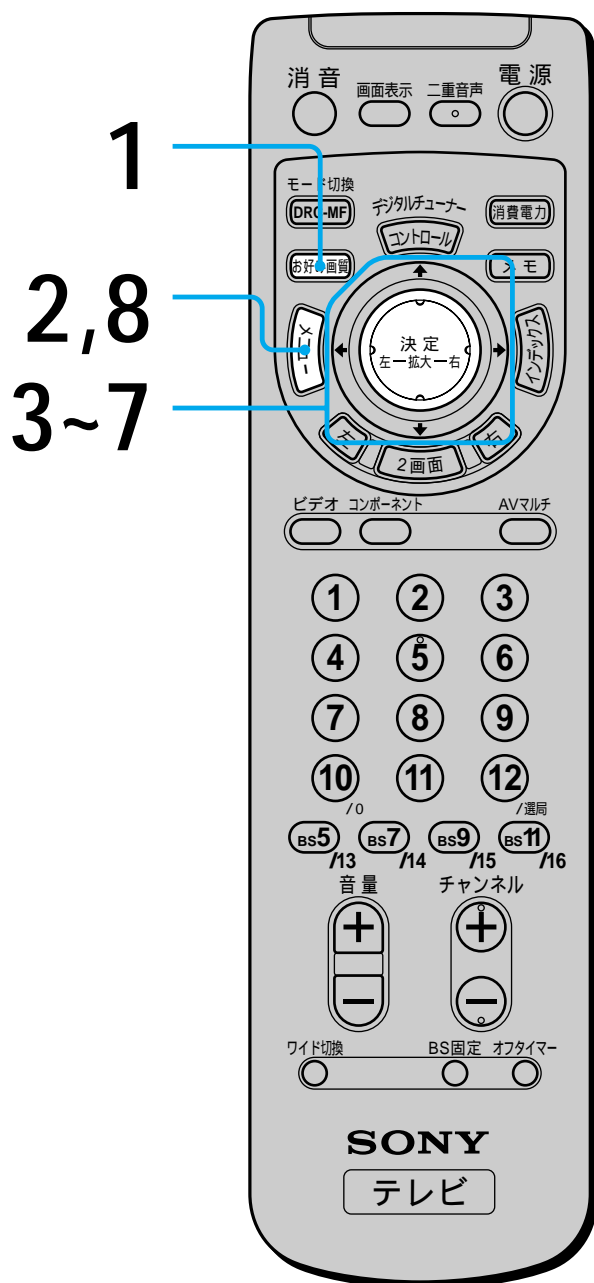
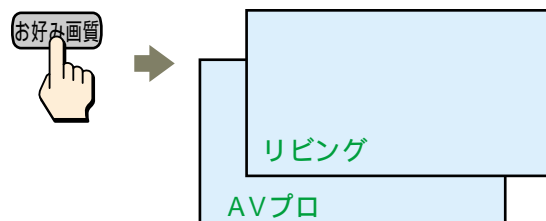
オートワイドを「1」に設定するときは

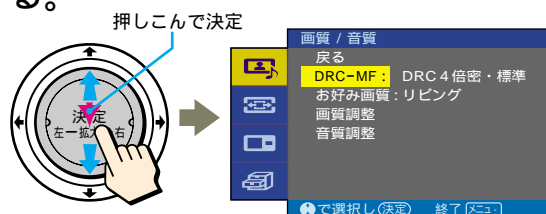
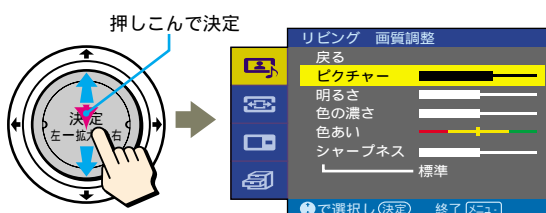
↑/↓で「1」を選び、真ん中を押しこんで決定する（手順8へ進んでください）。

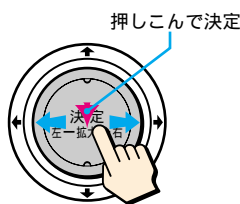
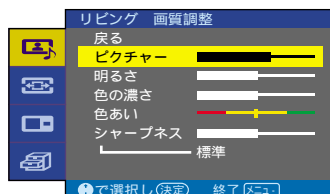
オートワイドを「2」に設定するときは

↑/↓で「2」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 オートワイド「2」のときは、↑/↓で「4:3映像」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

7 ↑/↓で「ノーマル」か「ワイドズーム」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

画質を調整する

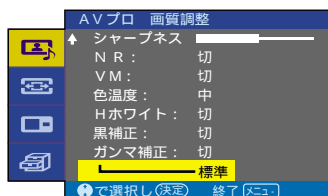
お好み画質ボタンで「リビング」や「AVプロ」を選ぶ（☞6ページ）と、画質をより細かく調整できます。画質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます（ただし、通常のテレビ放送とBS放送は共通の設定になります）。

1 お好み画質ボタンをくり返し押して、「リビング」または「AVプロ」を選ぶ。

2 メニューボタンを押す。

3 ↑/↓で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「画質調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ↑/↓で調整したい項目を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 ←/→で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

「リビング」と「AVプロ」両方で調整できる項目

項目	←を押すと	→を押すと
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする

ちょっと一言
調節バーの横に表示される数値も調節の目安になります。

「AVプロ」でのみ調整できる項目

↓を押し続けて「シャープネス」の下まで移動すると、以下の項目が調整できます。

項目	説明	選べる設定
NR*（ノイズリダクション）	**通常は「入」にしておいてください。**「入」:映像のざらつきや色ノイズを軽減する（ゴーストなど電波障害は軽減されない）。「切」:元の映像信号（処理していないオリジナル信号）の状態を確認するときなどに選ぶ。ただし、映像のざらつきや色ノイズが強調されたり、色にじみが出ることがある。	入/切
VM（ベロシティモジュレーション）（速度変調）	映像の輪郭を強調する。	強/中/弱/切
色温度	「高」から「低」にしていくと赤みがかった暖かみのある色調になる。	高/中/低
Hホワイト（ハイパー）	白の鮮明さを強調する。	入/切
黒補正	黒を強調してコントラストを強くする。	強/中/弱/切
ガンマ補正	映像の明暗部分のバランスを調整する。	強/中/弱/切

* **コンポーネント1（D3映像）、コンポーネント2（D3映像）入力端子、AVマルチ入力端子につないだ機器の映像のときは、調整できません。**
通常のテレビ放送とBS放送、およびビデオ1～3入力端子、BSデコーダー/ビデオ4入力端子につないだ機器の映像のときは、調整できます。

7 他の項目を調整するときは、手順5と6をくり返す。

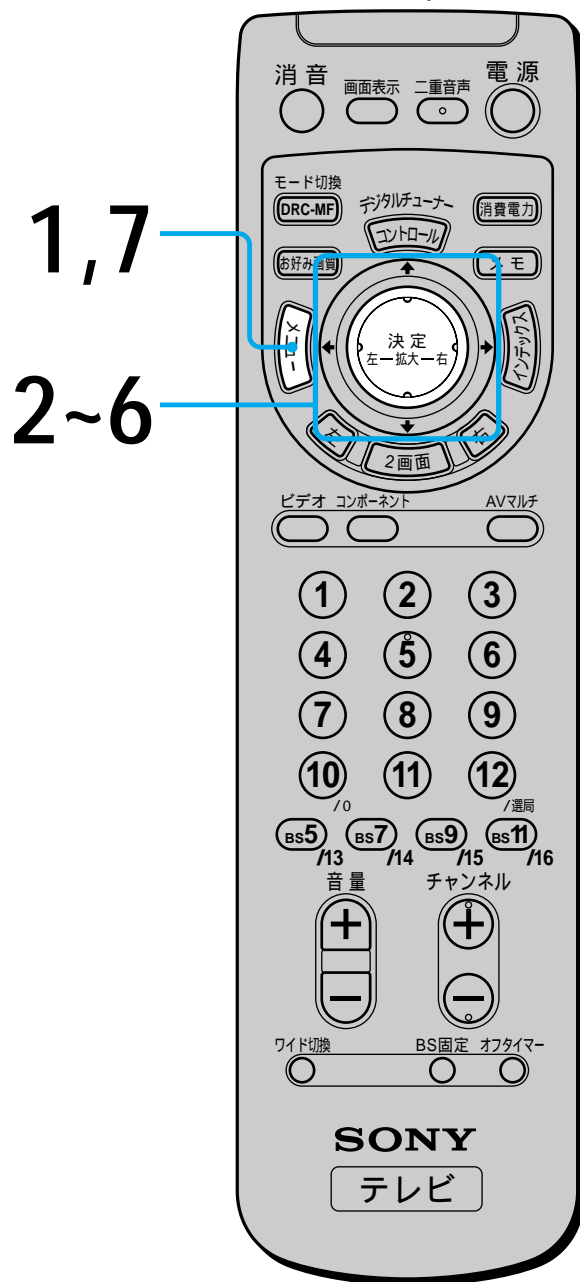
8 メニューボタンを押して、メニューを消す。

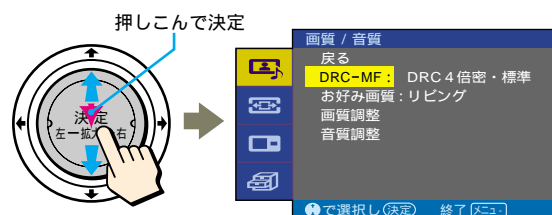
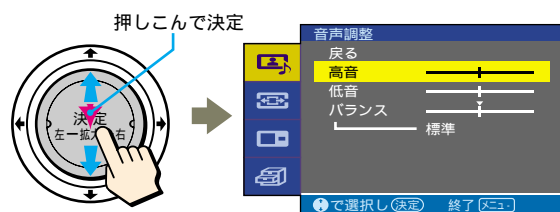
お買い上げ時の状態に戻すには

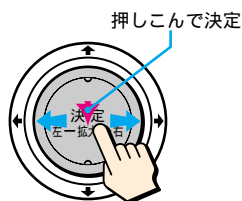
手順5で、「標準」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ご注意
「ダイナミック」と「スタンダード」（☞6ページ）では、画質調整できません。

音質を調整する

音質は、入力切換用のボタンで選べる各入力ごとに設定できます（ただし、通常のテレビ放送とBS放送は共通の設定になります）。

1 メニューボタンを押す。

2 ↑/↓で「(画質/音質)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ↑/↓で「音質調整」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で調整したい項目を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 ←/→で調整し、真ん中を押しこんで決定する。

項目	←を押すと	→を押すと
高音	弱くなる	強くなる
低音	弱くなる	強くなる
バランス	左側の音が強くなる	右側の音が強くなる

ちょっと一言

調節バーの横に表示される数値も調節の目安になります。

6 他の項目を調整するときは、手順4と5をくり返す。

7 メニューボタンを押して、メニューを消す。

お買い上げ時の状態に戻すには

手順4で、「標準」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

ご注意

ヘッドホンの音質調整はできません。ヘッドホンで聞いているときに音質調整をすると、ヘッドホンを抜いたときに出るスピーカーからの音が調整されます。

それぞれの音を聞き取りやすくするには（音像定位エンハンサー機能）

画像に映った人の声や楽器などの音のイメージ（音像）を、それぞれがそこにあるかのようにするのが「音像定位エンハンサー」です。
お買い上げ時は、「強」に設定されています。
「弱」にして効果を少し弱めることもできますが、音量感が弱まるため、通常は「強」のままで使うことをおすすめします。

1 メニューボタンを押して、メニューを出す。

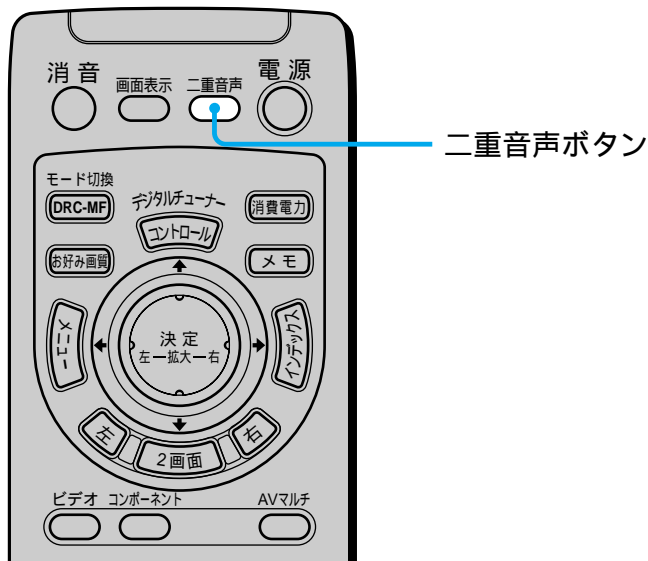
2 ↑/↓で「（各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

3 ↑/↓で「音像定位」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「強」または「弱」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 メニューボタンを押して、メニューを消す。

音声を切り換える
（二重音声）

二か国語放送など二重音声放送のときに、聞きたい音声を選べます。

二重音声ボタン

二重音声ボタンをくり返し押す。

押すたびに下表のように切り換わります。

画面表示	左側の音声	右側の音声
主	主音声	主音声
副	副音声	副音声
主/副	主音声	副音声

例:「主/副」を選んだとき

ちょっと一言

2画面のときは、操作画面の音声が切り換わります。

VHF/UHFのステレオ放送で雑音が気になるときは

音声をモノラルにして、チャンネルごとに雑音を軽減できます。

本体のボタンを使います。

1. **雑音の多いチャンネルを映した状態で、設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
2. **選択⇧/⇩ボタンで「(初期設定)」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **「オートステレオ」が選ばれていることを確認して、決定ボタンを押す。**
4. **選択⇧/⇩ボタンで「切」にして、決定ボタンを押す。**
5. **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

ちょっと一言

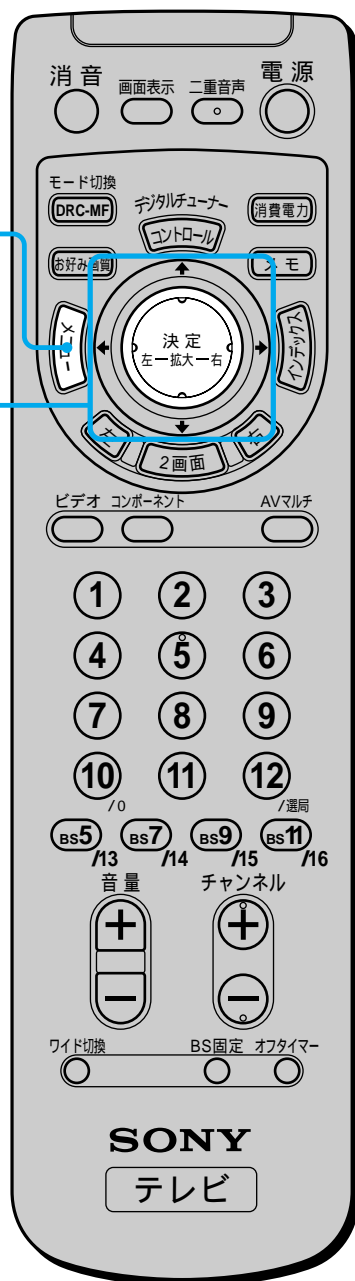
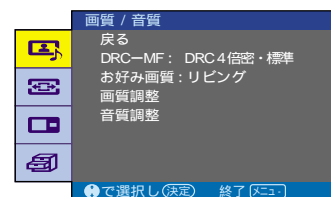
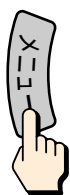
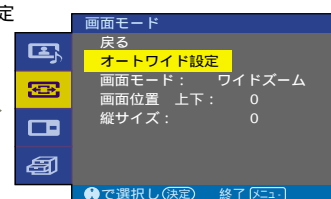
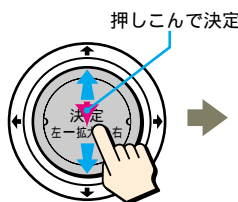
BS放送では放送内容により、以下の音質表示が画面右上に出ます。

- 「A」: Aモード（FM放送とほぼ同じ音質）を受信。
- 「B」: Bモード（Aモードより高音質でCDとほぼ同じ音質）を受信。
- 「独立」: BS5チャンネルのSt.GIGA（独立音声放送）を受信。
- 「ステレオ」: ステレオ放送を受信。（通常のテレビ放送でも表示）

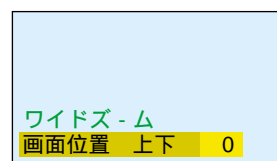
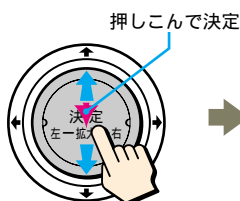
なお、AモードとBモードは、番組内容に応じて放送局側が使い分けて送信するものを、本機が自動的に判別して受信するため、二重音声ボタンなどで切り換えることはできません。

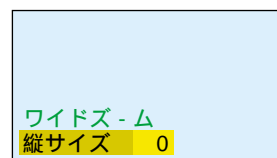
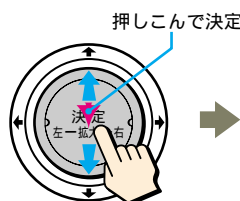
画面の上下位置/縦サイズを調整する

ワイド画像で次のようなときは、画面位置の上下や縦サイズを、画面モード（☞9ページ）ごとに調整できます。
- 「ワイドズーム」や「ズーム」で画面を見やすい位置にしたいとき
- 「字幕入」で字幕が画面に入りきらないとき

「フル」と「ノーマル」の画面モードでは調整できません。

1 **調整したい画面を映した状態で、メニューボタンを押す。**

2 **↑/↓で「（画面モード）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**

3 **↑/↓で調整したい項目を選ぶ。**

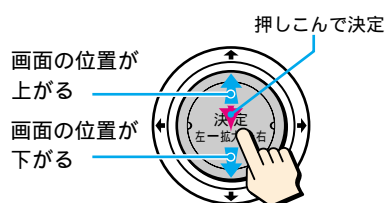
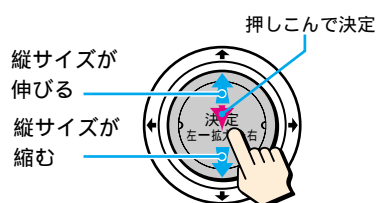
画面の上下位置を調整するときは

↑/↓で「画面位置　上下」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

サイズを調整するときは

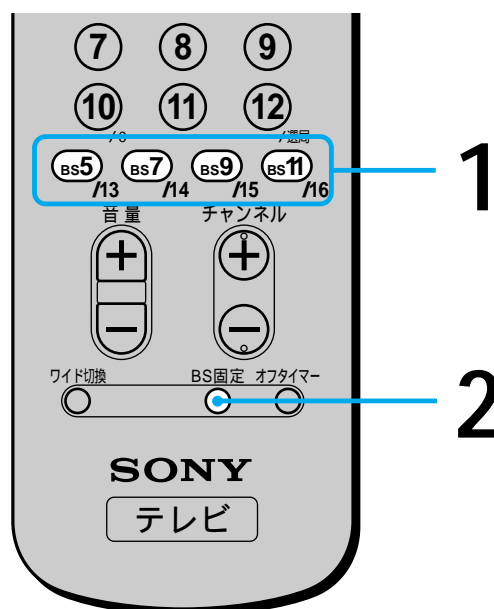
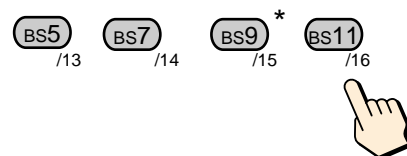
↑/↓で「縦サイズ」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

次のページにつづく

画面の上下位置/縦サイズを調整する（つづき）

4 **↑/↓で調整して、真ん中を押しこんで決定する。**

画面の上下位置を調整するときは

縦サイズを調整するときは

5 **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

BS放送を録画/予約録画する（BS固定）

本機内蔵のBSチューナーで、BS放送を本機につないでいるビデオに録画できます。また、録画するBSチャンネルを固定させて、裏録画や予約録画もできます。
あらかじめ、「ビデオをつなぐ」（☞52ページ）をしておいてください。

1 **録画したいBSチャンネルを選ぶ。**

* **ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を録画するときは**
MUSE-NTSCコンバーターをつなぐ必要があります（☞68ページ）。詳しくは、必ずMUSE-NTSCコンバーターの説明書をご覧ください。

2 BS固定ボタンを押す。

本機BSチューナー部のBSチャンネルとBS/ビデオ出力端子から出る信号が固定されて、他のBSチャンネルに切り換わらなくなります。

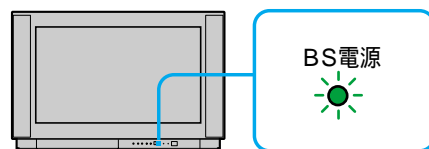
3 S映像入力端子付きビデオのときは、ビデオ側で映像入力端子の信号を優先する設定にする。

本機のBS/ビデオ出力端子は映像出力端子のため、ビデオ側でS映像入力端子の信号を優先する設定にしてあると、映像信号がビデオに入力されないため、録画されません。
詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

4 ビデオを「外部入力（ライン入力）」に切り換えて、録画を始める。

詳しくは、ビデオの取扱説明書をご覧ください。

予約録画するときは

ビデオで「外部入力（ライン入力）」を録画予約し、本機のリモコンでテレビの電源を切る。
テレビの電源はスタンバイ状態になりますが、BSチューナー部の電源は48時間電源が入ったままになります（BS電源ランプが点灯）。

見ながら録画するときは

BS固定したBSチャンネルで、そのままお楽しみください。他のBSチャンネルには、切り換わりません。

裏番組として録画するときは

BSを録画しながら、テレビ放送（BS放送は除く）やビデオを見ることができます。見たいチャンネルやビデオ入力などを選んでください。

録画が終わったら/BS固定をやめるには

BS固定したチャンネルを選んでから、BS固定ボタンをもう1度押す。
BS固定が解除され、他のBSチャンネルを選べます。

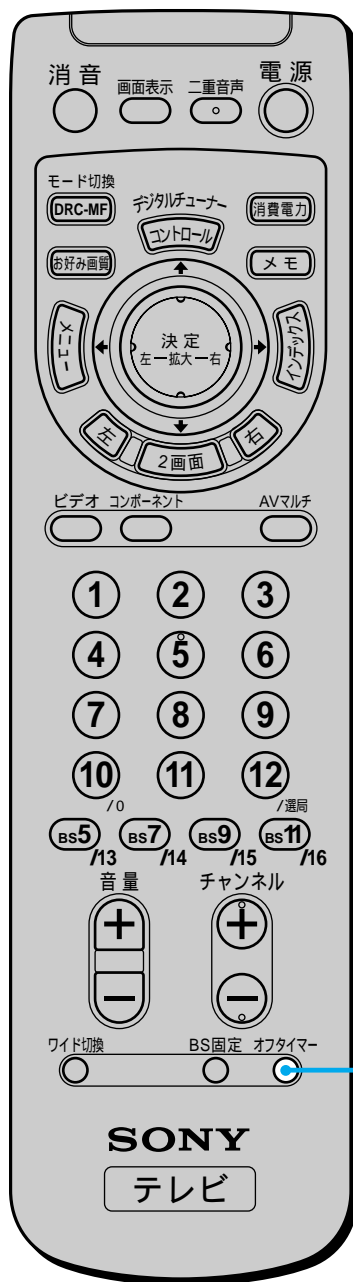
ご注意

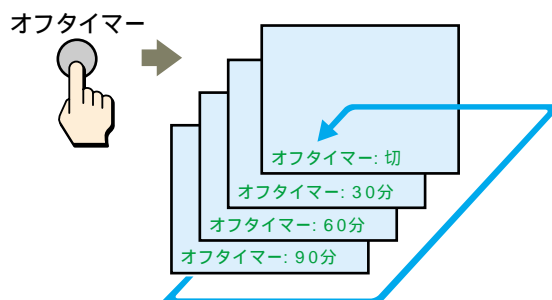
- テレビ本体の電源スイッチで電源を切ったり、電源コードを抜いたりすると、録画できなくなります。
- WOWOWなどスクランブル放送を録画するときは、BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れたままにしてください。

ちょっと一言

St. GIGAなど独立音声放送を録音するときは、メニューの「(各種切換)」で、「TV/独立音声」を「独立」にしてください。また、BSデコーダー（WOWOW）でも独立音声を選んでください。

自動で電源を切る
（オフタイマー）

テレビをつけたまま寝てしまっても、設定した時間（30分、60分または90分）が過ぎると、自動的に電源が切れます。

オフタイマーボタンをくり返し押す。

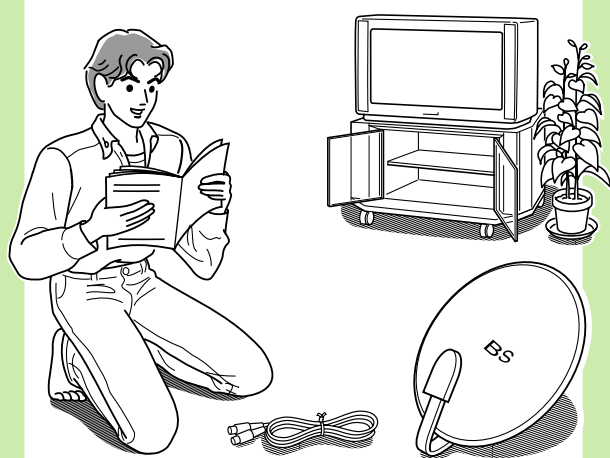
押すたびに、次のように時間が変わります。また、本体のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯します。

オフタイマーを途中でやめるには

オフタイマーボタンをくり返し押して、「オフタイマー:切」を選ぶ。

ちょっと一言

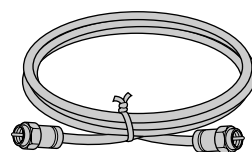
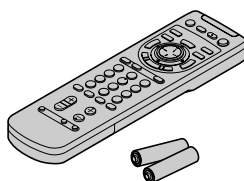
- オフタイマーが働いているときに、オフタイマーボタンを押すと、電源が切れるまでの残り時間（例:「オフタイマー:あと17分」）が表示されて、数秒後に消えます。
- 電源を入れ直したときは、「オフタイマー:切」に戻ります。
- メニュー画面でも操作できます。メニュー画面の「（各種切換）」から「オフタイマー」を選び、時間を選んでください。

テレビの接続と準備

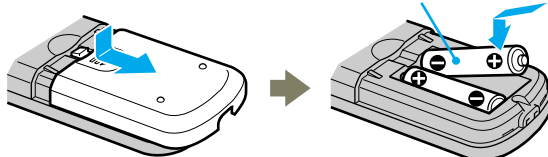
ここでは、テレビアンテナとBSアンテナのつなぎかた、およびチャンネル設定や、BS放送を見るための設定を説明しています。
手順1～5（☞34～45ページ）まで済ませれば、テレビを見ることができます。
他の機器をつないでお使いになるときは、「他機との接続」（☞49～71ページ）をご覧ください。

付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

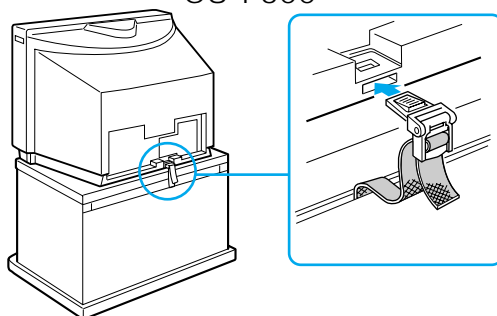
リモコン（1個）と単3形乾電池（2個）

アンテナ接続ケーブル（1本）

取扱説明書（1部）
安全のために（1部）
安全点検のおすすめ（1部）
ソニーご相談窓口のご案内（1部）
保証書（1部）

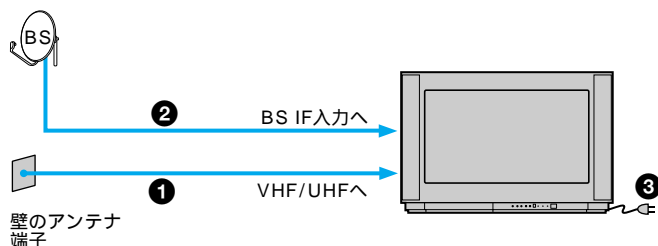
リモコンに電池を入れるには

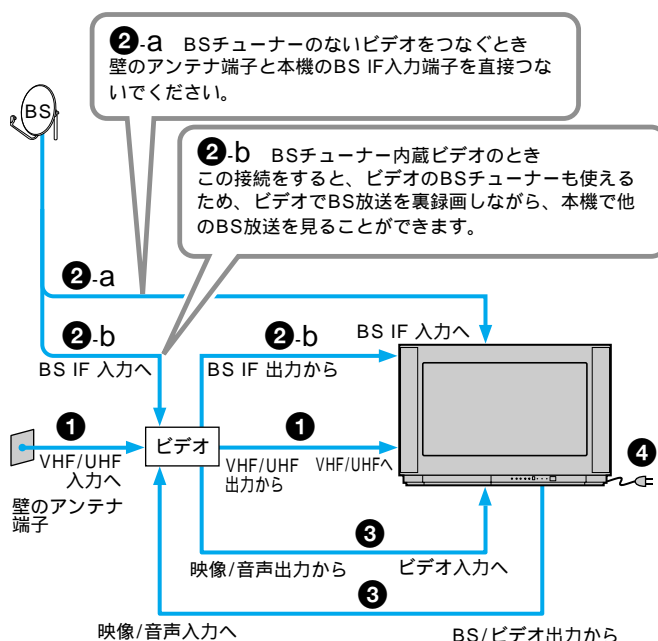
必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。無理に入れたり逆に入れたりすると、ショートの原因になり、発熱することがあります。

テレビの転倒を防ぐために

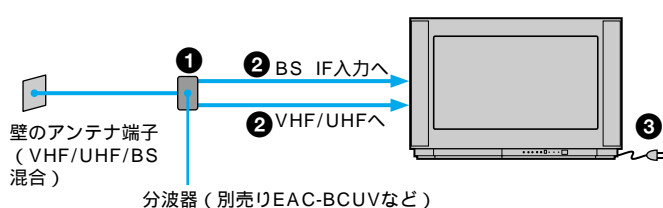
お子様が、テレビスタンドに載せた本機に登ったり、本機を押したりすると、テレビスタンドから本機が落ちる恐れがあります。
必ず下記を使って、転倒を防いでください。

- テレビスタンド固定ベルト（別売り）
  BLT-R10
- 固定ベルト付属のテレビスタンド（別売り）
  KV-28DRX7: SU-F200S、SU-F200P、SU-F200、SU-28V
  KV-32DRX7: SU-F300S、SU-F300P、SU-F300、SU-32V
  KV-36DRX7: SU-F300S、SU-F300P、SU-F300

接続と準備の早わかり

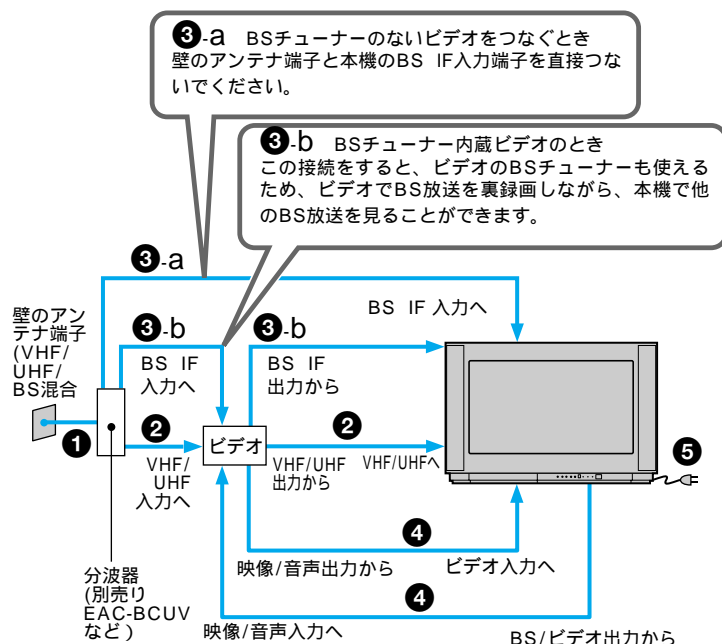
接続と準備のしかたは、放送の種類や接続する機器によって異なります。
ここでは代表的な組み合わせをあげていますので、参考にしてください。詳しくは（　）内のページ、および接続するビデオなどの取扱説明書もあわせてご覧ください。
BSアンテナの接続およびBS受信の設定は、BS放送を受信しないときは不要です。

テレビ

❶ テレビアンテナをつなぐ（☞34ページ）
❷ BSアンテナをつなぐ（☞36ページ）
❸ 電源コードをつなぐ
❹ テレビチャンネルを設定する（☞38ページ）
❺ BS受信の設定をする（☞42ページ）

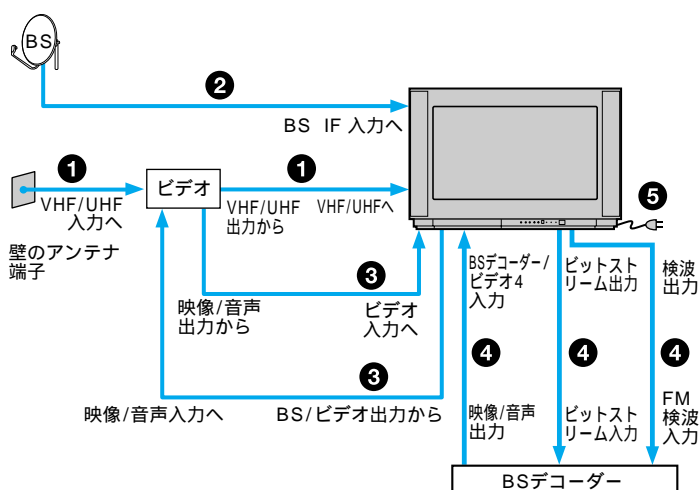
テレビ＋ビデオ

❶ テレビアンテナを、ビデオを経由してテレビにつなぐ（☞52〜55ページ、およびビデオの取扱説明書）
❷ BSアンテナをつなぐ
❷-a　BSチューナーのないビデオのとき:
BSアンテナをテレビにつなぐ（☞36ページ）
❷-b　BSチューナー内蔵ビデオのとき:
BSアンテナをビデオを経由してテレビにつなぐ（☞36ページ、およびビデオの取扱説明書）
❸ ビデオをつなぐ（☞52〜55ページ）
❹ 電源コードをつなぐ
❺ テレビチャンネルを設定する（☞38ページ）
❻ BS受信の設定をする（☞42ページ）

マンションなどの共同受信システム*1

*1 壁のアンテナ端子ひとつでVHF/UHFとBSの両方を受信できる、マンションなどの共同住宅に多いシステムです。

❶ 分波器を使って、VHF/UHFとBSを分ける（☞35ページ）
❷ VHF/UHFとBSをつなぐ（☞35ページ）
❸ 電源コードをつなぐ
❹ テレビチャンネルを設定する（☞38ページ）
❺「BSアンテナ電源」の設定を「切」にする（☞42ページ）

マンションなどの共同受信システム*1＋ビデオ

*1 壁のアンテナ端子ひとつでVHF/UHFとBSの両方を受信できる、マンションなどの共同住宅に多いシステムです。

❶ 分波器を使って、VHF/UHFとBSを分ける（☞35ページ）
❷ テレビアンテナを、ビデオを経由してテレビにつなぐ（☞52～55ページ、およびビデオの取扱説明書）
❸ BSアンテナをつなぐ
  ❸-a BSチューナーのないビデオのとき:
  BSアンテナをテレビにつなぐ（☞36ページ）
  ❸-b BSチューナー内蔵ビデオのとき:
  BSアンテナをビデオを経由してテレビにつなぐ（☞36ページ、およびビデオの取扱説明書）
❹ ビデオをつなぐ（☞52～55ページ）
❺ 電源コードをつなぐ
❻ テレビチャンネルを設定する（☞38ページ）
❼「BSアンテナ電源」の設定を「切」にする（☞42ページ）

テレビ＋WOWOW＋ビデオ*2

❶ テレビアンテナをビデオを経由してからテレビにつなぐ（☞52～55ページ）
❷ BSアンテナをつなぐ（☞36ページ）
❸ ビデオをつなぐ（☞52～55ページ）
❹ BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ（☞62～64ページ）
❺ 電源コードをつなぐ
❻ テレビチャンネルを設定する（☞38ページ）
❼ BS受信の設定をする（☞42ページ）

*2 BSチューナー内蔵ビデオのときの接続は、左の図とは異なります。「BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ:BSチューナー内蔵ビデオのとき」（☞63ページ）の接続を行ってください。

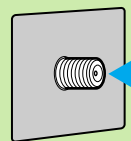
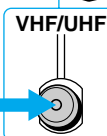
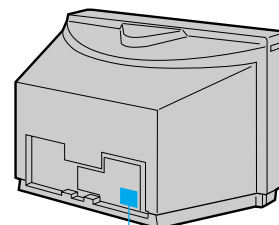
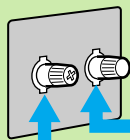
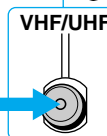
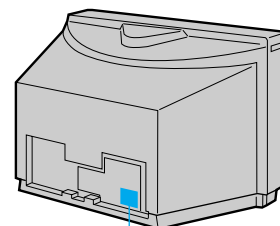
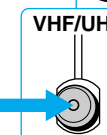
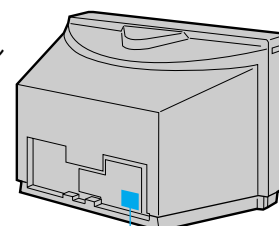
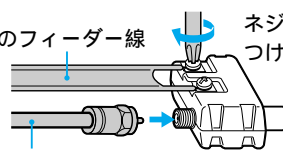
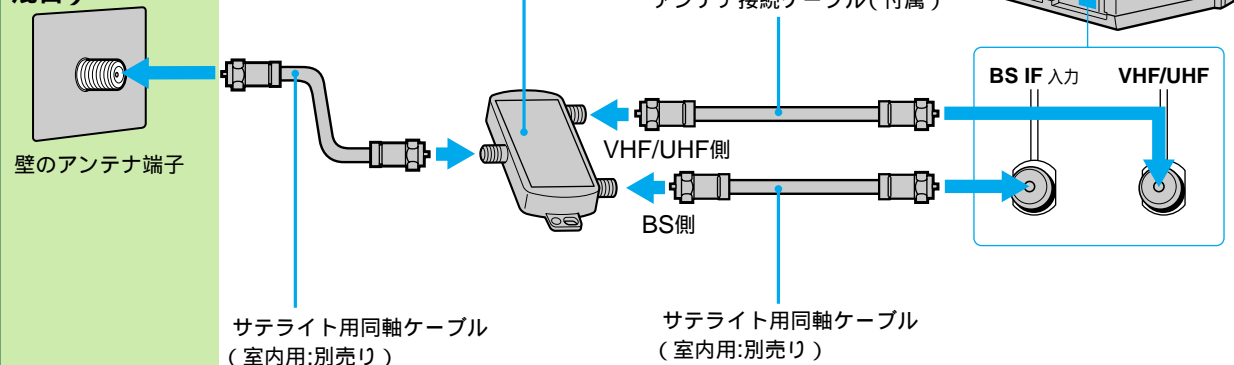
ケーブルテレビ

ケーブルシステムによって接続や準備のしかたが異なります。ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

テレビは壁から10cm以上離して設置してください

壁から10cm以上離して置いてください。風とおしをよくするためです。壁などに近づけ過ぎて、空気の対流が悪くなると、壁などにホコリが付着し、黒くなることがあります。また、通風孔がふさがれると、内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

手順1:
テレビアンテナをつなぐ

テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナ端子の形や、使うケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、つないでください。
いずれにも当てはまらない場合は、販売店などにご相談ください。

きれいな画像をお楽しみいただくために

本機には、多くのデジタル回路による新テクノロジーが搭載されています。このため、安定した画像をお楽しみいただくためにはアンテナの接続状態がとても重要です。下記のようにアンテナの接続と設置を確実に行い、妨害電波を受けにくい安定した受信状態を確保してください。

- 本機後面のVHF/UHF端子への接続は、アンテナ線がフィーダー線または同軸ケーブルのどちらであっても、**必ず付属のアンテナ接続ケーブルを使ってください。**
- アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。
- 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。

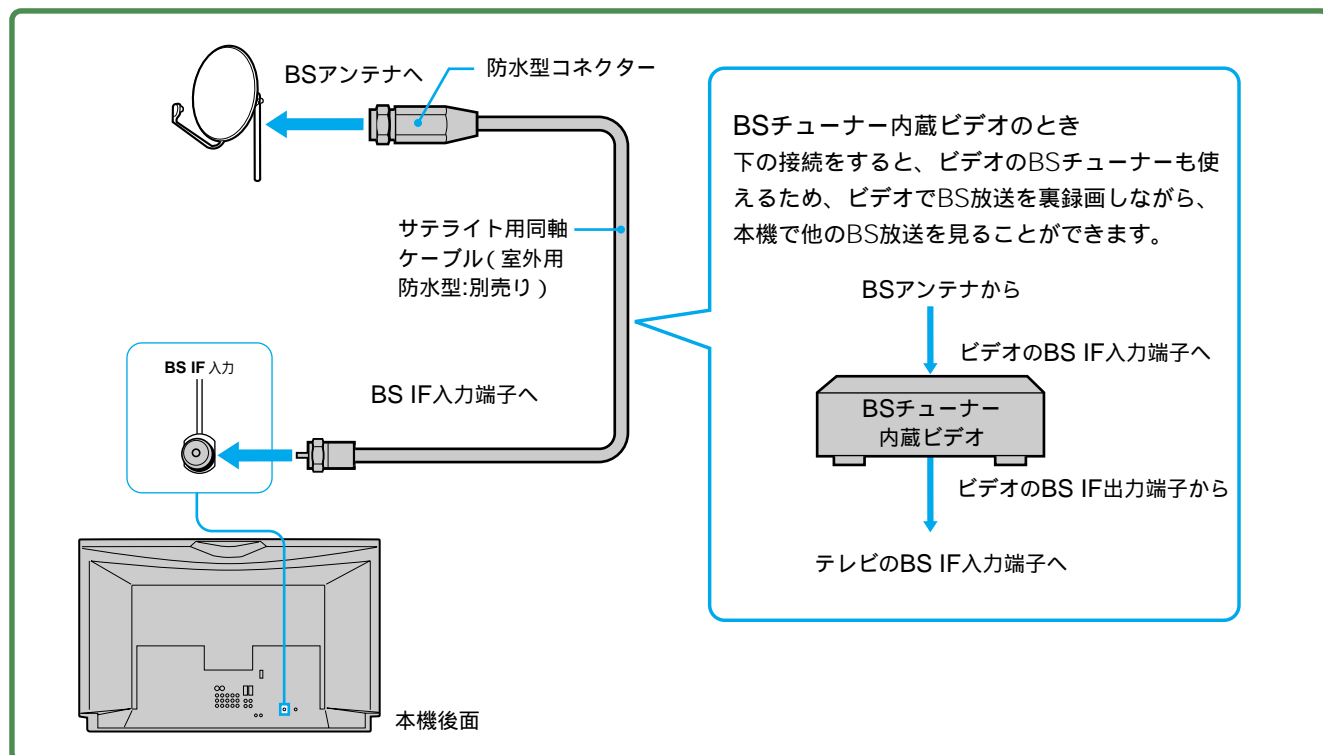
ご注意

- フィーダー線は同軸ケーブルよりも雑音電波などの影響を受けやすいため、信号が劣化します。万が一、フィーダー線をご使用になる場合は、テレビからできるだけ離してください。
- BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブル（室内用:別売り）をつないでください。BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2またはEAC-BC4など）を必ずお使いください。特定の端子からのみBSアンテナ電源を供給するサテライト分配器を使うと、 BSチューナー内蔵ビデオでも、テレビの電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。

ちょっと一言

マンションなどの共同受信システムで、BS放送の受信電波が弱くノイズが出るときは、サテライトブースター（別売りBO-BC20など）をつないでください。また、設定メニューの「(BS設定)」で「BSアンテナ電源」を「切」にしてください（☞42ページ）。

手順2:
BSアンテナを
つなぐ

BSアンテナをテレビに直接つなぎます。マンションなどの共同受信システムなどVHF/UHF/BS混合のときは、☞35ページをご覧ください。BSアンテナの設置には技術が必要なため、お買い上げ店などに依頼することをおすすめします。
WOWOWをご利用になるときは、「BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ」（☞62ページ）もあわせてご覧ください。

「BSアンテナ電源を確認してください」という表示が出たら

マンションなどの共同受信システムのときは
設定メニューの「(BS設定)」で、「BSアンテナ電源」を「切」にしてから、いったんテレビの電源を切って、もう1度、電源を入れ直してください（☞42ページ）。

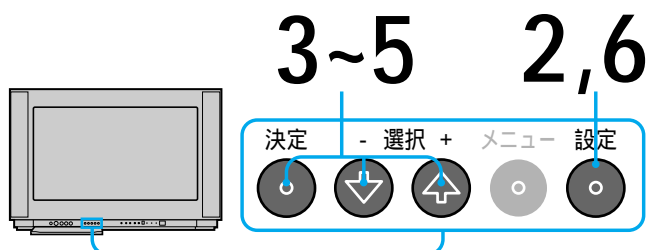
BSアンテナをつないでいるときは
以下のことを確認し、それでも表示が消えないときは、テレビの電源を切り、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。

- サテライト用同軸ケーブルの芯線が、BS IF端子やケーブルのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。
- サテライト用同軸ケーブルをアンテナコネクターでつないでいるときは、アンテナコネクターの芯線が、BS IF端子やコネクターのまわりの金属部分に触れていないか確認してください。それでも、表示が消えないときは、アンテナコネクターのふたを開けて、内部を確認してください。

ご注意
- **BS IF入力端子には、必ずサテライト用同軸ケーブルをつないでください。** BS IF入力端子からはBSアンテナ用の電源（DC 15V）が供給されているため、サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをつなぐと、ショートして火災などの原因となります。
  推奨ケーブル
  – 室外用防水型:SAK-C10/C20/C30など
- 次のようなときはBSを受信できなかったり、受信状態が悪かったりしますが、故障ではありません。
  – 雷、雨、強風などの悪天候のとき
  – BSアンテナに雪が付着しているとき
  – 強風などでアンテナの向きが変わったとき（BSアンテナの向きを調整してください。☞44ページ）
  – 春分や秋分、日食など、太陽と地球とBS衛星が並んだ（食）とき
- サテライト分配器を使って複数のBS機器をつなぐときは、どの端子からも電源を供給するタイプ（別売りEAC-BC2またはEAC-BC4など）を必ずお使いください。
  特定の端子からのみBSアンテナ電源を供給するサテライト分配器を使うと、 BSチューナー内蔵ビデオでも、テレビの電源を入れないと衛星放送を録画できないなどの不都合が生じます。
- BSアンテナをつなぐときは、工具を使わずに手でしっかりと締めてください。工具を使うと、端子を傷めることがあります。

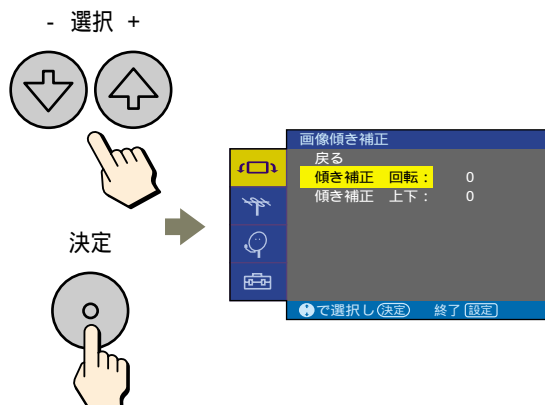
手順3:
地磁気による画像の傾きなどを補正する

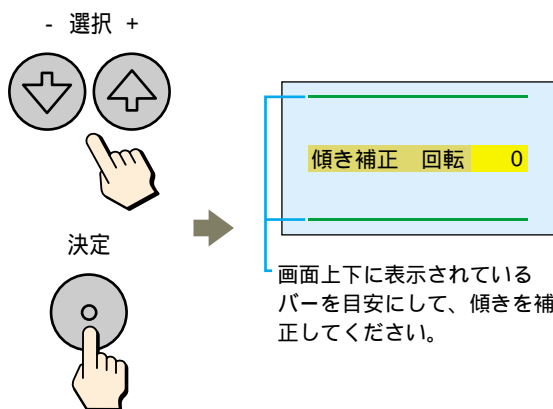
地磁気など磁界によって発生する画像の傾きや画面上下位置のずれを補正できます。これらの症状は、テレビ本体の故障ではありません。
また、正常に画像が映っているときは、補正する必要はありません。

補正される前に確認してください。
- 外部のスピーカー（防磁型も含む）は、テレビから30cm以上離して置いてください。スピーカーの磁気により、うまく補正されなかったり、スピーカーから雑音が出たりするためです。
- 強い磁界（高圧電線や電車、鉄筋コンクリート、鉄製機材の近辺など）では、うまく補正されないことがあります。このときは、磁界の影響を受けない場所に設置されるか、ソニーサービス窓口やお買い上げ店などにご相談ください。

本体のボタンを使います。

1 電源を入れる。

2 設定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「⤹▭⤸（画像傾き補正）」が黄色になっていることを確認した後、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「傾き補正/回転」または「傾き補正/上下」を選び、決定ボタンを押す。

画像が傾いているときは「傾き補正/回転」を、画面の上下位置がずれているときは「傾き補正/上下」を選びます。
補正中はワイド画面の画面モードが強制的に「フル」に切り換わります。

テレビの接続と準備

次のページにつづく

手順3: 地磁気による画像の傾きなどを補正する（つづき）

5 **選択⇧/⇩ボタンで調整する。**

手順4で「傾き補正/回転」を選んだとき
画面の線ができる限り水平になるようにします。数値は−7〜+7の範囲で変わります。

手順4で「傾き補正/上下」を選んだとき
画面の上下位置を補正します。数値は−5〜+5の範囲で変わります。

6 **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

ワイド画面の画面モードは元の設定（オートワイドなど）に戻ります。

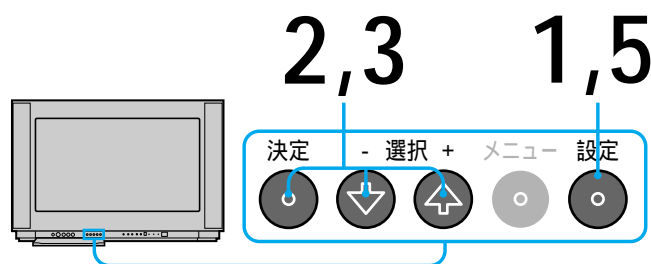
ご注意

- うまく補正しきれないときは、いったんテレビの電源を切り、設置の場所を変えるか、テレビの向きを変えてから、もう1度、傾き補正の手順を行ってください。
  電源を切らずに移動したり、向きを変えたりすると、補正がうまくされなかったり、色むらを起こす原因になります。
  色むらが出たときは、移動したり、向きを変えたあとに、いったん電源を切って30分以上待ってから電源を入れてください。または、電源を入れたままで30分以上待ってから、いったん電源を切って、もう1度、電源を入れ直してください。

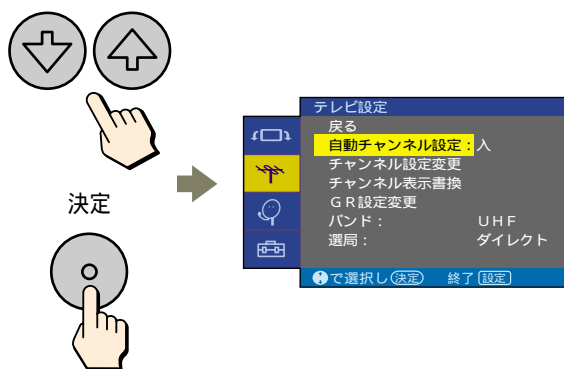
手順4: チャンネルを設定する

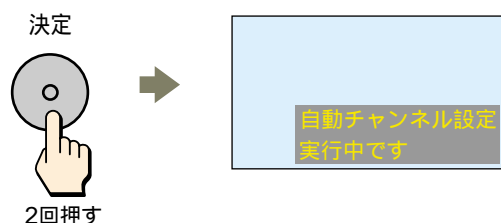
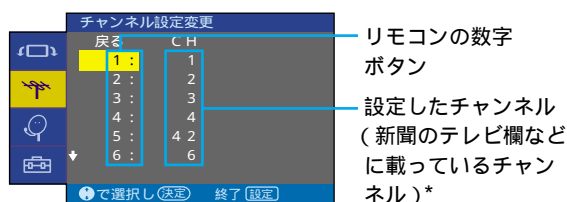
VHF/UHF放送は、自動でも手動でも受信設定できます。はじめに自動設定することをおすすめします。

自動設定する

受信できるVHF/UHF放送を、リモコンの数字ボタンに自動的に設定します。
放送のある時間帯に行ってください。BS放送はお買い上げ時に設定されています。
自動設定したチャンネルを変更したり、放送のないチャンネルをとばすときは、☞40〜42ページをご覧ください。

本体のボタンを使います。

1 **設定ボタンを押す。**

2 選択⇧/⇩ボタンで「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 「自動チャンネル設定」が選ばれていて（黄色になっていて）、「入」になっていることを確認した後、決定ボタンを2回押す。

「切」になっているときは、決定ボタンを1回押した後、選択⇧/⇩ボタンで「入」を選び、決定ボタンを押す。

「自動チャンネル設定実行中です」と表示され、自動的に設定が始まります。
設定が終わると、下のメニューに変わります。

＊ 地域によっては、これまでご覧になっていたチャンネル番号と異なる場合があります。

4 設定されたチャンネルを確認する。

手動で設定し直したいときは

☞40ページをご覧ください。

ゴーストの少ない画像にしたいときは

☞47ページをご覧ください。

5 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

チャンネル設定を途中でやめるには

手順3で「自動チャンネル設定実行中です」のメッセージが出ている間に、設定ボタンを押す。

次のページにつづく

ケーブルテレビを見るには

ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要です。なお、ケーブルテレビを受信できない地域もあります。本機では、C13〜C35までのケーブルテレビチャンネルを受信できます。
詳しくは、お近くのケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。

本体のボタンを使います。

1. **ダイレクト選局になっていることを確認する（☞46ページ）。**
2. **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
3. **選択⇧/⇩ボタンで「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**
4. **選択⇧/⇩ボタンで「バンド」を選び、決定ボタンを押す。**
5. **選択⇧/⇩ボタンで「CATV」を選び、決定ボタンを押す。**
6. **選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。**
7. **選択⇧/⇩ボタンでケーブルテレビを映したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。**
8. **選択⇧/⇩ボタンで「CH」の数字をケーブルテレビのチャンネルにし、決定ボタンを押す。**
   ケーブルテレビのチャンネルには、表示の前に「C」がつきます。
   例:C24
9. **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

ご注意

- ケーブルテレビとUHF放送を同時に受信したり、チャンネル設定したりすることはできません。
- ケーブルテレビで「10キー選局」（☞46ページ）をするときは、自動設定で受信設定をした後、「10キー選局」に切り換えてください。

手動設定する

自動設定したチャンネルを変えたり、表示を書き換えたり、放送のないチャンネルをとばすことができます。
1〜12のチャンネル数字ボタンと、BS5、7、9、11のBSチャンネルボタンの合計16チャンネルのすべてを、手動で設定できます。

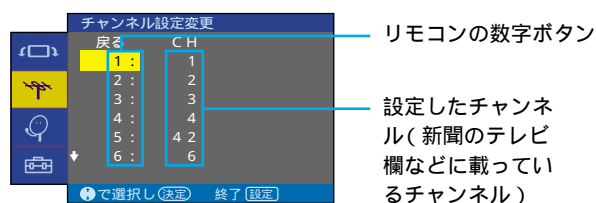
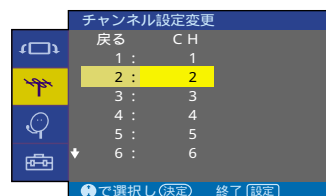
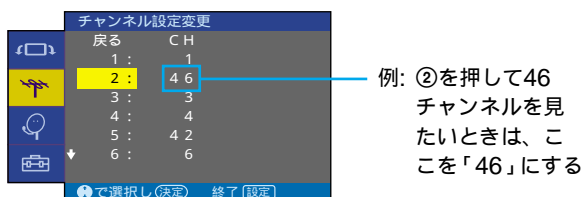
ご注意

BS5、7、9、11ボタンは、ボタン名と同じBSチャンネル用としてだけでなく、13、14、15、16チャンネルボタンとしても使えます。ただし、ボタン名と異なる他のチャンネルに設定し直すと、各ボタンを押しても、BS5、7、9、11チャンネルを直接選局できなくなります。

リモコンの数字ボタンに設定したチャンネルを変えるには

リモコンの数字ボタンに好きなチャンネルが映るように変えられます。

本体のボタンを使います。

1. **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
2. **選択⇧/⇩ボタンで「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。**

4. **選択⇧/⇩ボタンで変更したいリモコンの数字ボタンを選び、決定ボタンを押す。**

5 **選択⇧/⇩ボタンで設定したチャンネルを変更し、決定ボタンを押す。**

6 **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

ちょっと一言

手動設定でケーブルテレビの受信の設定をするときは、設定メニューで「(テレビ設定)」の「バンド」を「CATV」にしてください。詳しくは、(☞40ページ) をご覧ください。

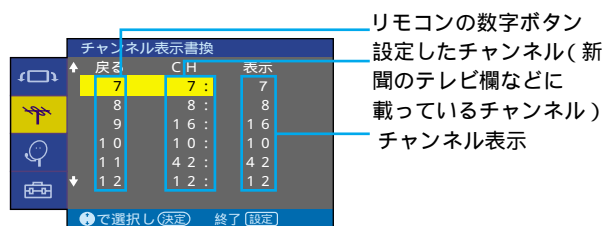
チャンネル表示を書き換えるには

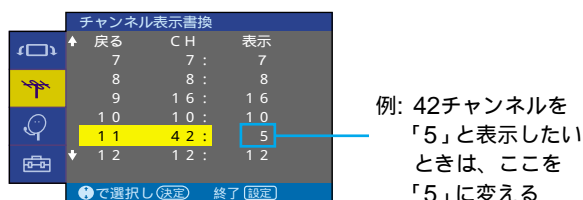
画面に出るチャンネル表示は、新聞のテレビ欄などに載っているチャンネルになっています。これを、好きなチャンネル番号などに書き換えることができます。

本体のボタンを使います。

1 **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**

2 **選択⇧/⇩ボタンで「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル表示書換」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **選択⇧/⇩ボタンで書き換えたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。**

5 **選択⇧/⇩ボタンでチャンネル表示を書き換え、決定ボタンを押す。**

6 **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

ちょっと一言

- チャンネルと表示が1対1で対応するように、チャンネル表示を書き換えてください。複数のチャンネルを同一のチャンネル表示にすることもできますが、おすすめしません。
- BS放送のチャンネル表示は書き換えられません。

次のページにつづく

手順4:
チャンネルを設定する（つづき）

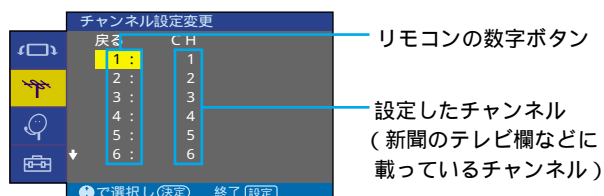
放送のないチャンネルをとばすには

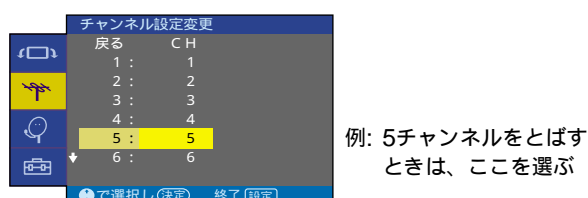
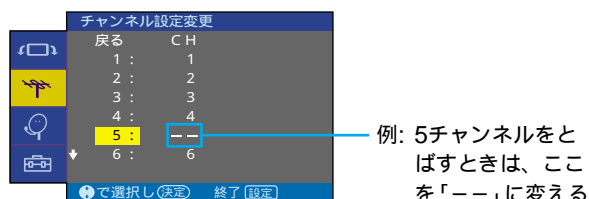
チャンネル＋/－ボタンでチャンネルを選ぶときや、チャンネルを一覧表示する（☞15ページ）ときに、放送のないチャンネルをとばす（選局しない）ように設定できます。

本体のボタンを使います。

1 設定ボタンを押して、設定メニューを出す。

2 選択⇧/⇩ボタンで「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。

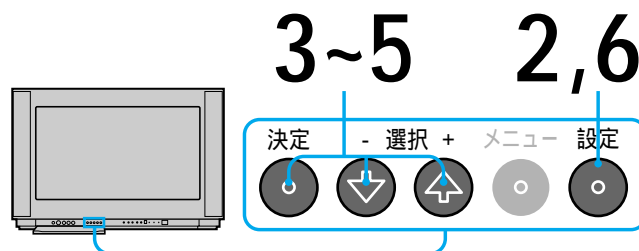
3 選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンでとばしたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

例：5チャンネルをとばすときは、ここを選ぶ

5 選択⇧/⇩ボタンで「CH」を「– –」に変えて、決定ボタンを押す。

6 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

手順5:
BS受信の設定をする

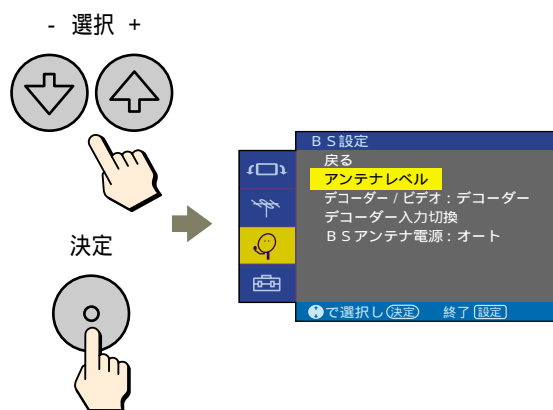
BS放送を見るときは、BSアンテナ電源の設定と、BSアンテナの向きを調整してください。

BSアンテナ電源を設定する

BSアンテナのつなぎかた（マンションなどの共同受信システムか、テレビなどに直接つないでいるかなど）に合わせて、BSアンテナへの電源供給を設定します。

本体のボタンを使います。

1 電源を入れ、BS放送を映す。

2 設定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「BSアンテナ電源」を選び、決定ボタンを押す。

5 マンションなどの共同受信システムのときは

選択⇧/⇩ボタンで「切」を選び、決定ボタンを押す。

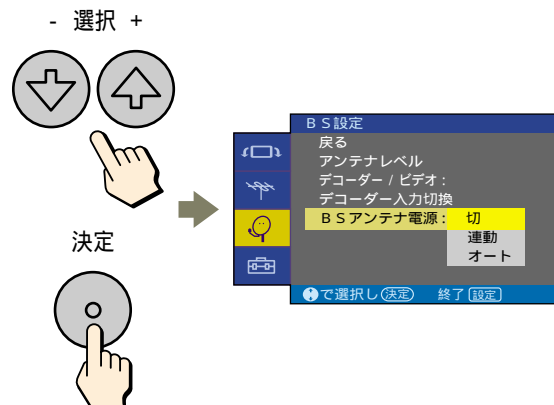
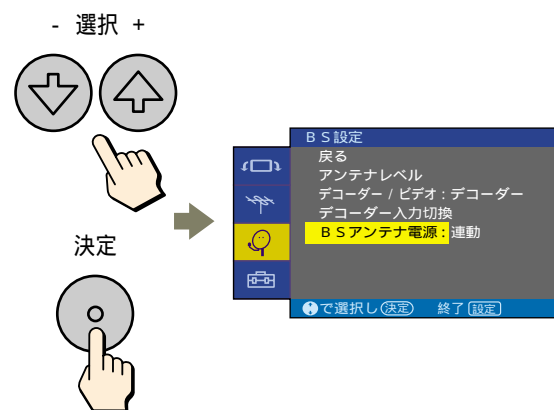
BSアンテナをつないでいるときは

選択⇧/⇩ボタンで「オート」または「連動」を選び、決定ボタンを押す。

設定	BSアンテナへの電源供給のしかた
切	電源を供給しない。
●オート	テレビの電源が入っているときに、テレビがBSアンテナに電源を供給するかどうかを自動的に判断する。テレビの電源が切れているときは供給しない。
連動	テレビの電源が入っているときはつねに電源を供給する。テレビの電源が切れているときは供給しない。BSが映ったり消えたりするときに選んでください。

●：お買い上げ時の設定

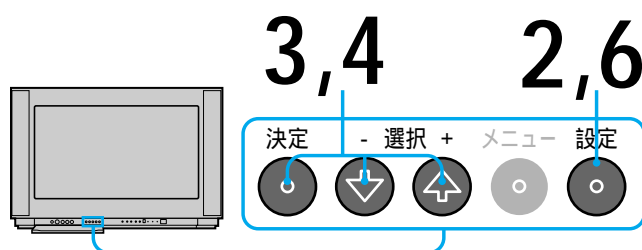
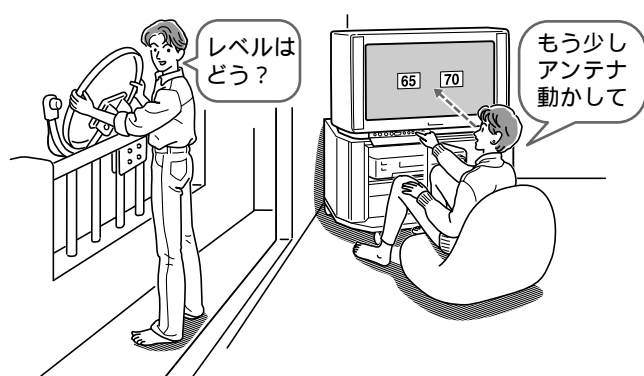
6 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

ご注意

- 「オート」にしていても、BSアンテナの電源供給システムによっては、うまく働かないことがあります。このときは「連動」にしてください。
- 1本のBSアンテナに分配器などをつないでBS電波を分け、本機と他のテレビやビデオ機器の両方でBSを受信できるようにしているときは、本機を「オート」に、他の機器を「連動」にしてください。このようにしないと、本機の電源を切ると他のテレビやビデオ機器からBSアンテナに電源が供給されないことがあります。他の機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

次のページにつづく

手順5:
BS受信の設定をする（つづき）

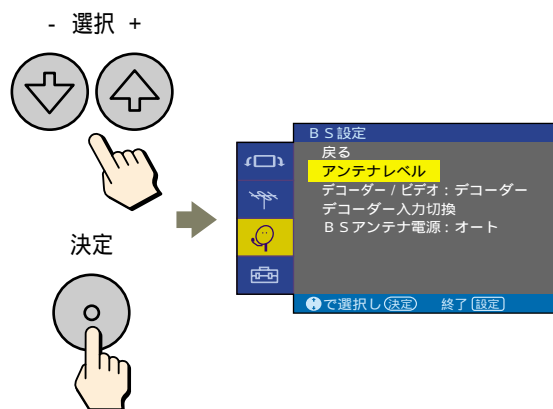
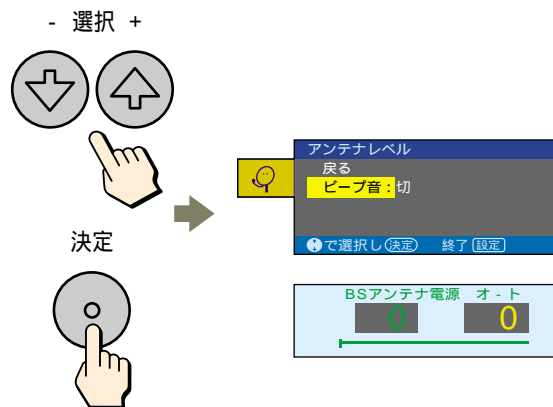
BSアンテナの向きを調整する

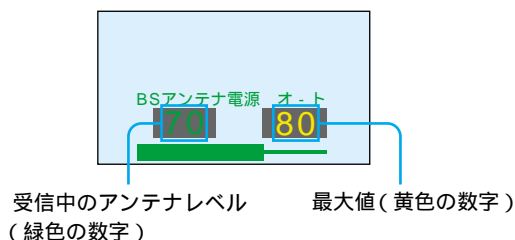
BSアンテナをテレビに直接つないだときは、アンテナの向きを2人で調整します。1人がテレビ画面の画像とレベル表示を見て、もう1人がレベル表示が最大になるように、BSアンテナを動かしながら調整します。
向きや角度については、BSアンテナの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意
「BSアンテナ電源」が「切」になっているときは、「BSアンテナ電源」を「オート」または「連動」にしてください（☞42ページ）。

本体のボタンを使います。

1 電源を入れ、BS放送を映す。

2 設定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「アンテナレベル」を選び、決定ボタンを押す。

5 BSアンテナを動かして調整する。

受信中のアンテナレベルが最大値と一致、または一番近づいたところでBSアンテナを固定します。

6 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

音を聞いて調整するには

画面で確認できないときに便利です。

1. **手順4のあと、選択⇧/⇩ボタンで「ビープ音」を選び、決定ボタンを押す。**
2. **選択⇧/⇩ボタンで「入」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **手順5で連続した最大音になるよう、BSアンテナを調整する。**

ちょっと一言

- 1つのBSチャンネルで調整すれば、他のBSチャンネルの調整は不要です。
- 受信中のアンテナレベル（緑色の数字）は、BSアンテナを動かさなくても、受信中の画像によっても変わります。

デコーダー入力を設定する

お買い上げ時は、すべてのBSチャンネルが「オート」に設定されているため、**設定しなおす必要はありません。**「オート」になっていると、BSデコーダー/ビデオ4入力端子につないだBSデコーダー（WOWOW）などのスクランブルを自動的に判別するからです。あえて、設定を変更する場合は下記の手順で操作してください。

ちょっと一言

MUSE-NTSCコンバーターをBSデコーダー/ビデオ4入力端子につなぐときは、68ページの設定をしてください。

本体のボタンを使います。

1. **本機でBS放送を映す。**
2. **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
3. **選択⇧/⇩ボタンで「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。**
4. **選択⇧/⇩ボタンで「デコーダー入力切換」を選び、決定ボタンを押す。**
5. **選択⇧/⇩ボタンでチャンネルを選び、決定ボタンを押す。**
   BS9〜15を設定するときは、⇩ボタンを押し続けると出てくる画面にあります。
6. **選択⇧/⇩ボタンで「テレビ」、「デコーダー」、「オート」を選び、決定ボタンを押す。**

設定	内容
オート	BSデコーダー（WOWOW）などのスクランブルを自動判別
テレビ	受信した映像・音声をそのまま映す
デコーダー	デコーダー入力端子からの映像・音声を映す

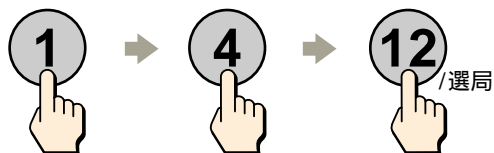
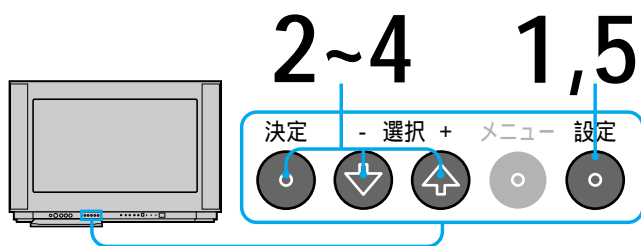
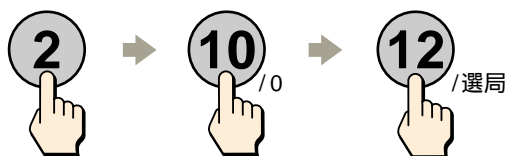
7. **他のBSチャンネルを設定するときは、手順5と6をくり返す。**
8. **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

数字ボタンの組み合わせでチャンネルを選ぶ（10キー選局）

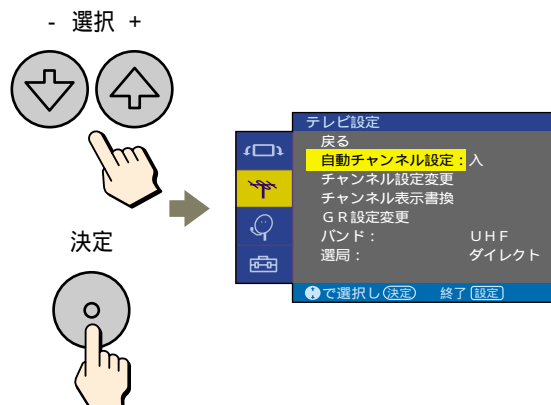
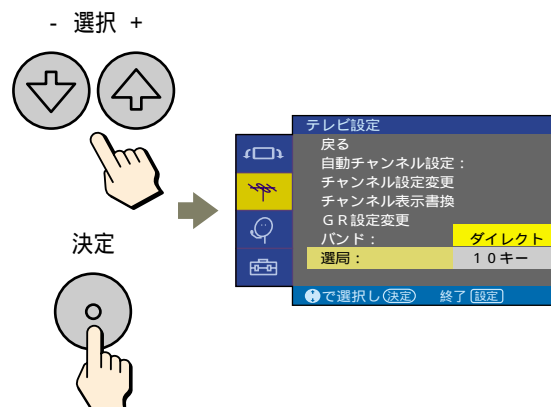
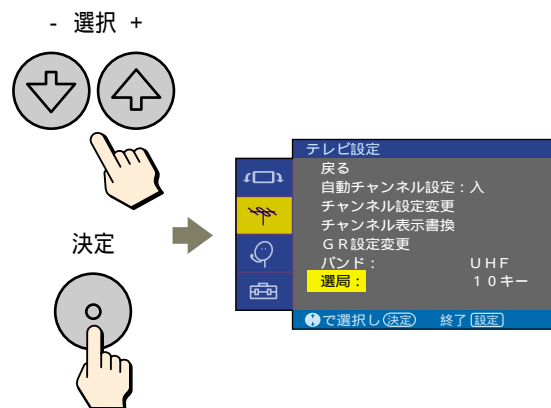
お買い上げ時は「ダイレクト選局」になっています。「ダイレクト選局」は、リモコンの数字ボタンと同じチャンネルが映る選局方法で、受信できるチャンネル数は最大16局です。
そのため、ケーブルテレビなど見たいチャンネルの数が16局を越えるときは、「10キー選局」に変えてください。
「10キー選局」では、数字ボタンを十の位・一の位の順に押した後、⑫（＝選局）ボタンを押して、チャンネルを選びます。0は⑩ボタンを使います。

ちょっと一言

- BS放送は、「10キー選局」に変えても、リモコンのBS5〜11ボタンを押して、直接選べます。
- 数字ボタンを押した後、⑫（＝選局）ボタンを押さないで3秒たつと、自動的にチャンネルが変わります。

例）14**チャンネル**

20**チャンネル**

本体のボタンを使います。

1 **設定ボタンを押す。**

2 **選択⇧/⇩ボタンで「(テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **選択⇧/⇩ボタンで「選局」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **選択⇧/⇩ボタンで「10キー」を選び、決定ボタンを押す。**

5 **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

ダイレクト選局に戻すには

手順4で「ダイレクト」を選ぶ。

ご注意

- チャンネルを自動設定する（☞38ページ）ときは、ダイレクト選局に戻してから行ってください。
- ケーブルテレビのときは、手順2（☞46ページ）の後に下記の操作をした後、手順3以降を行ってください。
  1 選択⇧/⇩ボタンで「バンド」を選び、決定ボタンを押す。
  2 選択⇧/⇩ボタンで「CATV」を選び、決定ボタンを押す。
  3 手順3以降を行う。

チャンネル＋/－ボタンで選ぶ放送を設定するには

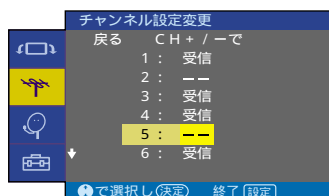
お買い上げ時は1～12チャンネルとBS5、BS7、BS9、BS11が順に選ばれるように設定されています。ケーブルテレビなどでこれ以外のチャンネルを選ぶときや、放送がないチャンネルをとばすときは、次のように設定します。
本体のボタンを使います。

1 **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**

2 **選択⇧/⇩ボタンで「 (テレビ設定)」を選び、決定ボタンを押す。**

3 **選択⇧/⇩ボタンで「チャンネル設定変更」を選び、決定ボタンを押す。**

4 **選択⇧/⇩ボタンで見たいチャンネル、またはとばしたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。**

5 **選択⇧/⇩ボタンで見たいチャンネルのときは「受信」を、とばしたいチャンネルのときは「– –」を選び、決定ボタンを押す。**

6 **複数のチャンネルを設定するときは、手順4と5をくり返す。**

7 **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

ゴーストの少ない画像にする
（ゴースト・リダクション）

本機では、建物や地形などによる妨害波で起こるゴーストを、放送局から送信されるゴースト除去基準信号を感知して、少なくする（リダクション）ように、チャンネルごとに設定できます。
「GR」はゴースト・リダクションの略です。

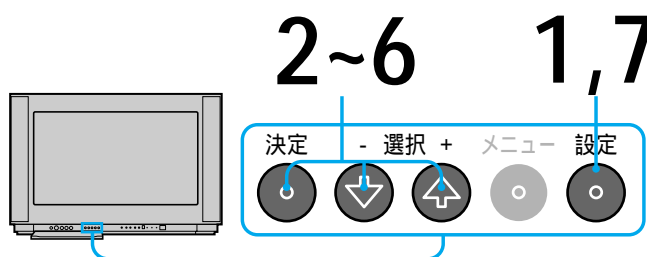
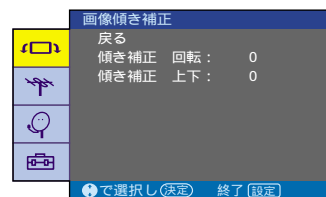
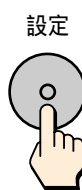
ご注意

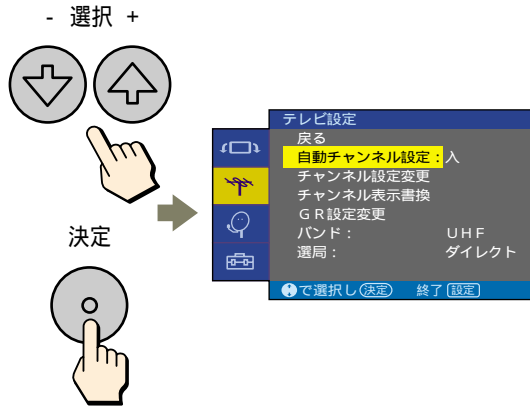
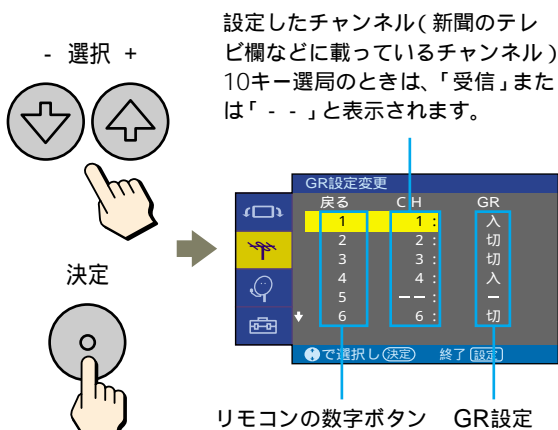
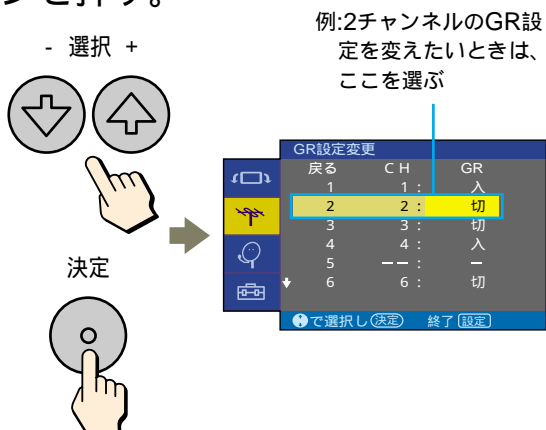
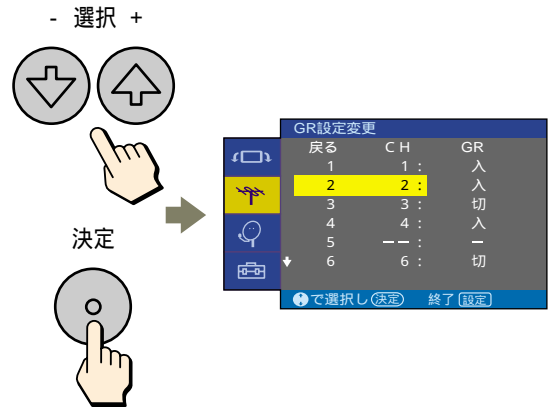
- BS放送にはゴースト除去基準信号が含まれていないため、設定できません。
- ビデオ機器の再生画像などテレビにつないだ機器の映像に対しても設定できません。

本体のボタンを使います。

1 **設定ボタンを押す。**

テレビの接続と準備

次のページにつづく

ゴーストの少ない画像にする（つづき）

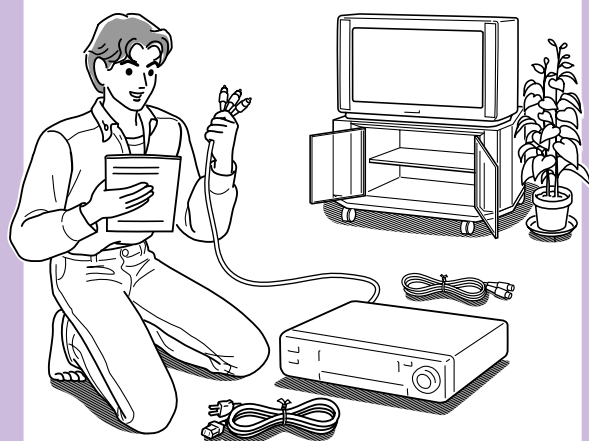
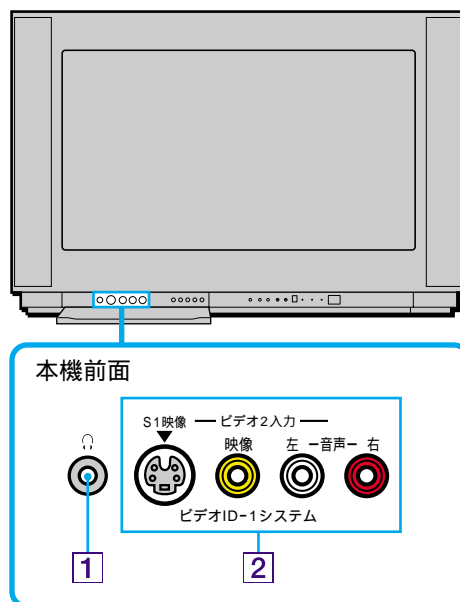
2 選択⇧/⇩ボタンで「📡（テレビ設定）」を選び、決定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「GR設定変更」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで設定を変えたいチャンネルを選び、決定ボタンを押す。

5 選択⇧/⇩ボタンで「入」または「切」を選び、決定ボタンを押す。

6 複数のチャンネルを設定するときは、手順4と5をくり返す。

7 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

ご注意

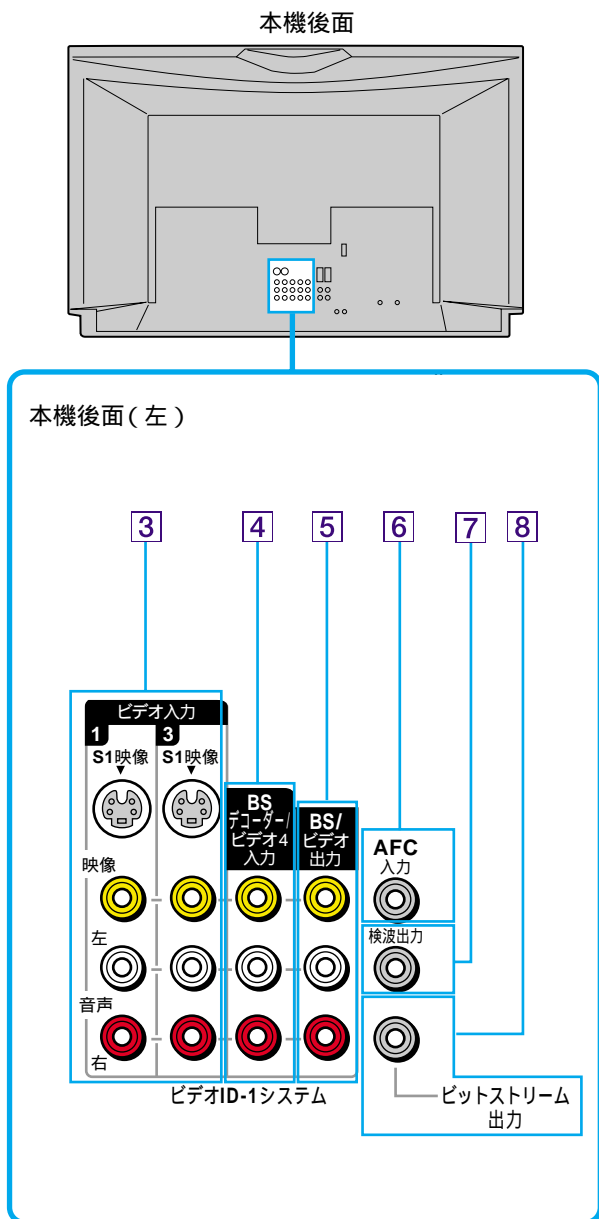
- ゴースト・リダクションは、チャンネルを切り換えた後、数秒してから働き、大きなゴーストから順々に少なくしていきます。このとき、画像が一瞬またたくことがあります。
- 受信している電波が弱いときは、大きなゴーストに働くと別のゴーストが起きることがありますが、徐々に少なくしていきます。
- アンテナの設置や調整のときは「GR」を「切」にすると、ゴーストの少ない方向を確認できます。
- 次のときは効果が十分に出ないため、「GR」を「切」にしてください。
  - ゴーストが大きすぎるとき
  - ゴーストが同時に10波以上起きているとき
  - 飛行機に反射して起きるゴーストなど、一定でないゴーストのとき
  - 室内アンテナなどアンテナの設置や調整が適切に行われていないとき
- 2画面（☞11ページ）のときは左画面のみ、インデックス画面（☞15ページ）のときは親画面のみ、ゴースト・リダクションが働きます。

他機との接続

ここでは、接続端子の名前とはたらき、およびビデオデッキなど他の機器のつなぎかたについて説明しています。
テレビを見るための接続と準備については、「テレビの接続と準備」（☞31～48ページ）をご覧ください。

接続端子の名前とはたらき

☞のページに詳しい説明があります。

1 ヘッドホン端子（☞14ページ）
ヘッドホンをつなぎます。

2 ビデオ2入力端子（S1映像/映像/音声）（ID-1システム）（☞66ページ）
テレビゲームやビデオカメラレコーダーなどのビデオ出力端子につなぎます。

接続端子の名前とはたらき（つづき）

☞のページに詳しい説明があります。

3 ビデオ1、3入力端子（S1映像/映像/音声）（ID-1システム）（☞52～55ページ）
ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

4 BSデコーダー/ビデオ4入力端子（映像/音声）（ID-1システム）（☞62～64ページ）
設定メニューの「 （BS設定）」の「デコーダー/ビデオ」の設定によって、働きかたが異なります（☞53ページ）。

「デコーダー」に設定したとき（☞64ページ）
BSデコーダー入力端子として働きます。
BSデコーダー（WOWOW）やMUSE-NTSCコンバーターの映像/音声出力端子につなぎます。

「ビデオ4」に設定したとき（☞53ページ）
ビデオ4入力端子として働きます。
ビデオデッキやレーザーディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなどのビデオ機器、およびデジタルCSチューナーなどのビデオ出力端子につなぎます。

5 BS/ビデオ出力端子（映像/音声）（ID-1システム）（☞52～55ページ）
ビデオデッキなどのビデオ入力端子につなぎます。
VHF/UHF、BS、ビデオ1～4入力*、AVマルチ入力の信号を出力します。
* ただし、ビデオ1入力の信号については、設定メニューの「 （初期設定）」の「ビデオ出力設定」で出力されるように設定する必要があります（☞53ページ）。
また、ビデオ4入力の信号のときは、BSデコーダー/ビデオ4入力端子をビデオ入力端子として働くように設定する必要があります（☞53ページ）。

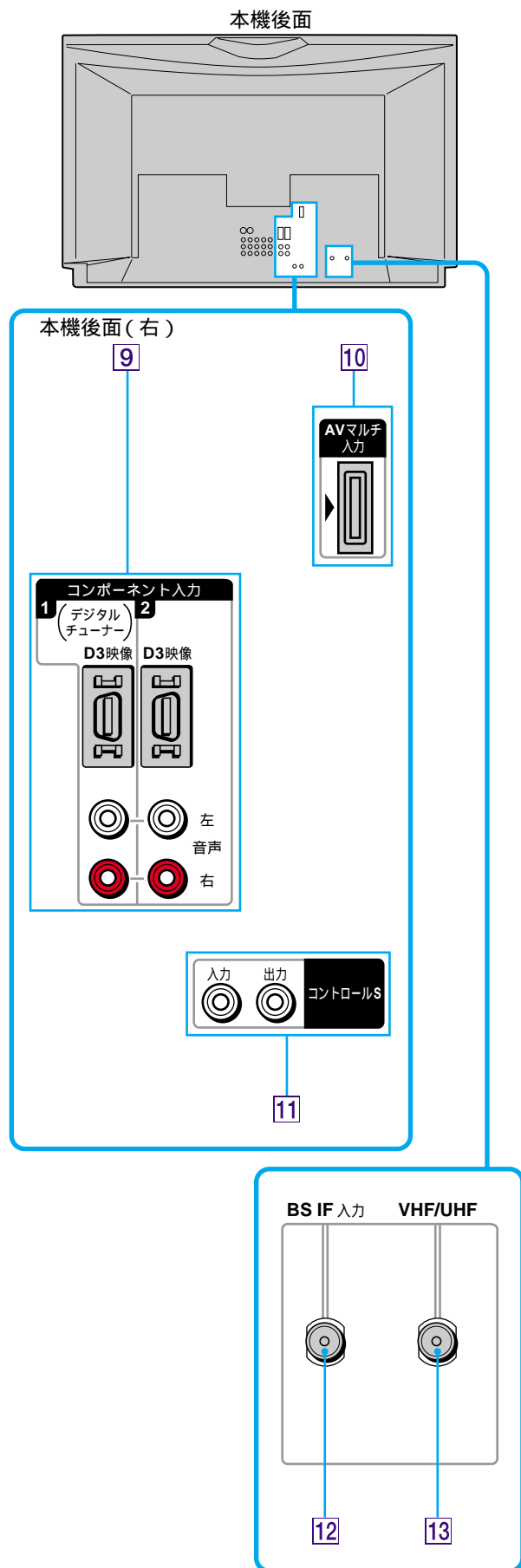
ご注意
- BSデコーダー（WOWOW）をつないでいるときは、スクランブルを解除した信号を出力します。
- コンポーネント入力端子につないだ機器の映像信号は出力しません。

BS固定（☞28ページ）のときのご注意
以下の信号を出力します。
- **BS固定が「切」のとき**:
テレビに映っている映像と音声を出力します。
- **BS固定が「入」のとき**:
テレビに映っている映像と音声には関係なく、BS固定したBSチャンネルの映像と音声を出力します。

多画面のときのご注意
- 2画面（☞11ページ）のときは、左画面の信号を出力します。
- インデックス（☞15ページ）のときは、親画面の信号を出力します。

6 AFC入力端子（☞68、69ページ）
MUSE-NTSCコンバーターなどハイビジョン機器のAFC出力端子につなぎます。

7 検波出力端子（☞62～64、68、69ページ）
BSデコーダー（WOWOW）のFM検波入力端子につなぎます。

8 ビットストリーム出力端子（☞62～64ページ）
BSデコーダー（WOWOW）のビットストリーム入力端子につなぎます。

☞のページに詳しい説明があります。

9 コンポーネント（D端子）1、2入力端子（D3映像/音声）（☞56、57、60、66、70ページ）

将来発売が予定されているBSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーなどのD映像出力端子につなぎます。

D端子について

BSデジタル放送*には次のような信号フォーマットがあります。

＊ BSデジタル放送の受信には、別途、BSデジタルチューナーが必要となります。

信号フォーマット	走査線数	有効走査線数
525i (480i)	525本	480本
525p (480p)	525本	480本
1125i (1080i)	1125本	1080本
750p (720p)	750本	720本

iはインターレース：飛び越し走査、pはプログレッシブ：順次走査の略です。（☞78ページ）
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

BSデジタル放送の信号フォーマットに対応するD端子の種類は次のようになっています。

D端子の種類とその対応信号フォーマット

D端子の種類	525i	525p	1125i	750p
D1端子	○	×	×	×
D2端子	○	○	×	×
D3端子	○	○	○	×

本機にはD3映像入力端子がついています。BSデジタルチューナーの出力設定については、BSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

コンポーネント入力端子につないだ機器の画像について（HDモード）

コンポーネント1、2入力端子では、D3映像入力端子からの識別制御信号を自動的に判別して、D3映像入力端子につないだMUSEデコーダーからの現行ハイビジョン放送（BS9）と、D3映像入力端子につないだBSデジタルチューナーなどからの将来放送が予定されているデジタルハイビジョン（HD）放送の画像を自動的に切り換えます（「HDモード:オート」）。お買い上げ時は、「HDモード:オート」になっているため、設定を変える必要はありません。
また、D3映像入力端子からの識別制御信号がないときの画像は、「HDモード:オート」のとき、有効走査線数1035本の画像で表示します。
なお、メニューの「（各種切換）」で、「HDモード」を次のように固定することもできます。

- 現行ハイビジョン放送（BS9）（有効走査線数:1035本）に固定したいときは、「HDモード:1035」にする。
- 将来予定されているデジタルハイビジョン（HD）放送*（有効走査線数:1080本）に固定したいときは、「HDモード:1080」にする。

＊ デジタルハイビジョン（HD）放送は、1125iと750pの信号フォーマットでの放送のことです。

他機との接続

次のページにつづく

⑩ AVマルチ入力端子（☞65ページ）
別売りのAVマルチケーブル（VMC-AVM250）を使って、“プレイステーション 2”または“プレイステーション”のAVマルチ出力端子につなぎます。RGB接続になり、よりきれいな映像でゲームを楽しめます。

⑪ コントロールS端子（☞56〜60ページ）

入力端子
他機のコントロールS出力端子につないで、他機から本機を操作できます。

出力端子
他機のコントロールS入力端子につないで、本機にリモコンを向けて他機を操作できます*。
または、今後発売予定のソニー製BSデジタルチューナーとの接続で、「ソニー・デジタルチューナーコントロール」の設定をすると、本機のリモコンでBSデジタルチューナーの基本的な操作ができます。

* 本機の電源が入っているとき、またはスタンバイ／オフタイマーランプが赤く点灯しているときに限ります。本体の電源が入っていない（スタンバイ／オフタイマーランプが点灯していない）ときは、このような操作はできません。

⑫ BS IF入力端子（☞36ページ）
BSアンテナからの同軸ケーブルをつなぎます。BSアンテナ用の電源を供給するため、DC15Vの直流電圧が出ています。VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルは絶対につながないでください。

⑬ VHF/UHFアンテナ端子（☞34、35ページ）
VHF/UHF用のアンテナ接続ケーブルやケーブルテレビのケーブルをつなぎます。

ビデオをつなぐ

ビデオデッキ、ビデオカメラ、またはレーザーディスクプレーヤーなどをつなぎます。それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

S1映像端子と映像端子のどちらにつなぐか迷ったときは

よりよい画質でご覧いただくために、下表の端子につないでください。
つなぐ機器にS映像端子がない場合は、映像端子につなぎます。

つなぐ機器	つなぐ端子
レーザーディスクプレーヤー *1	映像
ビデオデッキ*2 ビデオカメラの再生	S1映像
BSデジタルチューナー*3	S1映像
デジタルCSチューナー*3	S1映像
DVDプレーヤー*4	S1映像
テレビゲーム	S1映像

*1 三次元Y/C分離回路搭載のレーザーディスクプレーヤーのときは、接続による画質の差はほとんど生じません。再生モードにはノーマルを選び、デジタルで再生しないでください。詳しくは、レーザーディスクプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

*2 TBC（タイムベースコレクター）内蔵ビデオデッキでNTSC標準信号化できる場合も含みます。

*3 D映像出力端子付きのBSデジタルチューナーまたはデジタルCSチューナーのときは、本機のコンポーネント1（D3映像）入力端子につないでください（☞56、57、60ページ）。

*4 コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは、本機のコンポーネント（D3映像）入力端子につないでください（☞66ページ）。

本機ビデオ1～3入力のS1映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは

ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを、ビデオ入力ごとにメニュー画面で設定できます。お買い上げ時は、S1映像入力端子から入力された画像が映ります。

1 ビデオボタンをくり返し押して、切り換えたいビデオ入力を選ぶ。

2 メニューボタンを押して、メニューを出す。

3 ↑/↓で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

4 ↑/↓で「S映像」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

5 S1映像入力端子から入力された画像を見るときは

↑/↓で「入」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

映像入力端子から入力された画像を見るときは

↑/↓で「切」を選び、真ん中を押しこんで決定する。

6 メニューボタンを押して、メニューを消す。

本機BSデコーダー/ビデオ4入力端子にビデオ機器をつなぐときは

ビデオ4入力端子として働くように、以下の設定をしてください。

本体のボタンを使います。

1 設定ボタンを押して、設定メニューを出す。

2 選択⇧/⇩ボタンで「(BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「デコーダー/ビデオ」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「ビデオ4」を選び、決定ボタンを押す。

5 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

ビデオ1入力の信号をBS/ビデオ出力端子から出力するときは

お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号は、BS/ビデオ出力端子から出力されないようになっています。

そのため、BS/ビデオ出力端子につないだオーディオ機器などで、ビデオ1入力の音声を楽しむときなど（☞71ページ）は、以下の設定をしてください。ビデオ1入力端子につないだ機器の映像および音声がBS/ビデオ出力端子から出力されます。

本体のボタンを使います。

1 設定ボタンを押して、設定メニューを出す。

2 選択⇧/⇩ボタンで「(初期設定)」を選び、決定ボタンを押す。

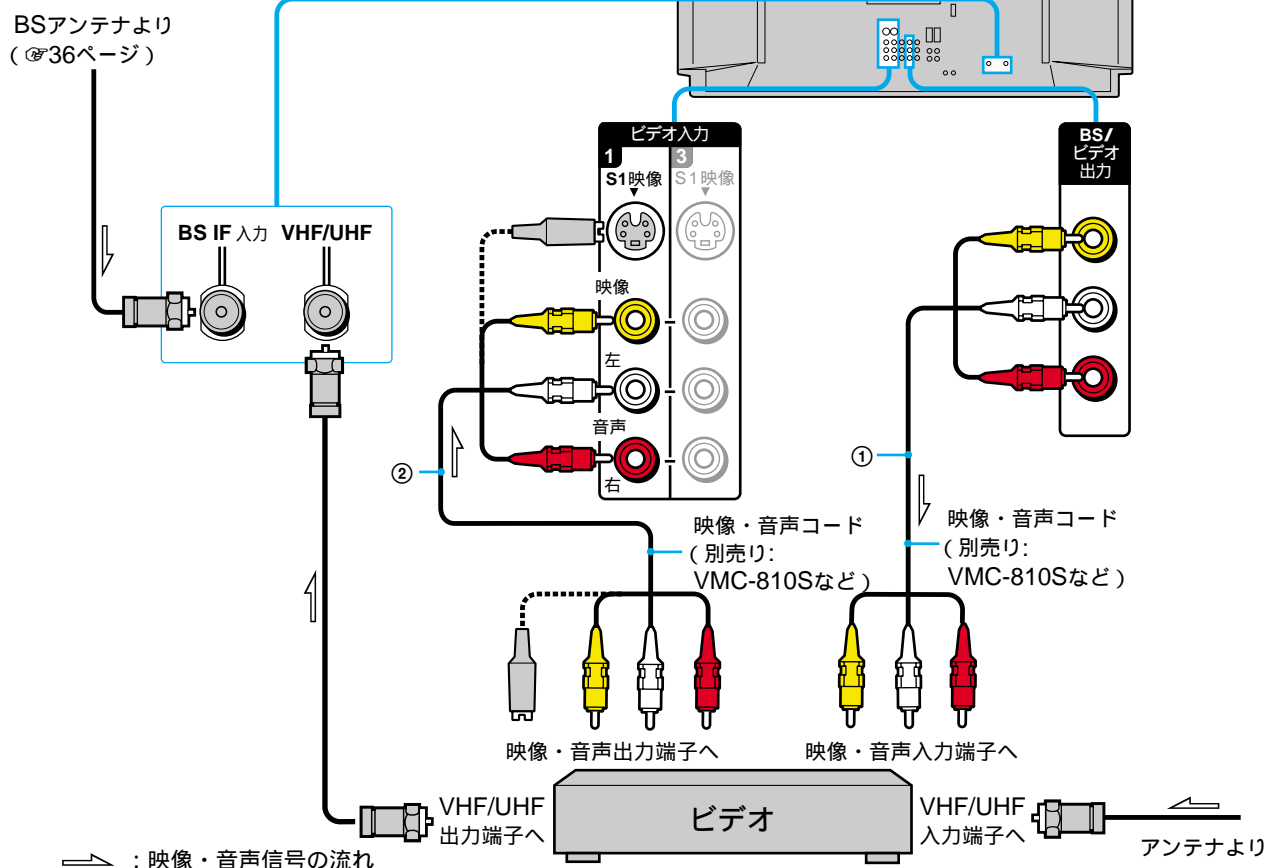
3 選択⇧/⇩ボタンで「ビデオ出力設定」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「ビデオ1あり」を選び、決定ボタンを押す。

5 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

他機との接続

BSチューナーのないビデオのとき

BS放送を録画したり（必ずBS固定にしてください☞28ページ）、ビデオ機器の再生画像を見るための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

①BS放送をビデオに録画するための接続です（☞28ページ）。

②ビデオの再生画像を見るための接続です（☞18ページ）。ビデオにS映像出力端子があるときはS映像・音声コード（別売り:YC-810Sなど）でつなぐと、よりきれいな画像を楽しめます。

ビデオを見るには

ビデオボタンを押して、ビデオをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞18ページをご覧ください。

ご注意

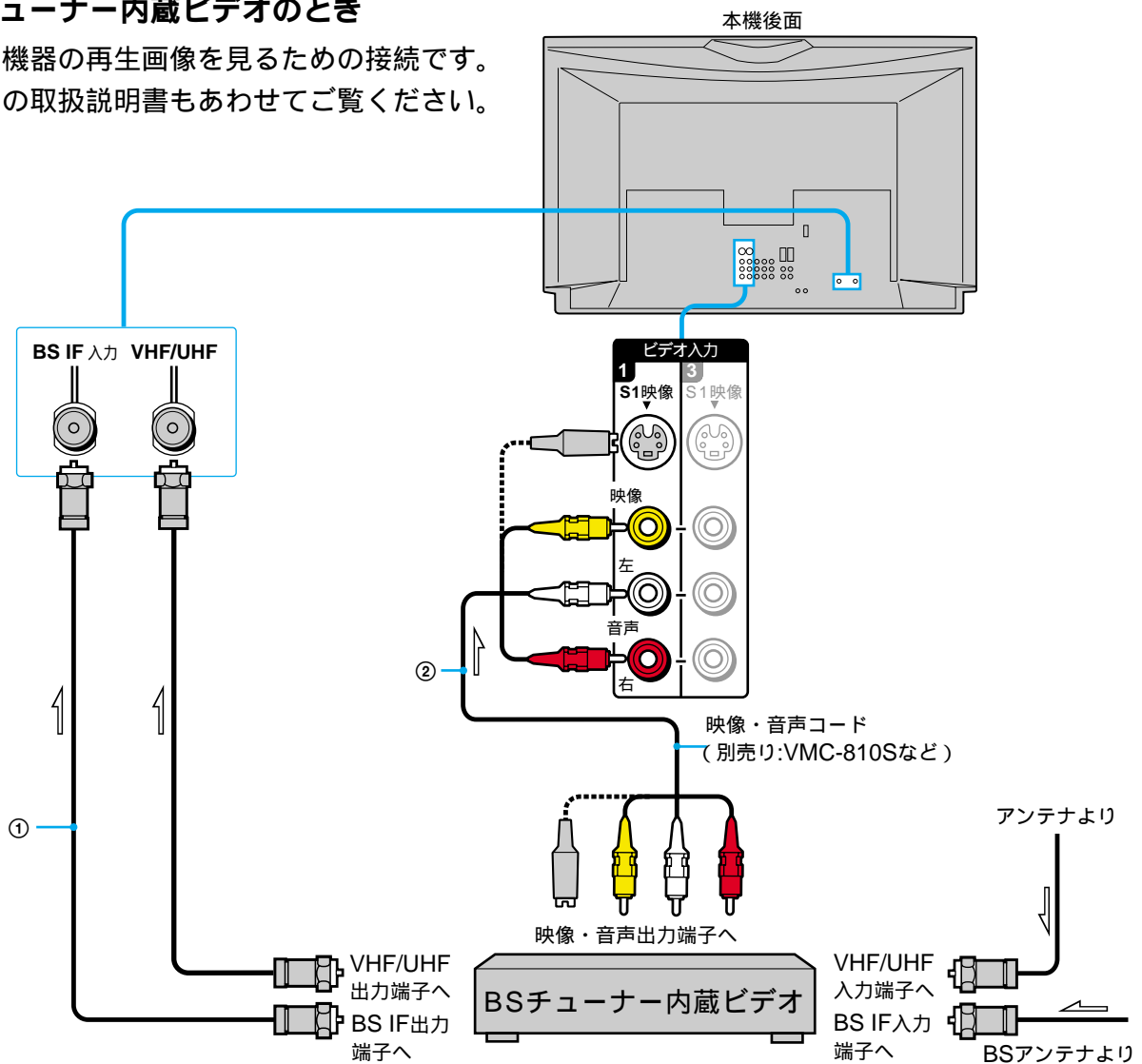
- BS放送を録画するときは、BS固定をしてください（☞28ページ）。BS固定をすると、ビデオをつないだ端子のビデオ入力を選んで、録画している画像を確認し、本機で受信しているBS放送がビデオに正しく録画されているかをチェックできます。
  BS固定をしないと、チャンネルを選んだり、インデックス画面を操作したときなどに、画像が乱れることがあります。
- テレビをモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2、3入力端子、またはBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞53ページ）。

BSチューナー内蔵ビデオのとき

ビデオ機器の再生画像を見るための接続です。
ビデオの取扱説明書もあわせてご覧ください。

⟹：映像・音声信号の流れ

①本機とビデオの両方のBSチューナーを使うときの接続です。ビデオ内蔵のBSチューナーでBS放送を裏録画しながら、本機内蔵のBSチューナーで他のBS放送を見ることができます。

②ビデオの再生画像を見るための接続です（☞18ページ）。ビデオにS映像出力端子があるときはS映像・音声コード（別売り:YC-810Sなど）でつなぐと、よりきれいな画像を楽しめます。

ビデオを見るには

ビデオボタンをくり返し押して、ビデオをつないだビデオ1入力（「ビデオ1」）を表示させる。
詳しくは、☞18ページをご覧ください。

ご注意

テレビをモニターとして使い、ビデオなどで編集するときは、再生機をビデオ1入力を除いたビデオ2、3入力端子、またはBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。お買い上げ時は、ビデオ1入力端子につないだ機器の信号はBS/ビデオ出力端子から出力されない設定になっているためです（☞53ページ）。

BSデジタルチューナーをつなぐ

BSデジタル放送は2000年12月から本放送が開始される予定です。本機は今後発売予定のBSデジタルチューナーをつなげます。
BSデジタルチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

BSチューナーのないビデオのとき

* ソニー製コントロールS入力端子付きのBSデジタルチューナーをつなぐときの接続です。本機のリモコンを本機に向けてBSデジタルチューナーの基本的な操作ができます。(☞58ページ)。
また、本機の電源が入っているときや、スタンバイ／オフタイマーランプが赤く点灯しているときは、BSデジタルチューナーのリモコンを本機に向けてBSデジタルチューナーを操作することもできます。本体の電源が入っていない（スタンバイ／オフタイマーランプが点灯していない）ときは、このような操作はできません。

BSチューナー内蔵ビデオのとき

BSアンテナより

サテライト分配器
（別売り:EAC-BC2など）

BS IF 入力　VHF/UHF

本機後面

サテライト用同軸ケーブル
（室内用:別売り）

ビデオ入力　1 S1映像　3 S1映像　映像　左　音声　右

入力　出力　コントロールS

コンポーネント入力　1 デジタルチューナー　2　D3映像　D3映像

S映像・音声コード
（別売り:YC-810Sなど）
ビデオにS映像出力端子がないときは、S映像コードの代りに映像コードでつないでください。

音声コード
（別売：RK-C310など）

コントロールS接続コード*
（別売り:RK-G34など）

D映像コード
（別売り:VMC-DD20など）

BS IF出力端子へ　VHF/UHF出力端子へ

S映像・音声出力端子へ

S映像・音声入力端子へ

コントロールS入力端子へ

D映像出力端子へ

音声出力端子へ

BSチューナー内蔵ビデオ

BSデジタルチューナー

BS IF入力端子へ

VHF/UHF入力端子へ

S映像・音声出力端子へ

BS IF入力端子へ

アンテナより

S映像・音声コード
（別売り:YC-810Sなど）
ビデオにS映像入力端子がないときは、S映像コードの代りに映像コードでつないでください。

：映像・音声信号の流れ

* ソニー製コントロールS入力端子付きのBSデジタルチューナーをつなぐときの接続です。本機のリモコンを本機に向けてBSデジタルチューナーの基本的な操作ができます。(☞58ページ)。
また、本機の電源が入っているときや、スタンバイ／オフタイマーランプが赤く点灯しているときは、BSデジタルチューナーのリモコンを本機に向けてBSデジタルチューナーを操作することもできます。本体の電源が入っていない（スタンバイ／オフタイマーランプが点灯していない）ときは、このような操作はできません。

BSデジタルチューナーをつなぐ（つづき）

BSデジタル放送を見るには

コンポーネントボタンをくり返し押して、BSデジタルチューナーをつないだコンポーネント1入力（「コンポーネント1（D端子）」）を表示させる。
詳しくは、☞18ページをご覧ください。

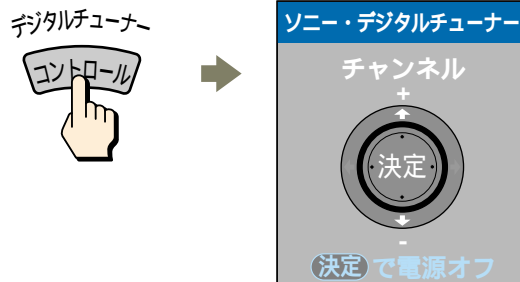
本機のリモコンでデジタルチューナーの操作をするには

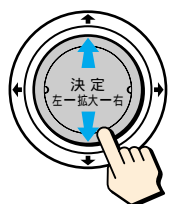
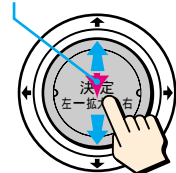
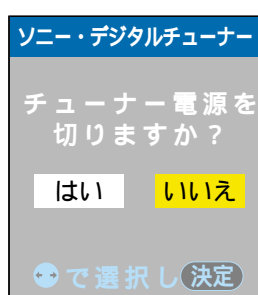
将来発売が予定されているソニー製コントロールS端子付きのBSデジタルチューナーをコンポーネント1入力につないだときは、本機のリモコンを本機に向けて、デジタルチューナーの基本的な操作ができます。「ソニー・デジタルチューナーコントロール」の設定をしてください。

ご注意

本機のリモコンではBSデジタルチューナーのチャンネルの選択、チューナー電源を切るなど以外はデジタルチューナーの操作はできません。基本的な操作以外は、デジタルチューナーのリモコンを本機に向けてデジタルチューナーを操作してください。

設定には本体のボタンを使います。

1. **コントロールS端子をつなぐ（☞56ページ）。**
2. **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
3. **選択⇧/⇩ボタンで「（初期設定）」を選び、決定ボタンを押す。**
4. **選択⇧/⇩ボタンで「ソニー・デジタルチューナーコントロール」を選び、決定ボタンを押す。**
5. **選択⇧/⇩ボタンで「あり」を選び、決定ボタンを押す。**
6. **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**
7. **本機のリモコンのデジタルチューナー・コントロールボタンを押す。**
   デジタルチューナーの電源が入り、コンポーネント1入力に入力が切り換わって、「ソニー・デジタルチューナー」の操作ガイド画面が数秒間表示されます。

操作ガイド画面

“ ソニー・デジタルチューナー ”操作ガイド画面で、本機のリモコンを本機に向けて、以下の基本的な操作ができます。

リモコン操作をすると	以下のようになります。
↑/↓を押すと	デジタルチューナーのリモコンのチャンネル+/−ボタンと同じようにチューナーのチャンネルを選べます。 押すたびに、チャンネルが変わります。押したまま、連続でチャンネルを変えることはできません。
真ん中を押し込むと	以下の表示が出ます。 ←/→で「はい」を選び、真ん中を押し込んで決定すると、コンポーネント1入力につないだデジタルチューナーの電源が切れます。

操作ガイド画面を消すときは

もう1度デジタルチューナー・コントロールボタンを押す。

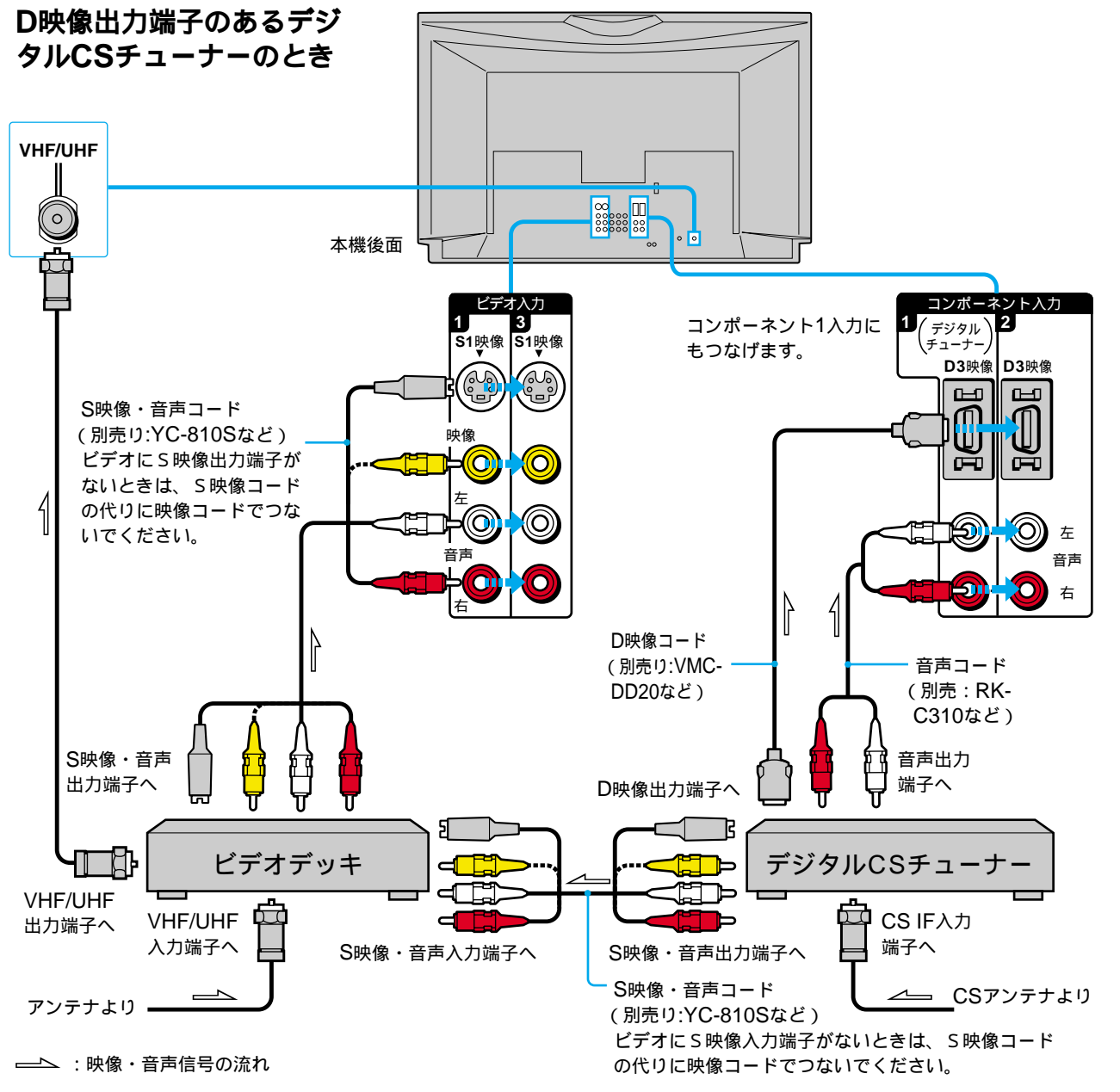
ご注意

- 「ソニー・デジタルチューナーコントロール:あり」の設定をすると、デジタルチューナー・コントロールボタンを押したとき、操作ガイド画面が出ます。コントロールS端子の接続をしていないと、操作ガイド画面が出てもデジタルチューナーを操作できません。
- 1画面のときは、操作ガイド画面が消えても上記の操作ができます。2画面のときは、操作ガイド画面が表示されているときのみ、上記の操作ができます。

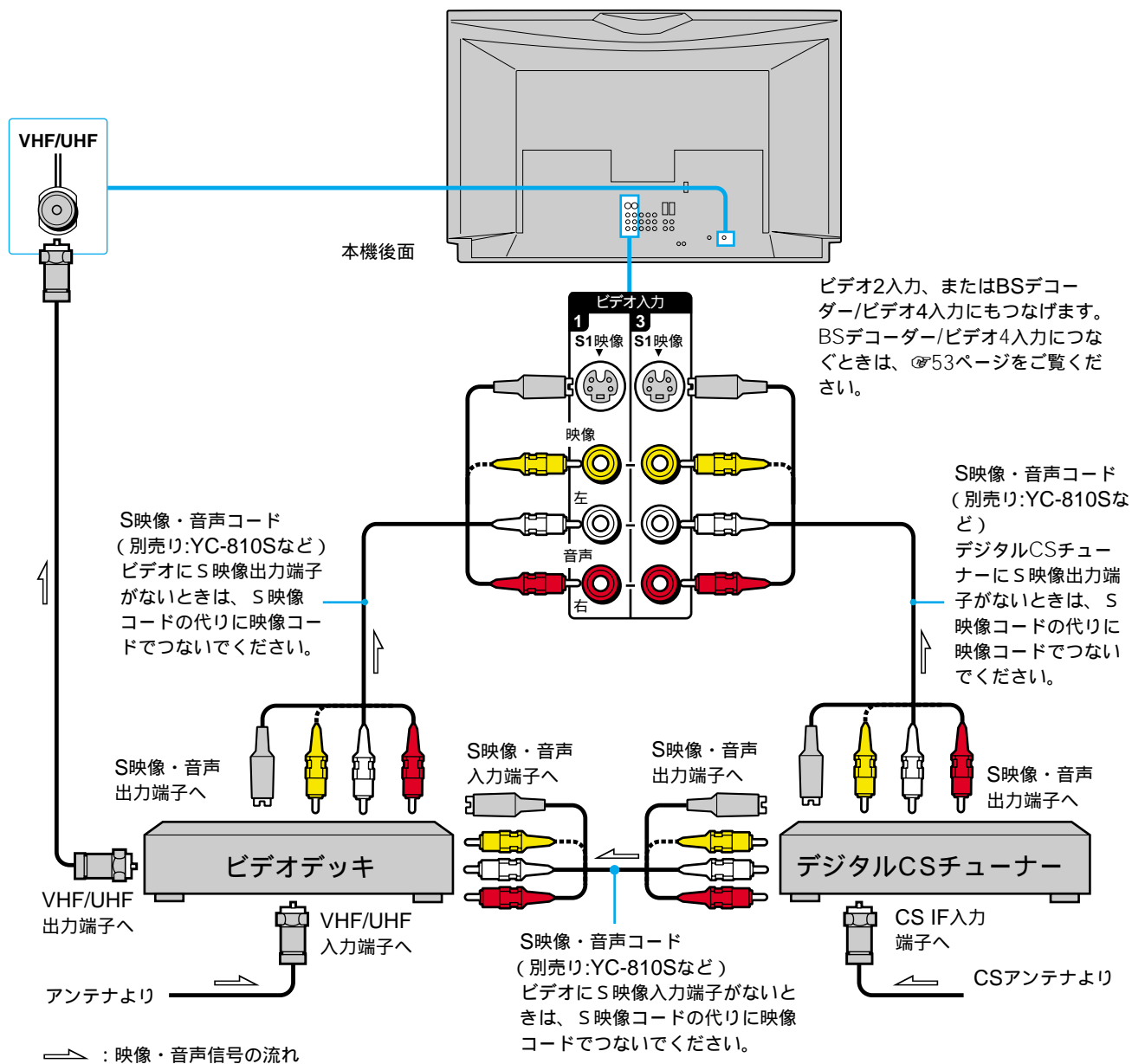
ちょっと一言

スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯しているときは、リモコンのデジタルチューナー・コントロールボタンを押すと、自動的にテレビの電源が入ります。同時にデジタルチューナーの電源が入り、コンポーネント1入力に切り換わります。

デジタルCSチューナーをつなぐ

デジタルCS放送を見るには、デジタルCS放送局と受信契約が必要です。詳しくはデジタルCS放送局へお問い合わせください。
デジタルCSチューナーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

デジタルCS放送を見るには

コンポーネントボタンをくり返し押して、デジタルCSチューナーをつないだコンポーネント1入力(「コンポーネント1（D端子)」）を表示させる。
詳しくは、☞18ページをご覧ください。

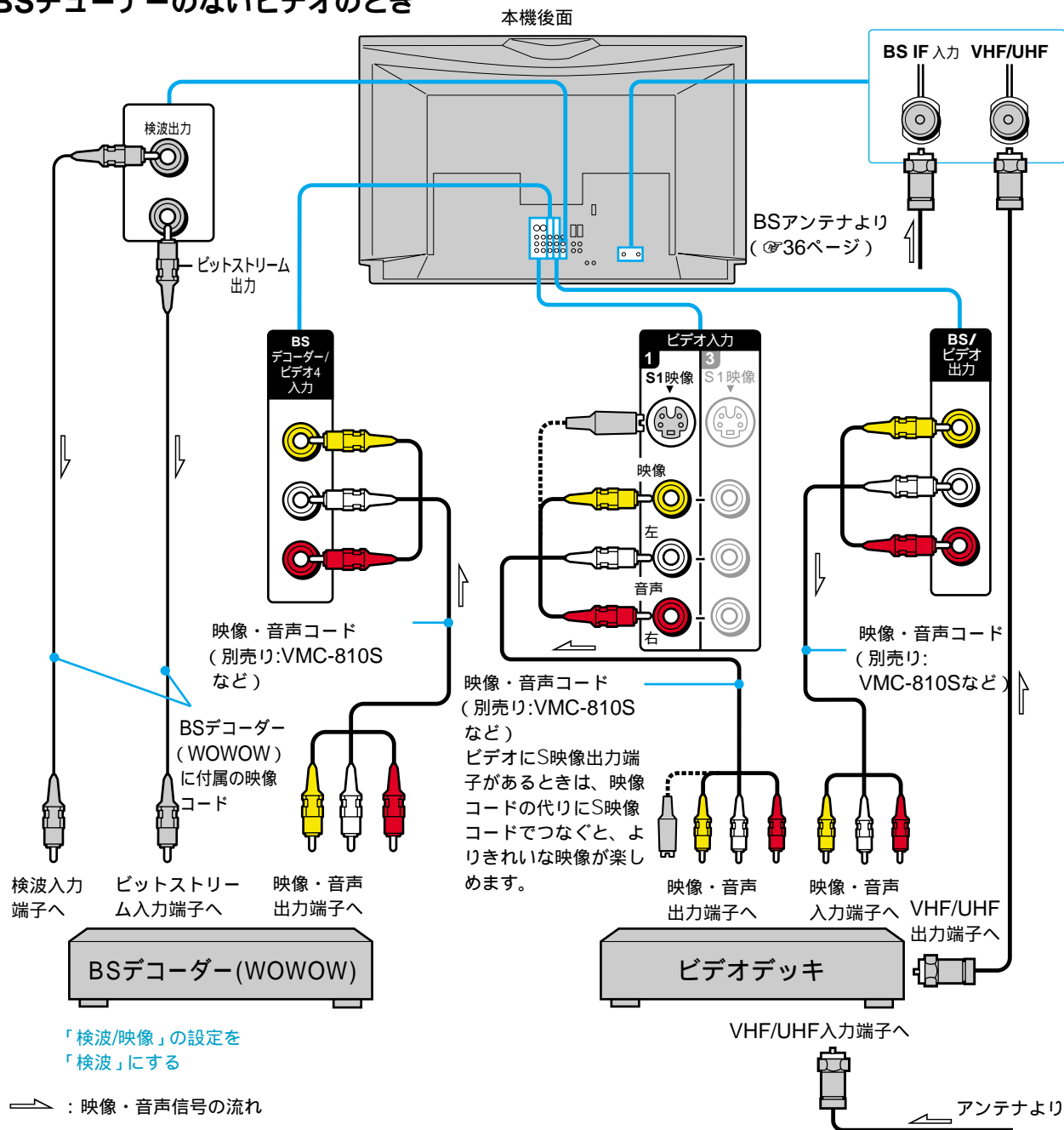
D映像出力端子のないデジタルCSチューナーのとき

デジタルCS放送を見るには

ビデオボタンをくり返し押して、デジタルCSチューナーをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。
詳しくは、☞18ページをご覧ください。

他機との接続

BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ

WOWOWを見るには、WOWOWと受信契約が必要です。詳しくはWOWOWへお問い合わせください。WOWOWを見るには、☞64ページをご覧ください。
WOWOWと受信契約をすると送られてくるBSデコーダー（WOWOW）の取扱説明書もあわせてご覧ください。また、BSデコーダー（WOWOW）とMUSE-NTSCコンバーターの両方をつなぐときは、☞69ページもあわせてご覧ください。

BSチューナーのないビデオのとき

ご注意
- WOWOWを録画するときは、テレビ側でWOWOWを受信し、録画してください。
- WOWOWも含めたBS放送を録画するときは、BS固定をしてください（☞28ページ）。BS固定をすると、ビデオをつないだ端子のビデオ入力を選んで、録画している画像を確認し、本機で受信しているBS放送がビデオに正しく録画されているかをチェックできます。
BS固定をしないと、チャンネルを選んだり、インデックス画面を操作したときなどに、画像が乱れることがあります。
- BSデコーダー（WOWOW）は、必ず本機のBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。BSデコーダー/ビデオ4入力端子以外につなぐと、チャンネルボタン（例:BS5）を押しても選局できません。

BSチューナー内蔵ビデオのとき

本機後面

BS IF 入力　VHF/UHF

BS デコーダー/ビデオ4 入力

ビデオ入力

1 S1映像

3 S1映像

映像

左

音声

右

検波出力

ビットストリーム出力

映像・音声コード（別売り：VMC-810Sなど）

映像・音声コード（別売り:VMC-810Sなど）
ビデオにS映像出力端子があるときは、映像コードの代りにS映像コードでつなぐと、よりきれいな映像が楽しめます。

映像コード（別売り：VMC-10など）

BS IF 出力端子へ

「検波/映像」の設定を「検波」にする

映像・音声出力端子へ

映像・音声出力端子へ

検波入力端子へ

ビットストリーム入力端子へ

VHF/UHF 出力端子へ

BSデコーダー(WOWOW)

BSチューナー内蔵ビデオ

ビットストリーム入力端子へ

検波入力端子へ

映像・音声出力端子へ

映像・音声入力端子へ

検波出力端子へ

ビットストリーム出力端子へ

BS IF入力端子へ

VHF/UHF 入力端子へ

映像・音声コード（別売り:VMC-810Sなど）

アンテナより

BSアンテナより

BSデコーダー（WOWOW）に付属の映像コード

：映像・音声信号の流れ

ご注意

- WOWOWを録画するときは、ビデオ側でWOWOWを受信し、録画してください。
- ソニー以外のBSチューナー内蔵ビデオデッキの中には、上記の接続でWOWOWを録画できないビデオがあります。そのときは、ビデオデッキのメーカーのお客様窓口へご相談ください。
- BSデコーダー（WOWOW）は、必ず本機のBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。BSデコーダー/ビデオ4入力端子以外につなぐと、チャンネルボタン（例:BS5）を押しても選局できません。

BSデコーダー（WOWOW）をつなぐ（つづき）

BSデコーダー/ビデオ4入力端子にBSデコーダー（WOWOW）をつなぐときは

お買い上げ時は、デコーダー入力端子として働くように設定されているため、**設定し直す必要はありません。**
ビデオ4入力端子としてビデオデッキなどをつないでいた代りに、新たにBSデコーダー（WOWOW）をつなぎ直したときは、設定し直してください。
本体のボタンを使います。

1. **設定ボタンを押して、設定メニューを出す。**
2. **選択⇧/⇩ボタンで「**(BS**設定)」を選び、決定ボタンを押す。**
3. **選択⇧/⇩ボタンで「デコーダー/ビデオ」を選び、決定ボタンを押す。**
4. **選択⇧/⇩ボタンで「デコーダー」を選び、決定ボタンを押す。**
5. **設定ボタンを押して、設定メニューを消す。**

WOWOWを見るには

BSデコーダー（WOWOW）の電源を入れて、本機リモコンのBS5ボタンを押す。

St.GIGAを聞くには

BSデコーダー（WOWOW）をつないでいるときにSt.GIGAを聞くときは、BSデコーダー（WOWOW）側で、音声を独立音声に切り換えてください（テレビで音声は切り換えられません）。ただし、St.GIGAを聞くには、WOWOWとは別に受信契約が必要です（ノンスクランブル放送のときを除く）。
また、 BSデコーダー（WOWOW）をつながなくても、 St.GIGAがノンスクランブルで放送しているときは、下記の操作を行うとSt.GIGAを聞くことができます。

1. **本機リモコンの**BS5**ボタンを押す。**
2. **メニューボタンを押して、メニューを出す。**
3. **⬆/⬇で「**（**各種切換）」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
4. **⬆/⬇で「**TV/**独立音声」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
5. **⬆/⬇で「独立」を選び、真ん中を押しこんで決定する。**
6. **メニューボタンを押して、メニューを消す。**

ちょっと一言
2000年4月現在、St.GIGAはBS5チャンネルでのみ放送されています。

“プレイステーション 2”、“プレイステーション”(PS one)および“プレイステーション”をつなぐ

“プレイステーション 2”、
“プレイステーション”（PS one）および
“プレイステーション”の取扱説明書もあわせて、お読みください。

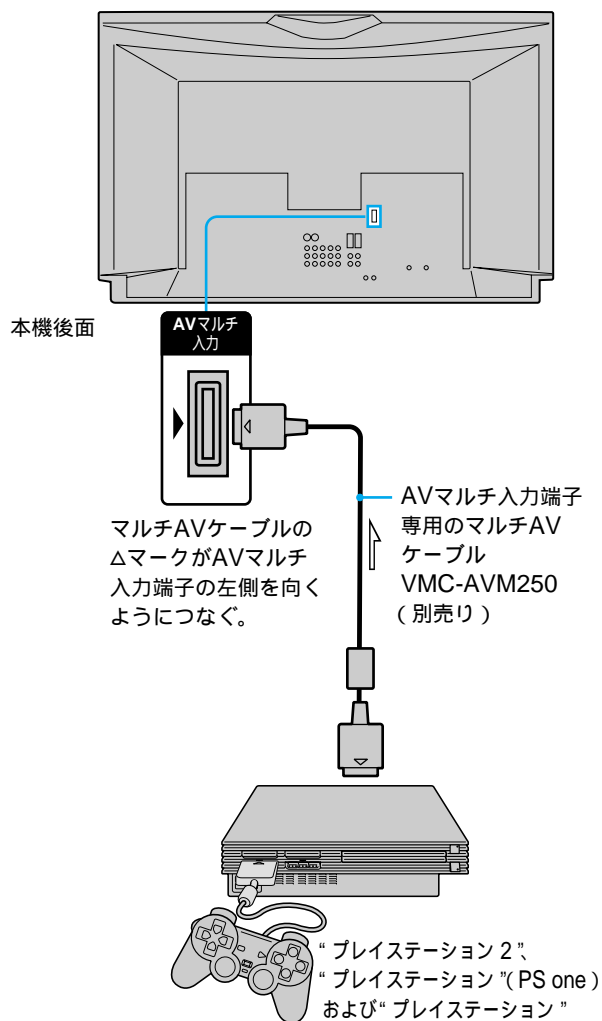
ご注意
“プレイステーション 2”の一部の機種では、マルチAVケーブル（VMC-AVM250）で接続し、DVDビデオを再生した場合、出力信号（RGB）がコンポーネント映像信号（Y CB/PB CR/PR）に固定されるため、画面が乱れる場合があります。
このときは、
• “プレイステーション 2”付属のAVケーブル（映像／音声一体型）
• “プレイステーション 2”専用S端子ケーブル SCPH-10060（別売り）

など、“プレイステーション 2”に対応した他のケーブルを使ってください。
詳しくは、“プレイステーション 2”本体の取扱説明書をご覧いただくか、下記にお問い合わせください。

株式会社　ソニー・コンピュータエンタテインメント
インフォメーションセンター
ナビダイヤル 0570-000-929
（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
携帯電話・PHSでのご利用は 03-3475-7444
受付時間：10:00～18:00（土日祝日を除く）

“プレイステーション”は 株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。
また、“PS one”は同社の商標です。

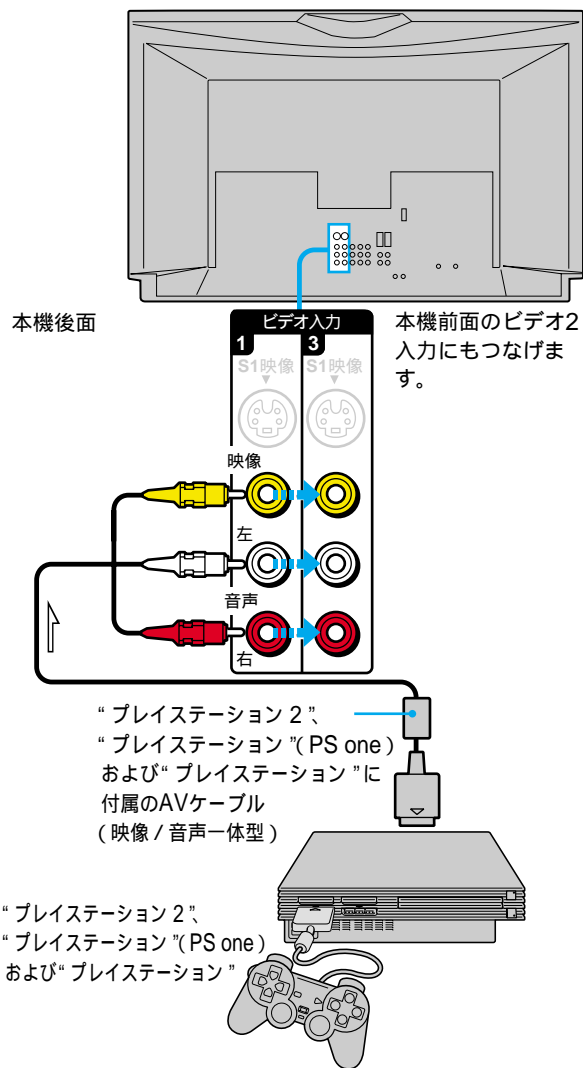
別売のマルチAVケーブルでつなぐときは

RGB接続になり、よりきれいな画像でゲームを楽しむことができます。

“プレイステーション 2”、“プレイステーション”(PS one) および“プレイステーション”の画面の左右位置を調整するには

1. メニューボタンを押して、メニューを出す。
2. ♠/♣で「(各種切換)」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
3. ♠/♣で「AVマルチ画面位置」を選び、真ん中を押しこんで決定する。
4. ♠/♣で画面の左右位置を調整する。
5. メニューボタンを押して、メニューを消す。

ちょっと一言

- AVマルチ入力端子は、RGB映像信号のため、ビデオ入力端子に比べて色の帯域が広くなっています。色あいが異なる場合がありますが、本機に影響はありません。
- AVマルチ入力端子につないだ機器の映像によっては、DRC-MFモード切換ボタン（☞11ページ）が働かないことがあります。
- 「AVマルチ画面位置」は、「AVマルチ」の画像でのみ、調整できます。

“プレイステーション 2”、“プレイステーション”(PS one) および“プレイステーション”に付属のAVケーブル（映像／音声一体型）でつなぐときは

“プレイステーション 2”、“プレイステーション”(PS one) および“プレイステーション”を使うには

入力切換用のボタンを押して、“プレイステーション 2”、“プレイステーション”(PS one) および“プレイステーション”をつないだ入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」または「AVマルチ」いずれか）を表示させる。
詳しくは、☞18ページをご覧ください。

“プレイステーション 2”をマルチAVケーブルで接続する場合は、入力切換を行う前に、“プレイステーション 2”側のシステム設定画面で、「コンポーネント映像出力」を「RGB」に設定してください。（本機側ではできません。）

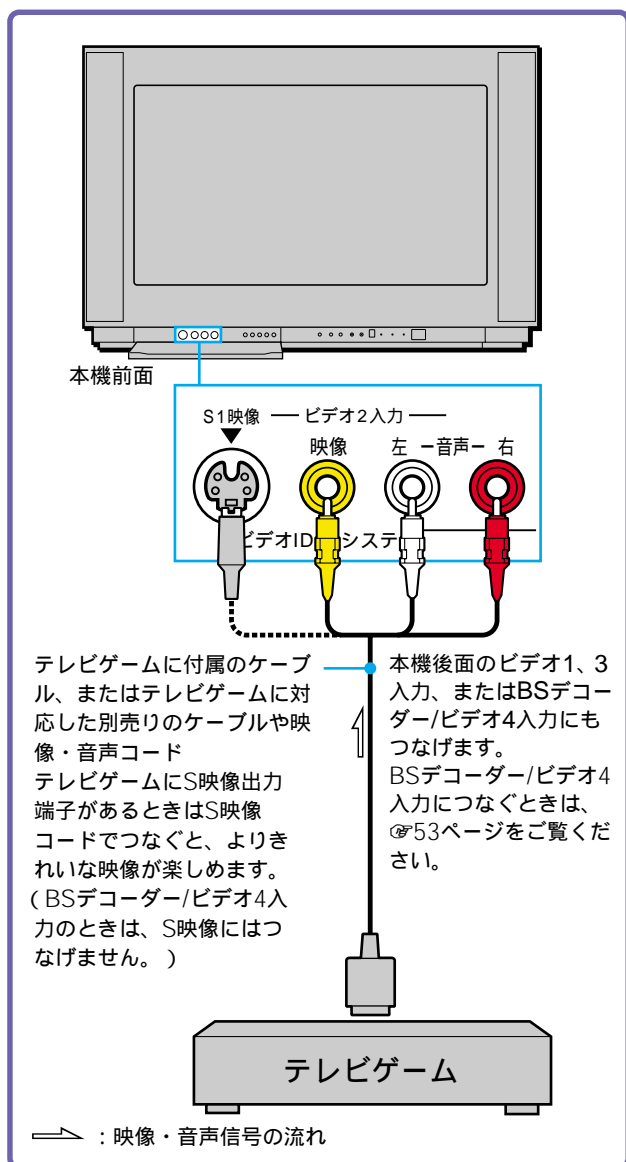
ご注意

- 電子的なライフルやガン（銃）などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、各ソフトウェアの解説書をご覧ください。
- 将来の“プレイステーション 2”用の高解像度ゲームソフトなどには、本機は対応していません。詳しくは、各ソフトウェアの解説書をご覧ください。

次のページにつづく

他機との接続

その他のテレビゲームなどをつなぐ

本機前面のビデオ2入力端子にテレビゲームをつなぎます。テレビゲームの取扱説明書もあわせてお読みください。

テレビゲームをするには

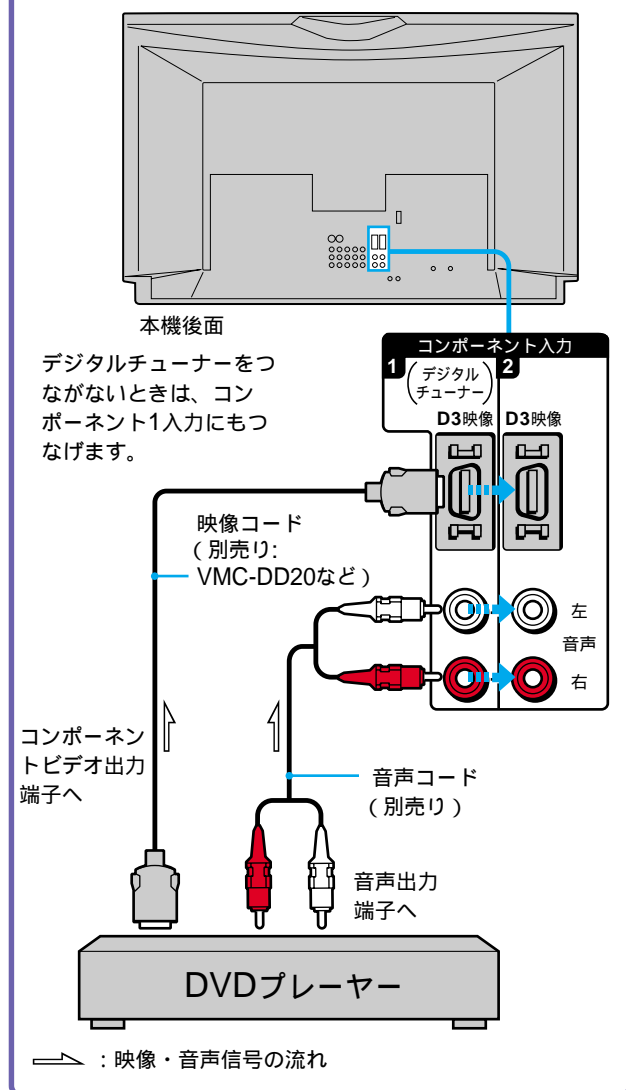
ビデオボタンをくり返し押して、テレビゲームをつないだビデオ入力(「ビデオ1」~「ビデオ4」のいずれか)を表示させる。
詳しくは、☞18ページをご覧ください。

ご注意

電子的なライフルやガン(銃)などで標的にして楽しむシューティングゲームなどは、本機の画面を使用できないことがあります。詳しくは、ゲームソフトの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーをつなぐ

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーは本機のコンポーネント入力端子につなぐと、より高画質の画像をお楽しみいただけます。
DVDプレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

DVDを見るには

コンポーネントビデオ出力端子のあるDVDプレーヤーのときは

コンポーネントボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント1（D端子）」、「コンポーネント2（D端子）」のいずれか）を表示させる。

コンポーネントビデオ出力端子のないDVDプレーヤーのときは

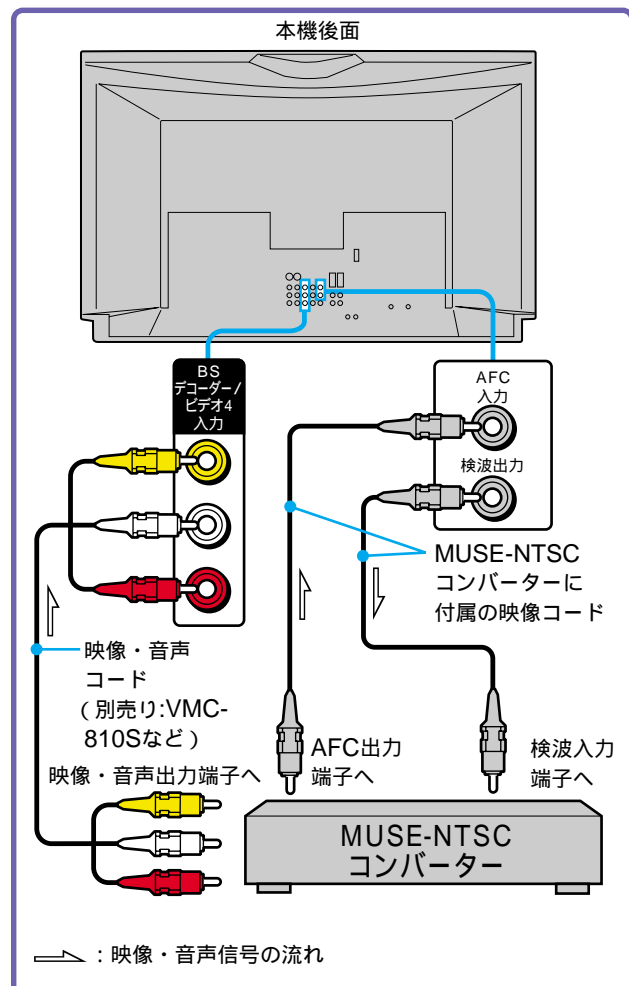
ビデオボタンをくり返し押して、DVDプレーヤーをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ4」のいずれか）を表示させる。

詳しくは、☞18ページをご覧ください。

MUSE-NTSC コンバーターをつなぐ

通常のテレビ放送と同等の画質（NTSC）で、ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を見られます。
MUSE-NTSCコンバーターの取扱説明書も必ずご覧ください。

本機リモコンのBS9ボタンでハイビジョン放送を見るには

BSデコーダー（WOWOW）をつながないときは、以下の接続と設定をしてください。本機リモコンのBS9ボタンで、ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を見ることができます。
MUSE-NTSCコンバーターとBSデコーダー（WOWOW）の両方をつなぐときは、次ページをご覧ください。

設定には本体のボタンを使います。

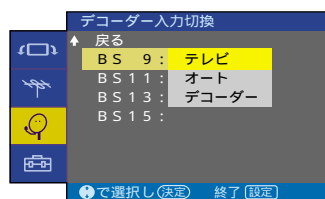
1 本機でBS放送を映す。

2 設定ボタンを押して、設定メニューを出す。

3 選択⇧/⇩ボタンで「 (BS設定)」を選び、決定ボタンを押す。

4 選択⇧/⇩ボタンで「デコーダー入力切換」を選び、決定ボタンを押す。

5 選択⇧/⇩ボタンで「BS9」を選び、決定ボタンを押す。

「BS9」は、⇩ボタンを押し続けると出てくる画面にあります。

6 選択⇧/⇩ボタンで「デコーダー」を選び、決定ボタンを押す。

7 選択⇧/⇩ボタンで「BS5」を選び、決定ボタンを押す。

8 選択⇧/⇩ボタンで「テレビ」を選び、決定ボタンを押す。

9 設定ボタンを押して、設定メニューを消す。

10 MUSE-NTSCコンバーターで、画面モードを「フル」にする。

MUSE-NTSCコンバーターの取扱説明書もご覧ください。

11 本機リモコンのBS9ボタンを押す。

ハイビジョン放送が映ります。

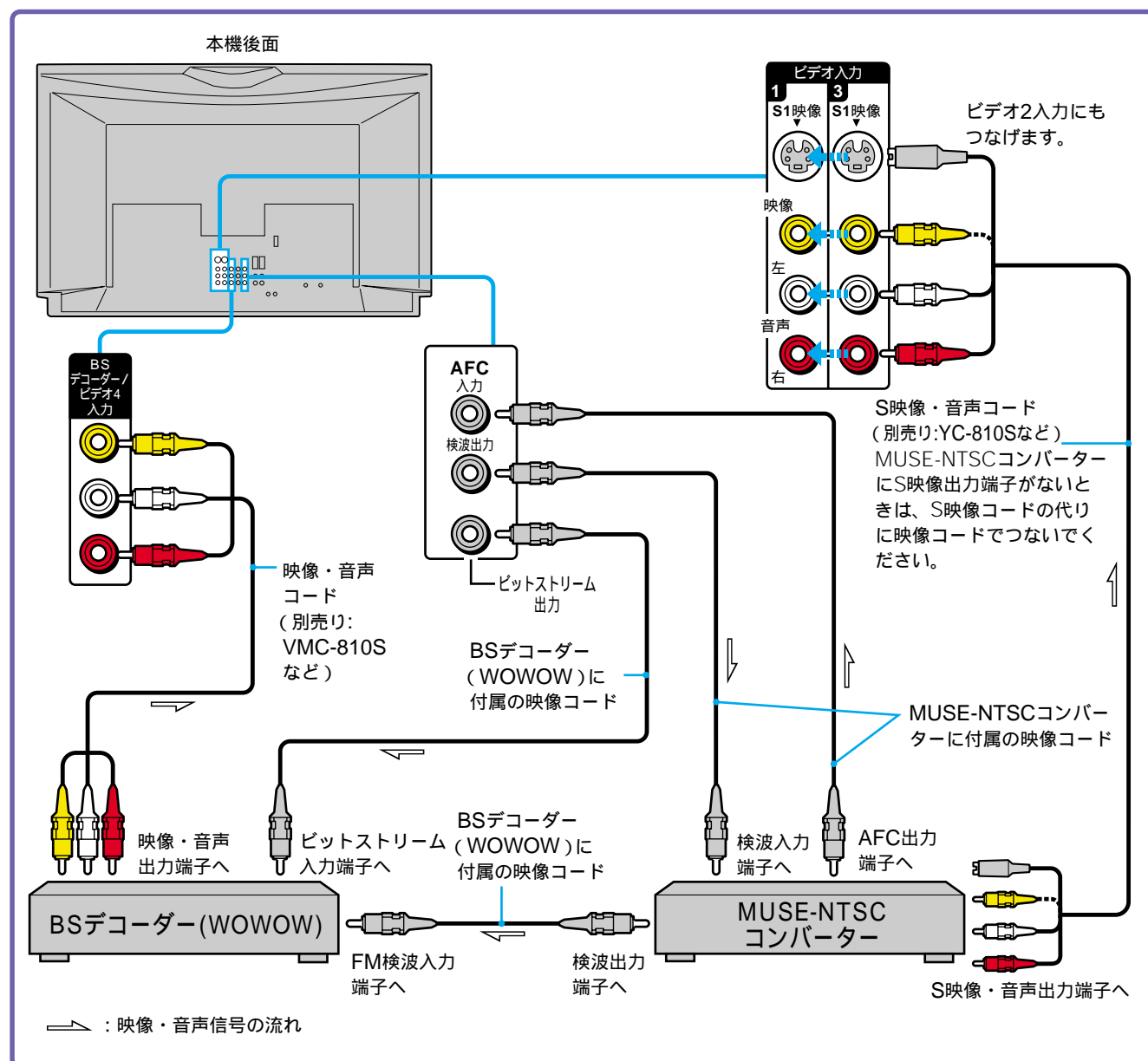
ご注意

MUSE-NTSCコンバーターによっては、ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を見るときにオートワイドが正しく働かないことがあります。このときは、ワイド切換ボタンをくり返し押して、画面モードを選んでください。

ちょっと一言

お買い上げ時「デコーダー入力切換」は、すべてのBSチャンネルとも「オート」に設定されています。「オート」にすると、デコーダー入力端子につないだ機器から入るWOWOWなどBS放送のスクランブルを、自動的に判別して映します。

MUSE-NTSCコンバーターとBSデコーダー（WOWOW）の両方をつなぐときは

以下の接続をしてください。また、MUSE-NTSCコンバーターとBSデコーダー（WOWOW）の取扱説明書も必ずご覧ください。

ハイビジョン放送を見るには

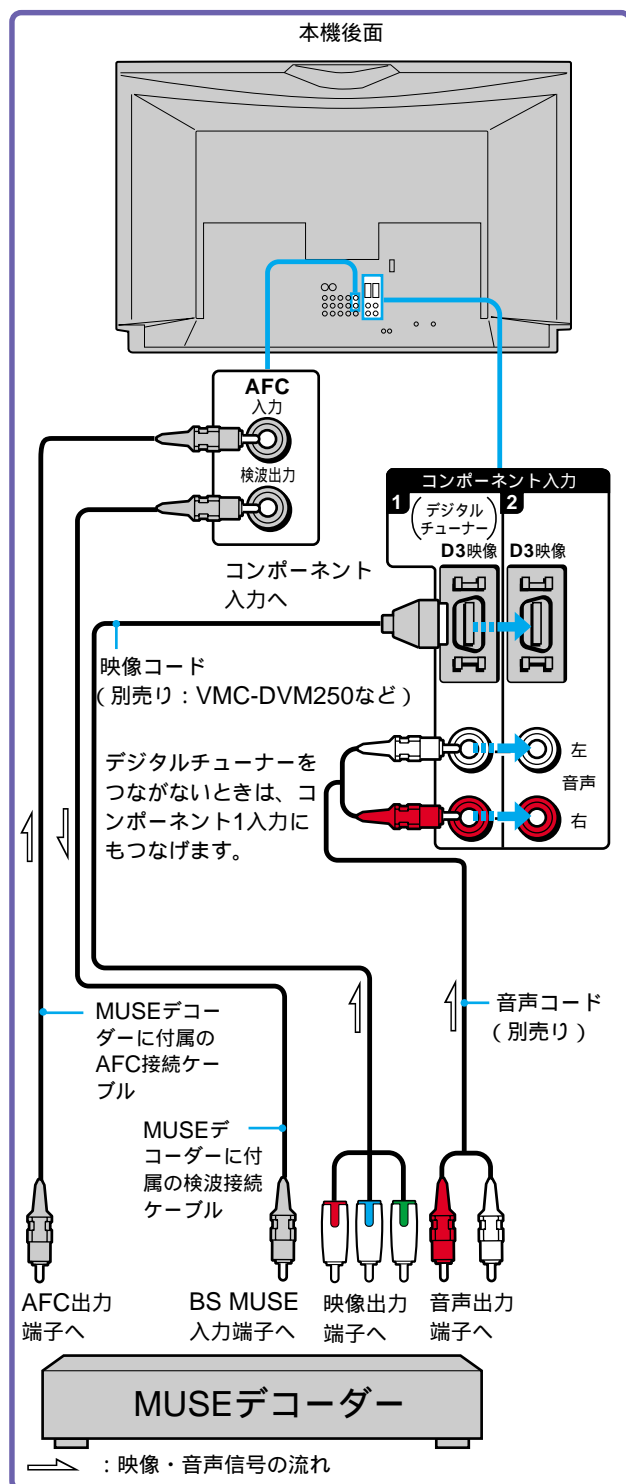
1 **本機リモコンのBS9ボタンを押す。**

2 **MUSE-NTSCコンバーターをつないだビデオ入力（「ビデオ1」～「ビデオ3」のいずれか）を表示させる（☞18ページ）。**

3 **MUSE-NTSCコンバーターで、画面モードを「フル」にする。**
詳しくは、MUSE-NTSCコンバーターの取扱説明書をご覧ください。

ご注意
- この接続では、本機リモコンのBS9ボタンを押すだけでは、ハイビジョン放送は映りません。MUSE-NTSCコンバーターがビデオ入力端子に接続されているためです。
- MUSE-NTSCコンバーターによっては、ハイビジョン放送（BS9チャンネル）を見るときにオートワイドが正しく働かないことがあります。このときは、ワイド切換ボタンをくり返し押して、画面モードを選んでください。

MUSEデコーダーをつなぐ

本機はMUSEデコーダーをつないで、ハイビジョン放送をより高画質で見ることができます。MUSEデコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ハイビジョン放送を見るには

1 MUSE**デコーダーで、本機をつないだ入力を選ぶ。**

2 **本機のリモコンの**BS9**ボタンを押す。**

3 **コンポーネントボタンをくり返し押して、**MUSE**デコーダーをつないだコンポーネント入力（「コンポーネント**1（D**端子）」、「コンポーネント**2（D**端子）」のいずれか）を表示させる（☞**18**ページ）。**

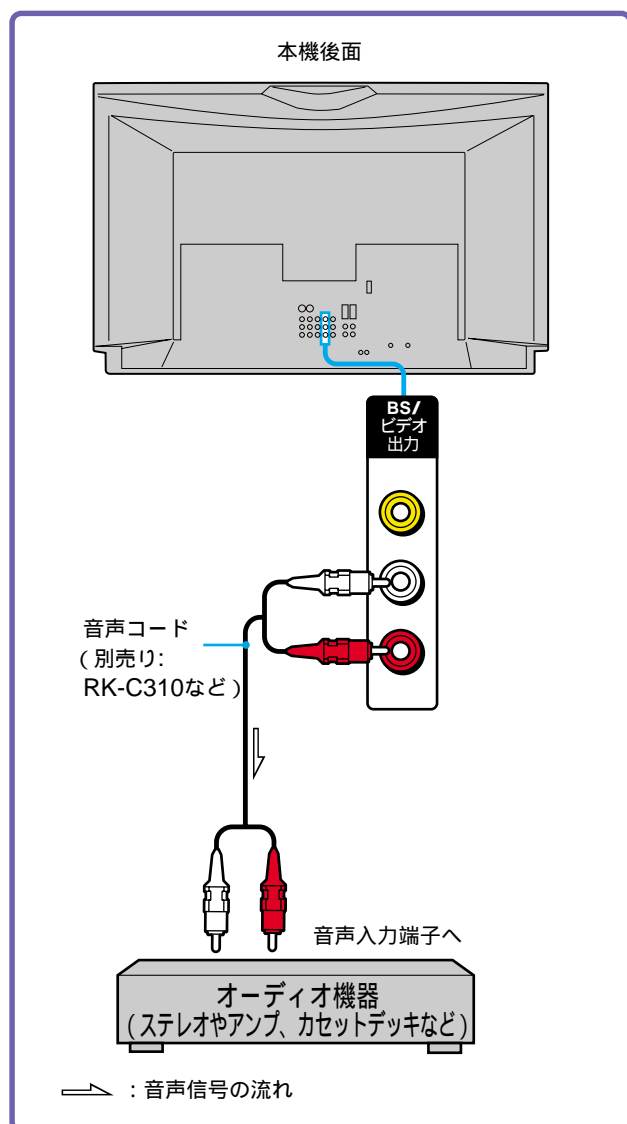
詳しくは、MUSEデコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

本機はコンポーネント入力端子につないだ機器の画像の表示を自動的に切り換えます（HDモード）。

詳しくは、☞51ページをご覧ください。

オーディオ機器をつなぐ

つないだオーディオ機器でテレビの音量を調整したり、つないだスピーカーからテレビの音声を聞いたりできます。
オーディオ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ちょっと一言

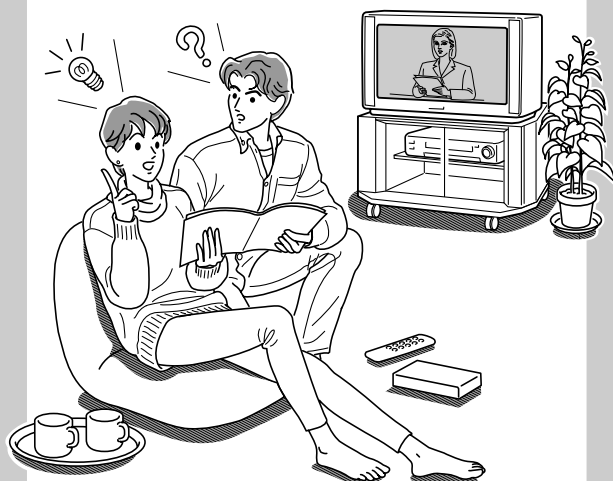
- コンポーネント入力につないだ機器の音声信号も出力できます。ただし、映像信号は出力されません。
- お買い上げ時は、ビデオ1入力につないだ機器の信号は出力しない設定になっています。ビデオ1入力につないだ機器の映像および音声を出力するときは、設定メニューの「(初期設定)」で、「ビデオ出力設定」を「ビデオ1あり」にしてください(☞53ページ)。

ご注意

テレビの音量や音質の設定を変えても、オーディオ機器の音量や音質の設定は変わりません。

他機との接続

その他

ここでは、本機が正常に動かないときに解決する方法や、お手入れのしかたなどについて説明しています。
また、各部の名前や索引を使って、知りたい情報を探すこともできます。

故障かな？ と思ったら

修理に出す前に、もう1度、点検をしてください。それでも、正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

テレビ本体の型名：

ケーブイ　ディーアールエックス　ケーブイ　ディーアールエックス
KV-28DRX7, KV-32DRX7,
ケーブイ　ディーアールエックス
KV-36DRX7

画面サイズ（番号）がどれかわからないときは、保証書に記載されている型名をお知らせください。

リモコンの型名：

アールエム　ジェイ
RM-J239

故障の状況：できるだけくわしく

購入年月日：

自己診断表示ー画面が消え、スタンバイ/オフタイマーランプが点滅したら

本機には自己診断表示機能がついています。これは本機に異常が起きたときに、スタンバイ/オフタイマーランプの点滅およびその回数でテレビの状態をお知らせし、よりスムーズにサービス対応させていただくための機能です。スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点滅したら、下の手順にそって、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。ご相談の内容によっては、修理が必要な場合があります。

1 スタンバイ/オフタイマーランプの点滅回数を数えてください。3秒おきに点滅します。
たとえば、2回点滅→3秒あき→2回点滅…この場合の点滅回数は2回です。
2 テレビ本体の電源スイッチで電源を切り、電源コンセントを抜いてから、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に点滅回数を知らせてください。

本機の症状と対処のしかた

症状		対処のしかた
画像が出ない	**すべてのチャンネルが映らない。**	• 電源コードをしっかりつないでください。 • テレビ本体の電源を入れてください。 • アンテナ線をしっかりつないでください。
	特定のチャンネルだけが映らない。	• チャンネルを合わせ直してください（☞38ページ）。
	テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた(スタンバイ状態になった)。	• テレビの消し忘れを防ぐため、放送終了後（2画面では操作画面、メモでは左画面、インデックス画面では親画面の放送終了後）、または放送のないチャンネルを受信している状態で約10分過ぎると、「オートシャットオフ」と表示されて、自動的にスタンバイ状態になります。 • オフタイマーを設定していませんでしたか?（☞30ページ）
	つないだ機器の画像が出ない。	• 接続コードをしっかりつないでください。 • リモコンの入力切換用のボタンを押してください（☞18ページ）。 • S映像入力のときは、メニューの「（各種切換）」で「S映像:入」にしてください（☞53ページ）。 • “プレイステーション 2”をAVマルチ入力端子につないでいるときは、“プレイステーション 2”のコンポーネント出力の設定を「RGB」にしてください。
BS放送が映らない／乱れる	BS**放送が映らない/画像が乱れている。**	**マンションなどの共同受信システムの場合** • 設定メニューの「（BS設定）」で「BSアンテナ電源:切」にしてください（☞42ページ）。 • サテライト分波器でVHF/UHFとBSを分けてください（☞35ページ）。 • ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 BS**アンテナを直接つないでいる場合** • 設定メニューの「（BS設定）」で「BSアンテナ電源」を「オート」または「連動」にしてください（☞42ページ）。 • BSアンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 • アンテナの大きさが適切かを確認してください。 • アンテナの前方に障害物があれば取り除いてください。 • アンテナの方向・角度を調整してください（☞44ページ）。 **複数のBS機器をサテライト分波器でつないでいる場合** • BSアンテナ用電源を供給する機器のスイッチを「入」にしてください。 **その他** • BSの放送時間を確認してください。 • 雨や雪が降ると、映りが悪くなることがあります。 • BS専用のケーブルを使ってください（☞36ページ）。 • アンテナコネクター（バルーン）を使っていないかを確認してください。 • WOWOWなどのスクランブル放送でないかを確認してください。
	BS**放送のチャンネルが切り換わらない。**	• BS固定にしていないかを確認してください（☞28ページ）。
	WOWOW**が映らない。**	• WOWOWを見るには、WOWOWと受信契約が必要です。詳しくはWOWOWへお問い合わせください。 • BSデコーダー（WOWOW）は、本機のBSデコーダー/ビデオ4入力端子につないでください。 • 設定メニューの「（BS設定）」の「デコーダー/ビデオ」を「デコーダー」にしてください（☞64ページ）。
	本機につないだBS**デジタルチューナーの映像に切り換えたときなどに、「この信号には対応していません」のメッセージが表示される。**	• 本機の故障ではありません。メッセージは約5秒前後で消え、BSデジタル放送をご覧いただけます。BSデジタルチューナーの種類によっては、BSデジタルチューナー側が出す識別制御信号を受けて、本機がメッセージを自動的に表示します。

次のページにつづく

故障かな？と思ったら（つづき）

症状		対処のしかた
きれいに映らない	画像が二重、三重になる。	• アンテナ線をしっかりつないでください。 • アンテナの位置、方向、角度を調整してください。 • 設定メニューの「（テレビ設定）」の「GR設定変更」で「GR:入」にしてください（☞47ページ）。
	雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。	• アンテナが風でこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 • アンテナの寿命を確認してください（通常3～5年、海辺では1～2年）。
	斑点や点模様が走る。	• ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
	色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。	• お好み画質ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞6ページ）。 • メニューの「（画質/音質）」で画質を調整してください。 • 「消費電力:減」のときは、画面が暗くなります（☞8ページ）。
	画面がまぶしい。	• お好み画質ボタンを押して、画質設定を選んでください（☞6ページ）。
	画面の一部に色むらがある。	• テレビをマンションの壁、金属スタンド、ビデオデッキまたはスピーカーなどから離して置いてください。 • テレビをしばらく見た後、テレビの向きを変えると色むらが発生することがあります。このときは、地磁気の影響を受けています。1度電源を切り、約30分後にテレビを見る向きにしてから電源を入れ直すと、自動消磁回路が働き、地磁気の影響が軽減されます。
	画像が傾いている、上下にかたよっている。	• 設定メニューの「（画像傾き補正）」で「傾き補正 回転」と「傾き補正 上下」を調整してください（☞37ページ）。
	縞状のノイズが多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。
	ビデオの再生/録画時に縦縞状のノイズが出る。	• ビデオヘッドが干渉しています。できるだけビデオをテレビから離して置いてください。
	AVマルチ入力端子につないだ“プレイステーション 2”、“プレイステーション”(PS one)および“プレイステーション”の画像がずれる。	• メニューの「（各種切換）」で「AVマルチ画面位置」を調整してください（☞65ページ）。
音が出ない／雑音が多い	画像は出るが、音が出ない。	• 音量が下がりきっていないか確認してください。 • 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 • ヘッドホンを抜いてください。
	雑音が多い。	• 付属のアンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるかを確認してください。 • アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 • 室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、使わないでください。 • 設定メニューの「（初期設定）」で「オートステレオ」を「切」にしてください（☞26ページ）。

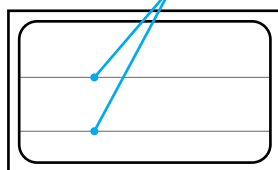
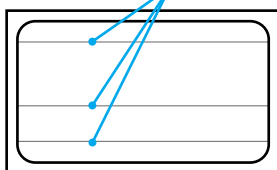
症状		対処のしかた
メニューが選べない／表示が消えない	メニューで選べない項目がある。	• 黒く表示されている項目は選べません（見ている画像の種類やメニューの設定によって、選べないように制約されています）。
	「BSアンテナ電源を確認してください」の表示が消えない。	• マンションなどの共同受信システムのときは、設定メニューの「(BS設定)」で「BSアンテナ電源」を「切」にしてから、いったんテレビの電源を切って、もう１度電源を入れ直してください（☞42ページ）。 • BSアンテナをつないでいるときは、「『BSアンテナ電源を確認してください』という表示が出たら」の項目（☞36ページ）をご覧になり、サテライト用同軸ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。それでも表示が消えないときは、テレビの電源を切り、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。
ワイド画面が切り換わる	オートワイドのときに画面モードが勝手に切り換わる。	• CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適なワイド画面を本機が判断しているためです（☞9ページ）。 • 識別制御信号のある画像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになるためです（☞9ページ）。 • オートワイドが働いているときに、ワイド切換ボタンでワイド画面を切り換えていませんか。チャンネルや入力を変えたりするとオートワイドが働き、自動的にワイド画面に切り換わります。ワイド切換ボタンで切り換えた画面モードで固定したいときは、オートワイドを「切」にしてください（☞21ページ）。
テレビから異音がする	「ピシッ」というきしみ音が出る。	• 周囲との温度差でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがありますが、本機に影響はありません。
	電源を入れたときにブーンという音がする。	• 地磁気などの影響を取り除く自動消磁機能の動作音です。ソニーのテレビは、トリニトロン管を使用しているため、音が大きく感じられることがありますが、異常ではありません。ご安心ください。
	テレビの電源を切った直後にテレビの後ろからパチパチ音がする。	• テレビ内部で発生する静電気が原因で、本機に影響はありません。
画面が一瞬光る	暗い部屋で電源を入れたときに、画面周辺が一瞬光って見える。	• ブラウン管内で、電源が入る際に発生する高電圧のために、ブラウン管内の蛍光部が光るためです。本機の性能その他に影響はありません。
リモコンが働かない	リモコンで操作できない。	• 電池を交換してください。 • 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 • 本体のスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯していないときは、本体の電源スイッチを押してください。 • リモコンをリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 • リモコン受光部の近くに蛍光灯などの強い照明があたっているときは、離して置いてください。
	リモコンのチャンネル数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ダイレクト選局の場合（☞46ページ）** • 設定メニューの「(テレビ設定)」の「選局」が「ダイレクト」になっているかを確認してください。 **10キー選局の場合（☞46ページ）** • 設定メニューの「(テレビ設定)」の「選局」が「10キー」になっているかを確認してください。 • 11チャンネルは①を2回、12チャンネルは①と②を続けて押してから、⑫/選局を押してください。 • チャンネル数字ボタンに続けて⑫/選局を押してください。

その他

ブラウン管表面のお手入れについて

ブラウン管表面が汚れているときは、市販のガラスクリーナー、または研磨剤の入っていない中性洗剤を水で薄め、柔らかい布に含ませ固く絞ってから、拭き取ってください。
表面を傷つけることがあるため、固い布の使用や、から拭きはやめてください。また、塩素系や塩酸などの酸性洗浄液や、クレンザーや歯磨粉など研磨剤入りの洗浄剤も使わないでください。

画面に細い横線が出たら（ダンパーワイヤー）

画像によっては、極めて細い水平線が見えることがあります。これは、ダンパーワイヤーと呼ばれる線材の影で、位置は下図に示されているとおりです。ダンパーワイヤーはトリニトロン管内部のアパチャーグリルの振動を抑えるために取り付けられており、より高画質な映像をお楽しみいただけるように工夫されたものです。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。ただし、ブラウン管代およびブラウン管の交換にともなう技術料、出張料は2年間無料です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について
当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後でも、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について
この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。
その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名：KV-28DRX7, KV-32DRX7, KV-36DRX7
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 **TEL.**
お近くのサービスステーション **TEL.**

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

主な仕様

システム

受信方式　NTSC方式
受信チャンネル　VHF 1〜12チャンネル
UHF 13〜62チャンネル
CATV C13〜C35（ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要）
BS1、3、5、7、9、11、13、15
ブラウン管*　KV-28DRX7:FDトリニトロン102度偏向28型
KV-32DRX7:FDトリニトロン102度偏向32型
KV-36DRX7:FDトリニトロン102度偏向36型

* テレビの型（28型など）は画面寸法を表すものではなく、ブラウン管の外径対角寸法を基準とした大きさの目安です。

画面寸法　KV-28DRX7:57.5×32.4、66cm対角
KV-32DRX7:66.2×37.3、76cm対角
KV-36DRX7:75.1×42.2、86.1cm対角
（幅×高さ、対角径）
使用スピーカー　KV-28DRX7:ウーファー10cm
フルレンジスピーカー（4×10cm楕円）
KV-32DRX7/36DRX7:ウーファー12cm
フルレンジスピーカー（5×9cm楕円）
音声出力　総合音声出力 24W

入出力端子

アンテナ端子　VHF/UHF、BS IF 75Ω F型コネクター
（コンバーター用電源出力、DC15V最大4W）
ビデオ1、2、3入力端子
S1映像:
4ピンミニDIN
Y:1Vp-p、75Ω、不平衡、同期負
C:0.286Vp-p（バースト信号）、75Ω
映像:ピンジャック、1Vp-p、
75Ω、不平衡、同期負
音声:ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス 47kΩ以上
BSデコーダー/ビデオ4入力端子
映像:ピンジャック、1Vp-p、
75Ω、不平衡、同期負
音声:ピンジャック、2チャンネル
500mVrms
入力インピーダンス 47kΩ以上
コンポーネント1、2入力端子
D3映像:
Y:1Vp-p（0.3V負同期付き）
C_B/C_R:±350mVp-p
入力インピーダンス 75Ω
音声:ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms、インピーダンス
47kΩ以上
AVマルチ入力端子　12ピン
BS/ビデオ出力端子　映像:ピンジャック、1Vp-p、
75Ω、不平衡、同期負
音声:ピンジャック、2チャンネル、
500mVrms
インピーダンス 4.7kΩ以下
テレビ放送の音声の100%変調時、またはBS放送の最大出力
–12dB時の数値です。
ヘッドホン端子　ステレオミニジャック
負荷インピーダンス16Ω以上
検波出力端子　ピンジャック、75Ω、0.67Vp-p
ビットストリーム出力端子
ピンジャック、75Ω、0.5Vp-p
AFC入力端子　ピンジャック、75Ω
コントロールS入出力端子
ミニジャック

電源部・その他

消費電力　KV-28DRX7:220W
KV-32DRX7:220W
KV-36DRX7:240W
消費電力（リモコン待機時）:KV-28DRX7/32DRX7/36DRX7
共通です。
BS固定が「切」：0.03W
BS固定が「入」：12.0W
年間消費電力量**　KV-28DRX7:280kWh/年
KV-32DRX7:280kWh/年
KV-36DRX7:300kWh/年

** 年間消費電力量とは:省エネルギー法に基づいて、型サイズや受信機の種類別の算定式により、一般家庭での平均視聴時間（4〜5時間）を基準に算出した、一年間に使用する電力量です。

最大外形寸法　KV-28DRX7:75.4×49.6×52.5cm
KV-32DRX7:87.4×56.3×57.2cm
KV-36DRX7:95.8×61.3×59.2cm
（幅×高さ×奥行き）
質量　KV-28DRX7:約48.8kg
KV-32DRX7:約67.4kg
KV-36DRX7:約87.5kg
電源　AC100V、50/60Hz
付属品　リモートコマンダー　RM-J239（1）
乾電池　単3形（2）
アンテナ接続ケーブル（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）
安全のために（1）
安全点検のおすすめ（1）

別売りアクセサリー

テレビスタンド　KV-28DRX7:
SU-F200S、SU-F200P、SU-F200、SU-28V
KV-32DRX7:
SU-F300S、SU-F300P、SU-F300、SU-32V
KV-36DRX7:
SU-F300S、SU-F300P、SU-F300
ステレオヘッドホン
MDR-AV55
テレビラック固定ベルト
BLT-R10
BSアンテナなど
接続ケーブルなど

- 本機は「高調波ガイドライン」適合品です。「高調波ガイドライン」適合品とは、通商産業省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。
- 本機は米国BBE社の所有する特許USP4638258と4482866を使用しています。
BBEとBBEのシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。
- このテレビは日本国内用ですから、電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語集

五十音順

ア行

アンテナレベル

BSアンテナから入ってくる電波の強さです。天候や気温、時間帯、アンテナ接続ケーブルの長さなどによって影響を受けます。

インターレース（飛び越し走査）

走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。
本機のDRC-MFモード切換ボタンで選べる「DRC4倍密（標準）モード」は、走査線を通常のNTSC映像の2倍の1050本にして、1フィールド目で走査線の525本全部（本来の1フレーム分）を1/60秒で描き、次のフィールドは、1フィールド目の間を525本で飛び越し走査します。

カ行

ケーブルテレビ（CATV）

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。通常のテレビ番組やBS放送に加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

検波

放送衛星から送られてくるFM電波を復調することです。

ゴースト

放送局からの電波が、テレビアンテナに届く前に、建物や地形の影響で妨害波となり、時間がズレて二重、三重に受信されることです。そのため、正しく送られてきた画像に妨害波の画像が重なって表われた、見にくい画面となります。

サ行

三次元Y/C分離回路

本機で使っている回路の1つで、映像信号を構成するY信号とC信号を別々に処理し、より鮮明な画像を再現します。

シネマビジョン

画面の横縦比が2.35:1になっている映像ソフトのことです。一般的には黒帯に字幕が入る映画などに使われています。

スクランブル

映像、音声の信号を暗号化することです。民間BS放送（WOWOWなど）では、契約者以外は視聴できないように、電波にスクランブルをかけて（暗号化して）送信しています。スクランブルのかかった放送を視聴するためには、スクランブルを解除する機器（デコーダーなど）が必要です。

走査線

テレビは、左から右へ流れる電子ビームを上から下へ送ることで画面を作っています。この電子ビームが作る線を走査線と呼び、走査線によって、どのように画面を作っていくかで、インターレースやプログレッシブなどの方式があります。

タ行

チューナー

電波を受信して各チャンネルに合わせるための機器です。本機はテレビチューナーおよびBSチューナーを内蔵しています。

デジタル・リアリティー・クリエーション:マルチファンクション（DRC-MF）

テレビ放送やビデオなどのNTSC映像を、ソニー独自のデジタル信号処理アルゴリズムによって、高精細なリアル映像につくり換えます。従来の線形補間方式の処理とは全く異なり、動画部分の輪郭のボケが少ないスッキリとした画像になります。また、映像によって、通常のNTSC映像の4倍の情報量で映し出す「DRC4倍密（標準）モード」と、順次走査を行い、チラツキを抑えた映像にする「DRCプログレッシブモード」を切り換えられます。

デジタルCS放送

通信衛星を使ったCS放送の一種です。従来のアナログCS放送とは違い、映像や音声をデジタル化することで、大量の情報を扱えます。これにより、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。

独立音声放送

民間BS放送（St. GIGAなど）の中には、1つのチャンネルで映像の音声とは別に、音声だけの放送が行われている場合があります。これが独立音声放送です。

ハ行

ビスタビジョン

画面の横縦比が1.85:1になっている映像ソフトのことです。一般的には画像の中に字幕が入る映画などに使われています。

ビットストリーム

BS放送で送られてくる電波のデジタル信号（音声とデータ）です。データ信号は、文字放送などに使われています。

プログレッシブ（順次走査）

飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フィールド目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフィールドも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。
本機のDRC-MFモード切換ボタンで選べる「DRCプログレッシブモード」は、走査線525本の順次走査を行い、静止画の文字やグラフィック、横線などの多い画像で、チラツキを抑えた映像にします。

ヤ行

有効走査線数

走査線のうち、映像信号が載っている走査線の数のことを言います。通常のテレビ放送やBS放送では、525本ある走査線のうち有効走査線数は480本です。現行のハイビジョン放送では同じく1125本中1035本、将来予定されているデジタルハイビジョン（HD）放送では、1125本中1080本となっています。なお、有効走査線に含まれていない残りの走査線（映像信号の載っていない走査線）には、画面の横縦比を規定した識別制御信号などが載っています。

数字・アルファベット順

BSデジタル放送

2000年12月に本放送開始予定の放送衛星を使って、デジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送、CD並みの高音質なラジオ放送などがあります。
BSデジタル放送を受信するには、別途BSデジタルチューナーが必要となります。

BSデコーダー（WOWOW）

WOWOWなど民間BS放送の電波にかかったスクランブルを解除する機器です。

D端子

デジタルCS放送や、将来予定されているBSデジタル放送などに対応したコンポーネント映像端子です。BSデジタルチューナーやデジタルCSチューナーなどと、1本のケーブルで簡単に映像信号を接続できます。コンポーネント映像で接続するため、より高画質な画像を楽しめます。D端子には対応する信号フォーマットによって、次の種類があります。
本機にはD3入力端子が付いてます。

- D1端子 :525i（480i）の信号に対応
- D2端子 :525i（480i）と525p（480p）の信号に対応
- D3端子 :525i（480i）と525p（480p)、1125i（1080i）の信号に対応

iはインターレース、pはプログレッシブの略です。
（ ）内は有効走査線数で数えたときの別称です。

ID-1方式（ビデオID-1システム）

ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。本機はID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、本機のビデオ1〜3入力端子、およびBSデコーダー/ビデオ4入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

MUSE-NTSC（M-N）コンバーター

MUSE方式のハイビジョン放送を現行の放送方式（NTSC）に変換するための機器です。画質は現行の放送方式（NTSC）と同等になります。

NTSC方式

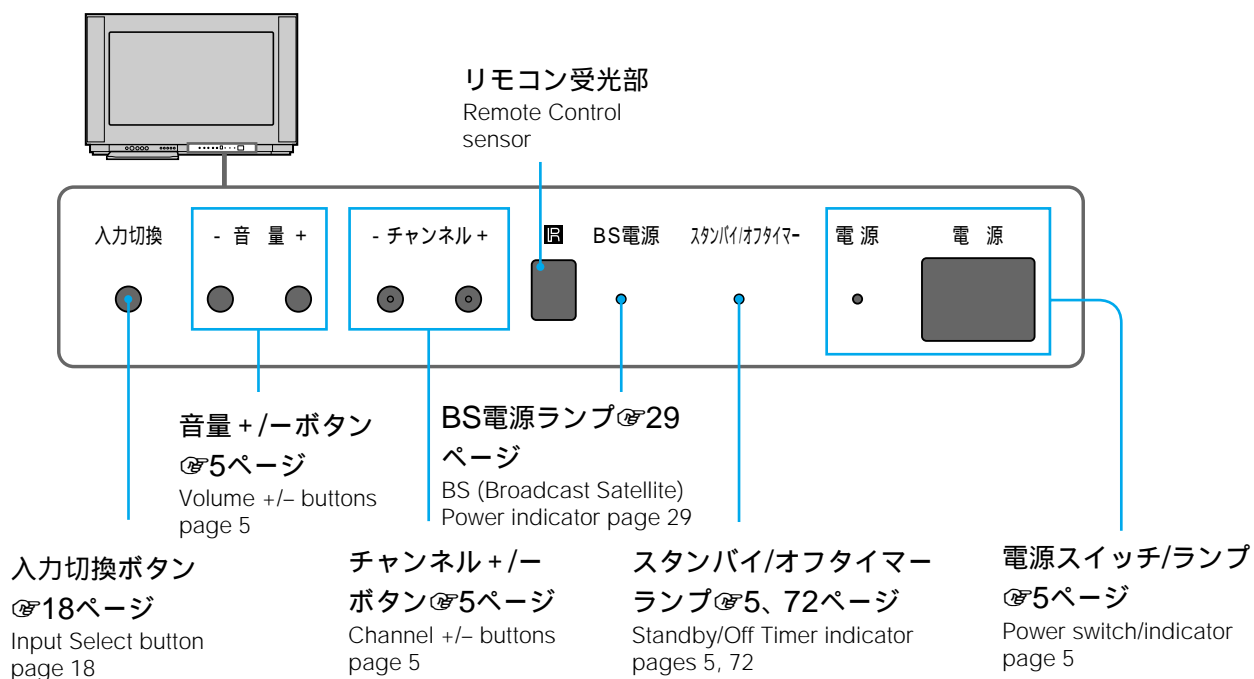
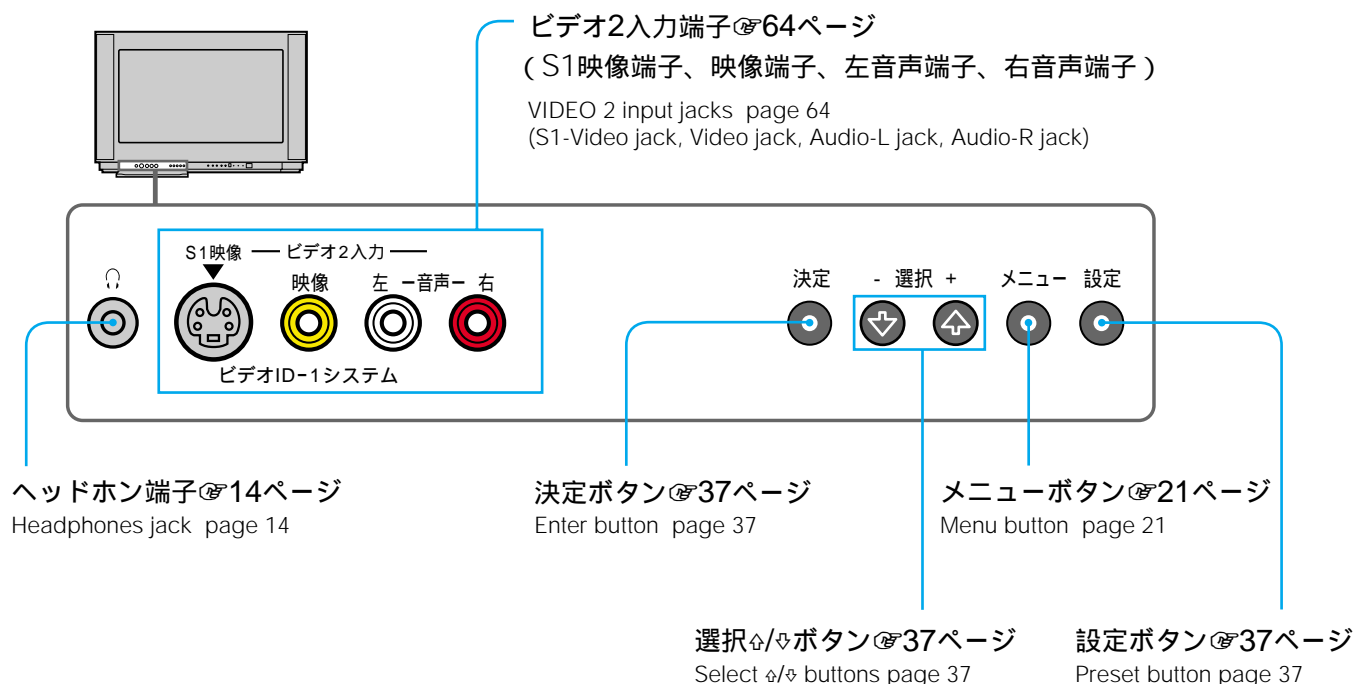
日本やアメリカなどで使われているカラーテレビ方式で、毎秒30コマ、水平走査線数525本などが特長です。アメリカの連邦テレビジョン方式委員会（National Television System Committee）が制定し、1954年に放送が正式に開始されました。欧州や中国などで使われているPAL方式やSECAM方式とは互換性がありません。

S1方式（S1映像）

S映像のC端子へ直流5Vを重畳することにより、画面の横縦比（16:9または4:3）の情報を記録するシステムの名前です。本機はS1方式に対応しています。S1映像出力端子が付いたビデオカメラなどを、本機のS1映像入力端子につなぐと、S1方式の画像となります。
ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

各部の名前/

Identifying parts and controls

本機前面/TV Front Panel

リモコン/Remote Control

画面表示ボタン☞4ページ
Display button page 4

消音ボタン☞4ページ
Mute button page 4

DRC-MF**モード切換ボタン☞7ページ**
DRC-MF Mode Selection button page 7

お好み画質ボタン☞6ページ
Favorite Picture button page 6

メニューボタン☞21ページ
Menu button page 21

↑/↓/←/→/決定/左拡大/右拡大
☞12、21ページ
↑/↓/←/→/Select/Left Enlarge/Right Enlarge pages 12, 21

入力切換用ボタン☞18ページ
ビデオボタン
コンポーネントボタン
AVマルチボタン
Input Select buttons page 18
Video button
Component button
AV Multi button

BS**チャンネルボタン**
☞5、28ページ
BS (Broadcast Satellite) Channel buttons pages 5, 28

音量＋/－ボタン☞5ページ
Volume +/– buttons page 5

ワイド切換ボタン☞10ページ
Wide Mode Select button page 10

二重音声ボタン☞26ページ
Audio Mode (Bilingual) button page 26

電源スイッチ☞5ページ
Power switch page 5

デジタルチューナー・コントロールボタン☞58ページ
Digital Tuner Control button page 58

消費電力ボタン☞8ページ
Power Saving button page 8

メモ☞17ページ
Memo button page 17

インデックスボタン☞15ページ
Index button page 15

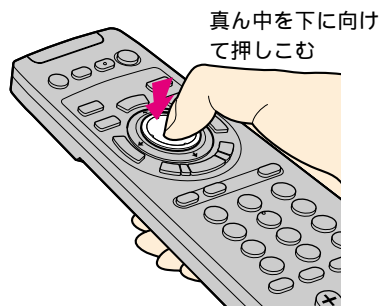
2**画面/左/右ボタン☞**11、12**ページ**
Picture-and-Picture/Left/Right Picture Operation buttons pages 11、12

チャンネル数字ボタン
☞5ページ
Channel Number buttons page 5

チャンネル＋/－ボタン☞5ページ
Channel +/– buttons page 5

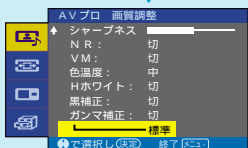
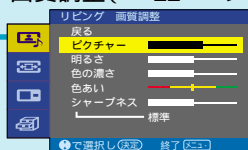
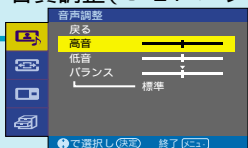
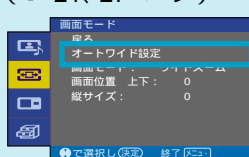
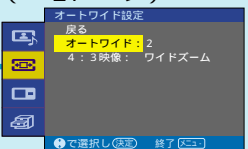
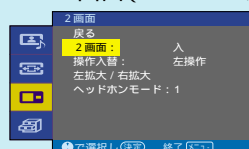
オフタイマーボタン☞30ページ
Off Timer button page 30

BS**固定ボタン☞29ページ**
BS Recording button page 29

その他

メニュー一覧

リモコンの メニュー を押すと出るメニュー

画質/音質
(☞ 22、24、27ページ)

画質 / 音質
戻る
DRC−MF： DRC４倍密・標準
お好み画質：リビング
画質調整
音質調整
で選択し 決定　終了 メニュー

画質調整（☞ 22ページ）

リビング　画質調整
戻る
ピクチャー
明るさ
色の濃さ
色あい
シャープネス
標準
で選択し 決定　終了 メニュー

ＡＶプロ　画質調整
シャープネス
ＮＲ：　切
ＶＭ：　切
色温度：　中
Ｈホワイト：　切
黒補正：　切
ガンマ補正：　切
標準
で選択し 決定　終了 メニュー

音質調整（☞ 24ページ）

音声調整
戻る
高音
低音
バランス
標準
で選択し 決定　終了 メニュー

画面モード
(☞ 21、27ページ)

画面モード
戻る
オートワイド設定
画面モード：　ワイドズーム
画面位置　上下：　0
縦サイズ：　0
で選択し 決定　終了 メニュー

オートワイド設定
(☞ 21ページ)

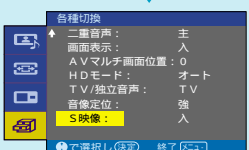
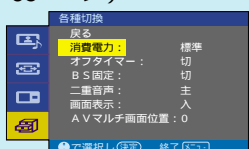
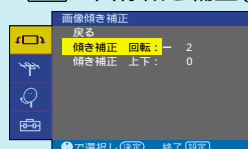
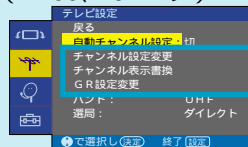
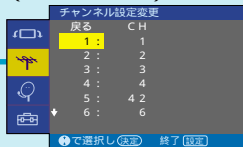
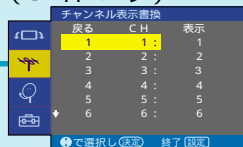
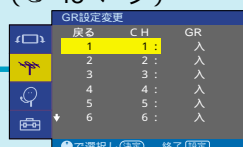
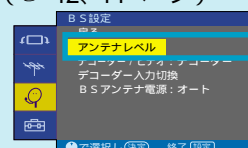
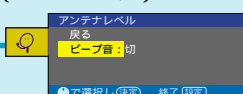
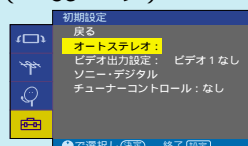
オートワイド設定
戻る
オートワイド：2
４：３映像：　ワイドズーム
で選択し 決定　終了 メニュー

2画面（☞ 11ページ）

２画面
戻る
２画面：　入
操作入替：　左操作
左拡大 / 右拡大
ヘッドホンモード：１
で選択し 決定　終了 メニュー

各種切換（☞ 25、53、64、65ページ）

各種切換
戻る
消費電力：　標準
オフタイマー：　切
ＢＳ固定：　切
二重音声：　主
画面表示：　入
ＡＶマルチ画面位置：０
で選択し 決定　終了 メニュー

各種切換
二重音声：　主
画面表示：　入
ＡＶマルチ画面位置：０
ＨＤモード：　オート
ＴＶ/独立音声：　ＴＶ
音像定位：　強
Ｓ映像：　入
で選択し 決定　終了 メニュー

- メニューは↑/↓/←/→で選び、真ん中を押しこむかまたは→で決定します。
- 黄色で表示される部分が選ばれています。
- 黒く表示される部分は選べません。

索引

五十音順

あ行

インデックス 15
衛星放送 .... BS参照
オートワイド 9
　切る 21
　設定する 21
お好み画質 6
オフタイマー 30
音質調整 24
音像定位 25

か行

各部の名前 80
画質調整 22
画像の傾き補正 37
画面位置調整
　" プレイステーション 2 "/
　"プレイステーション"(PS one) /
　" プレイステーション "の画面位置調整 65
　ワイド画像の上下位置調整 27
ケーブルテレビ 40
ゲーム 64
コントロールS端子 56
コンポーネント .... 56、57、60、65

さ行

自己診断表示 72
字幕入 9
主音声 26
消音 4
消費電力 8
ズーム 9
接続する
　オーディオ機器 71
　端子の名前とはたらき 49
　デジタルCSチューナー 60
　テレビ（VHF/UHF）アンテナ 34
　テレビゲーム 66
　早わかり 32
　ビデオ機器 52
　" プレイステーション 2 "/
　"プレイステーション"(PS one) /
　" プレイステーション ".......... 64
　BSアンテナ 36
　BSデコーダー（WOWOW） 62
　BSデジタルチューナー .... 56、57
　DVDプレーヤー 66
　MUSE-NTSCコンバーター 68
設定する
　選局方法 46
　チャンネル 38
　デコーダー入力切り換え 68
　S映像切り換え 52
節電 8

た行

ダイレクト選局 46
縦サイズ調整 27
チャンネル合わせ（設定） 38
　自動設定 38
　手動設定 40
　ダイレクト選局 46
　10キー選局 46
チャンネル表示書き換え 41
調整
　音質調整 24
　画質調整 22
　ワイド画面 27
　BSアンテナレベル 44
デジタル・リアリティー・
　クリエーション:マルチファンクション
　（DRC-MF） 7
デジタルCS放送 .... 60、61
テレビ（VHF/UHF）アンテナの接続 34
テレビゲーム 66
独立音声放送（St.GIGA） 64

な行

二重音声 26
入力切換 18
ノーマル 9

は行

ビデオ
　接続する 52
　見る 18
副音声 26
付属品 31
フル 9
ヘッドホンモード 14

ま行

メニュー一覧 82
メモ 17

ら行

リモコン
　各部の名前 81
　電池を入れる 31

わ行

ワイド切換 10
ワイドズーム 9

数字・アルファベット順

数字

2画面 11
10キー選局 46

アルファベット

AVマルチ画面位置 65
BS（衛星放送）
　裏録画する 28
　設定する 42
　見る 5
　予約録画 28
　録画のための接続 54
　BS固定 28
BSアンテナ 36
　アンテナレベルを調整する 44
　接続する 36
BSアンテナ電源 42
BSデコーダー（WOWOW） 62
BSデジタル放送 56
CATV 40
D端子 51
DRC-MF 7
DVDプレーヤー 66
GR（ゴースト・リダクション） 47
HDモード 51
MUSE-NTSCコンバーター 68
S映像切り換え 52
St.GIGA 64
VHF/UHFアンテナ 34
VHF/UHFのチャンネル設定 38
WOWOW 62

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ
● ナビダイヤル……………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
● 携帯電話・PHSでのご利用は…… 03-5448-3311
● Fax ……………………………… 0466-31-2595

受付時間：
月～金
9:00～20:00
土・日・祝日
9:00～17:00

http://www.sony.co.jp/

この説明書は再生紙を使用しています。

Printed in Malaysia

廃棄時にご注意願います。

2001年4月施行の家電リサイクル法では、お客様がご使用済みのテレビ（ブラウン管方式）を廃棄される場合は、収集・運搬料金と再商品化等料金をお支払いいただき、対象品を販売店や市町村に適正に引き渡すことが求められています。